

能代市 高齢者福祉・介護保険に関する
ニーズ調査

調査結果報告書

平成26年8月

能代市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査の方法	3
4 調査の実施時期	3
5 配布・回収の結果	3
6 報告書の表記及び注意点について	4
II 調査結果①【各設問の回答状況】	5
1 調査対象者の基本属性	7
（1）調査票記入者	7
（2）年齢	7
（3）性別	8
（4）居住地区	8
（5）要介護度	9
2 家族や生活状況について	10
（1）家族構成	10
（2）同居人数と同居者	10
（3）日中の生活状況	11
（4）介護・介助の必要性	11
（5）介護・介助が必要になった主な原因	12
（6）主な介護者	13
（7）主な介護者の年齢	13
（8）年金の種類	14
（9）現在の暮らしの状況	14
（10）住居の形態	15
（11）お住まいは、次のどれにあたりますか。（1つ）	15
（12）住まいは2階以上にあるか	16
（13）2階建て以上の住居のエレベーター設置の有無	16
3 運動・閉じこもりについて	17
（1）日常生活動作	17
（2）外出を控えているか	18
（3）外出を控える理由	18
（4）外出の頻度	19
（5）外出する際の移動手段	19
4 転倒について	20
（1）転倒に関すること	20
5 口腔・栄養について	21
（1）本人の身長・体重・BMI	21
（2）口腔・栄養	22
（3）入れ歯の有無	23
（4）入れ歯について	23
（5）1日の食事の回数	24
（6）食事を抜くことがあるか	24
（7）誰かと食事をする機会はあるか	25
（8）誰かと食事をする機会はあるか	25
6 物忘れについて	26
（1）物忘れ	26
（2）判断能力	26

(3) 意思の伝達	27
7 日常生活について	28
(1) 日常生活の状況①	28
(2) 日常生活の状況②	29
(3) 日常生活の状況③	30
(4) 日常生活の状況④	31
(5) 日常生活の状況⑤	32
(6) 日常生活の状況⑥	33
(7) 日常生活の状況⑦	34
8 社会参加について	35
(1) 社会参加について	35
(2) クラブ・グループ活動の参加頻度	36
(3) 社会参加活動や仕事の頻度	37
(4) 「たすけあい」について	38
(5) 家族や友人・知人以外の相談相手	39
(6) 友人関係について	39
9 健康について	41
(1) 主観的健康観	41
(2) 治療中の病気	42
(3) 服用中の薬の種類	43
(4) 通院の状況	43
(5) 通院の頻度	44
(6) 通院に介助を要するか	44
(7) 介護サービスの利用状況	45
(8) 飲酒の状況	46
(9) 喫煙の状況	46
(10) 最近2週間の心の状況	47
Ⅲ 調査結果②【項目別リスク分析】	49
1 運動器	51
(1) 男女・年齢階級別該当状況	51
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	51
2 閉じこもり	52
(1) 男女・年齢階級別該当状況	52
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	52
3 転倒	53
(1) 男女・年齢階級別該当状況	53
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	53
4 栄養	54
(1) 男女・年齢階級別該当状況	54
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	54
5 口腔	55
(1) 男女・年齢階級別該当状況	55
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	55
6 認知症予防	56
(1) 男女・年齢階級別該当状況	56
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	56
7 認知機能障害程度（C P S）	57
(1) 男女・年齢階級別該当状況	57
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	57
8 うつ予防	58
(1) 男女・年齢階級別該当状況	58
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	58
9 虚弱	59
(1) 男女・年齢階級別該当状況	59
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	59

10	基本チェックリスト得点	60
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	60
	(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	60
11	二次予防対象者	61
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	61
12	手段的自立度 (IADL)	62
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	62
	(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	62
13	生活機能総合評価	63
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	63
	(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	63
14	日常生活動作 (ADL)	64
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	64
	(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	64
	(3) ADL得点累積相対度数	65
15	知的能動性	66
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	66
	(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	66
16	社会的役割	67
	(1) 男女・年齢階級別該当状況	67
	(2) 認定状況・年齢階級別該当状況	67
IV	調査結果③【各地区のリスク該当状況】	69
	各地区の対象者の基本属性 (年齢・性別・要介護認定状況)	71
1	運動器	72
2	閉じこもり	72
3	転倒	73
4	栄養	73
5	口腔	74
6	認知症予防	74
7	認知機能障害程度 (CPS)	75
8	うつ予防	75
9	虚弱	76
10	基本チェックリスト得点	76
11	二次予防対象者	77
12	手段的自立度 (IADL)	77
13	生活機能総合評価	78
14	日常生活動作 (ADL)	78
15	知的能動性	79
16	社会的役割	79
	参考資料【判定方法】	81
	判定方法	83
1	基本チェックリスト	83
2	日常生活動作 (ADL)	86
3	日常生活	87

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成27年度から29年度を計画期間とする「能代市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画」を策定するにあたり、市民の日常生活の状況、身体の状態、健康づくりに対する意識、福祉・介護保険事業に関する意見などをうかがい、計画づくりの参考資料とし活用するために実施した。

2 調査の対象

調査対象については能代市に住む65歳以上の高齢者とし、年齢、男女、居住地区等の構成比を考慮した上で、層化無作為抽出法※により2,000サンプルを抽出した。

※母集団を調査区分ごとに地域や年齢・性別などの複数の層に分け、各層の人口に応じた比例配分によりサンプル数を定め、そこから無作為にサンプルを選び出す方法。

3 調査の方法

郵送による配布・回収

4 調査の実施時期

平成26年5月～6月

5 配布・回収の結果

配布数	①回収数 【回収率】	無効回答 (※)	②有効回答 【有効回答率】
2,000件	1,197件 【59.9%】	3件	1,194件 【59.7%】

※無効回答については、白紙またはそれに準ずるものを無効とした。

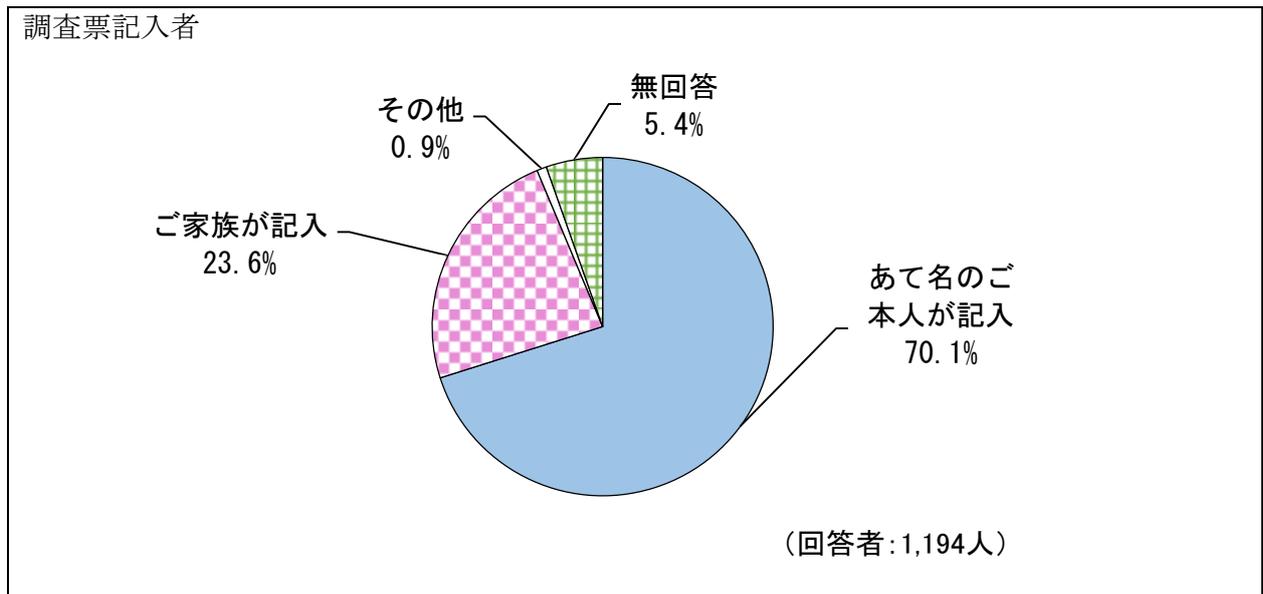
6 報告書の表記及び注意点について

1. 回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える場合がある。
3. 説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表している。
4. グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「回答者」と表記し、その数を表している。

Ⅱ 調査結果①【各設問の回答状況】

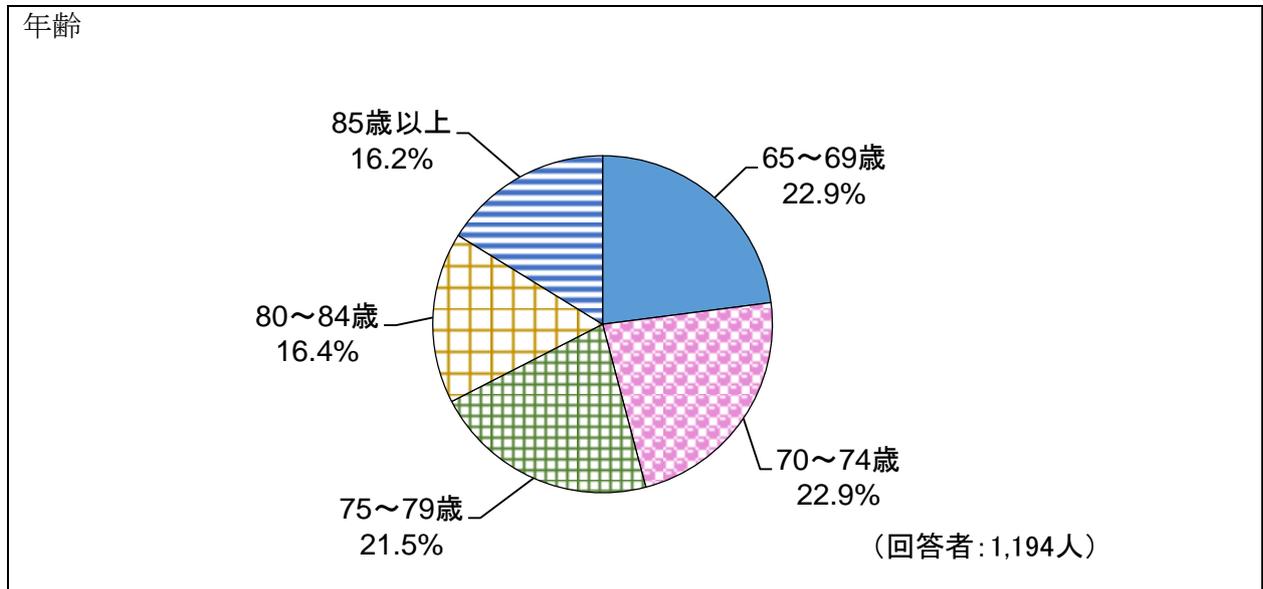
1 調査対象者の基本属性

(1) 調査票記入者



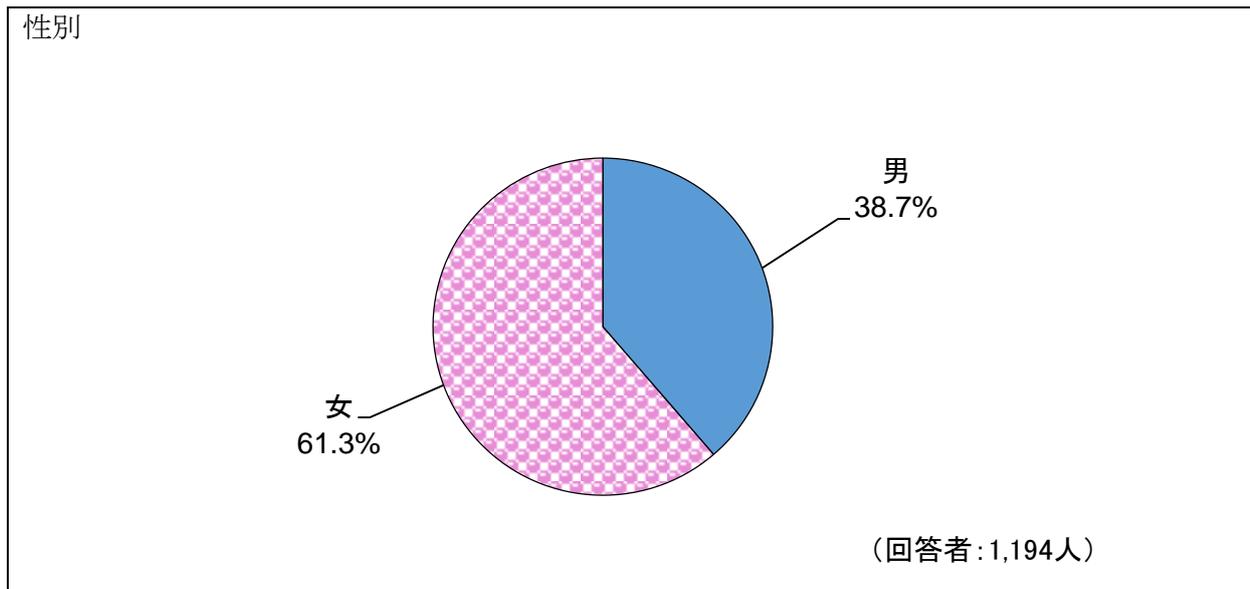
調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が70.1%で過半数を占めているほか、「ご家族が記入」が23.6%となっている。

(2) 年齢



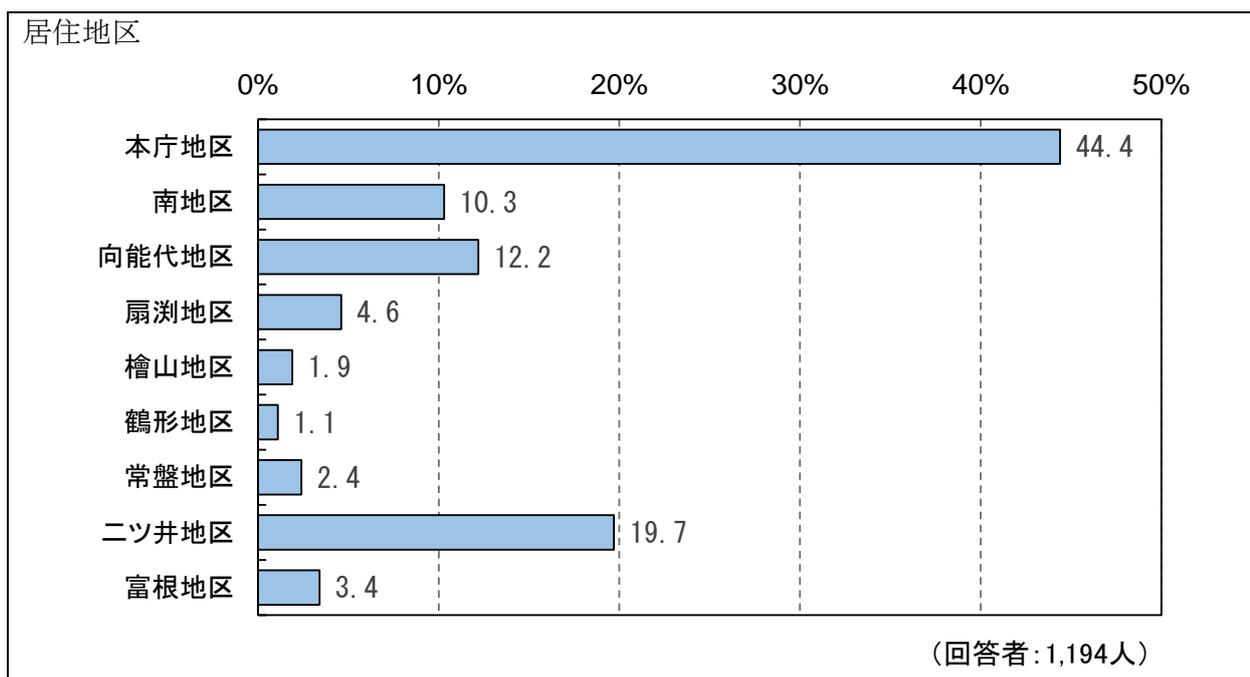
年齢は、「65～69歳」、「70～74歳」がいずれも22.9%で最も多く、以下、「75～79歳」(21.5%)、「80～84歳」(16.4%)、「85歳以上」(16.2%)と続いている。

(3) 性別



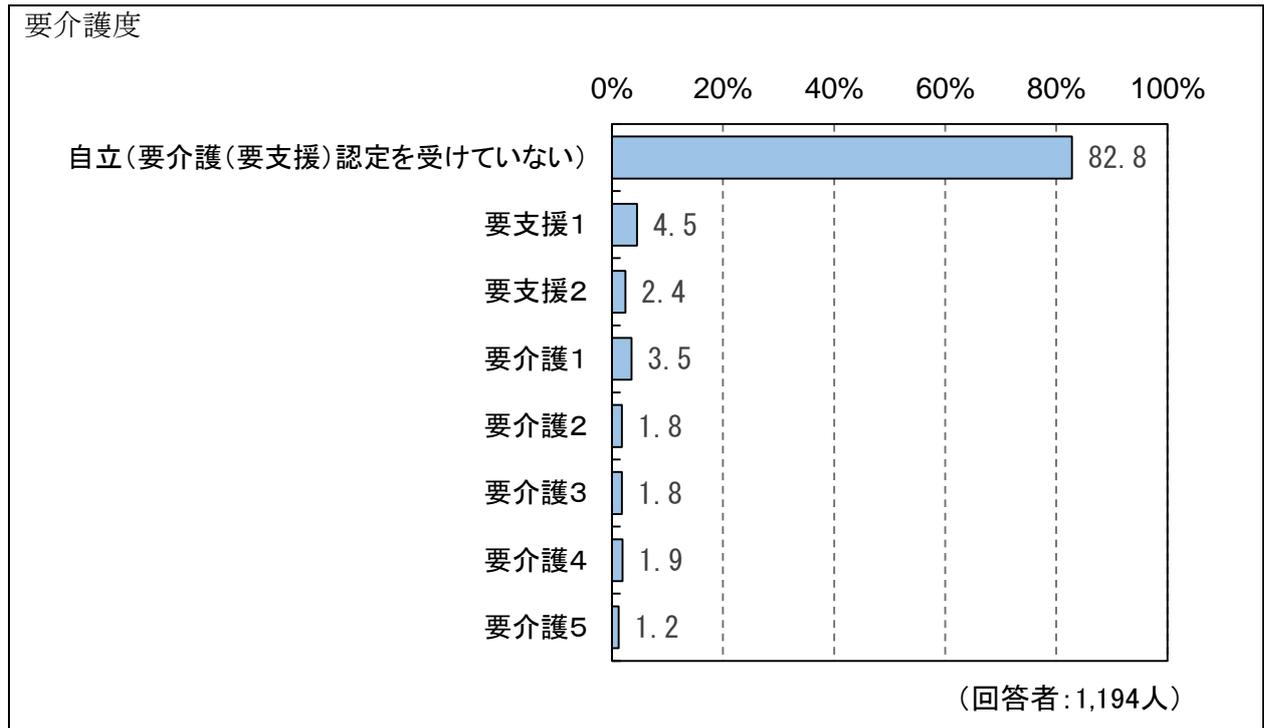
性別は「男」が38.7%、「女」が61.3%で、「女」の割合が「男」の割合を上回っている。

(4) 居住地区



居住地区は、「本庁地区」が44.4%で最も多く、以下、「二ツ井地区」(19.7%)、「向能代地区」(12.2%)、「南地区」(10.3%)、「扇淵地区」(4.6%)、「富根地区」(3.4%)、「常盤地区」(2.4%)、「檜山地区」(1.9%)、「鶴形地区」(1.1%)の順となっている。

(5) 要介護度



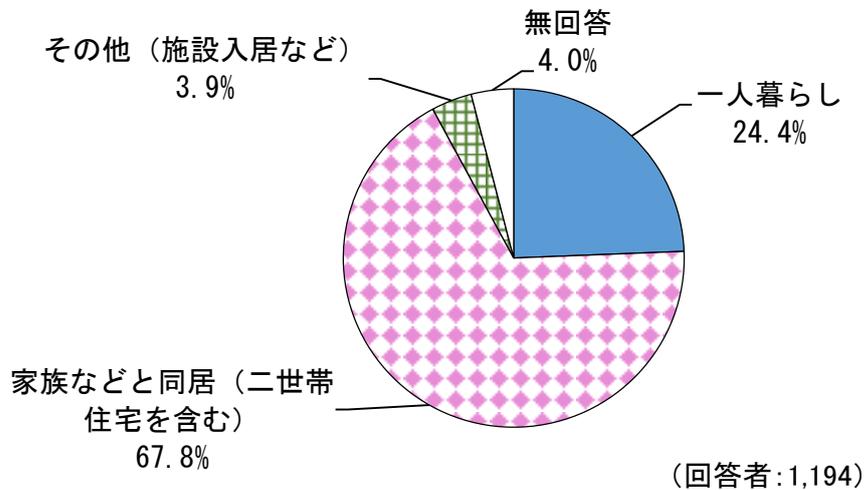
要介護度は、「要支援1」が4.5%で最も多く、以下、「要介護1」(3.5%)、「要支援2」(2.4%)、「要介護4」(1.9%)、「要介護2」、「要介護3」(いずれも1.8%)、「要介護5」(1.2%)、と続いている。

なお、82.8%が「自立(要介護(要支援)認定を受けていない)」と回答している。

2 家族や生活状況について

(1) 家族構成

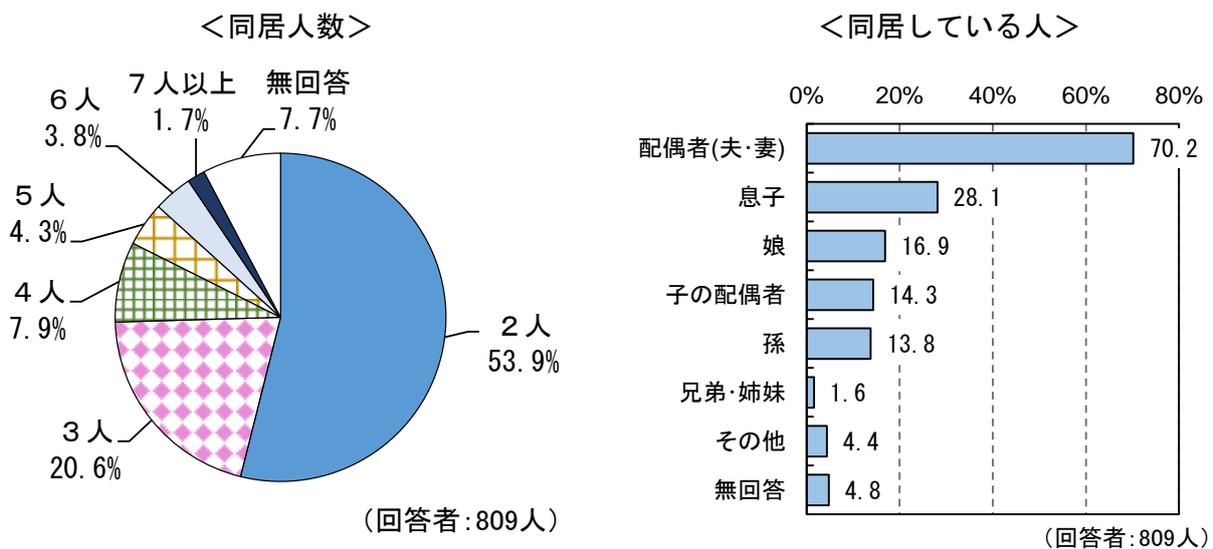
問1 家族構成をお教えてください。(1つ)



家族構成については、「家族など同居 (二世帯住宅を含む)」が67.8%で圧倒的に多く、以下、「一人暮らし」が24.4%、「その他 (施設入居など)」が3.9%となっている。

(2) 同居人数と同居者

問1-1 問1で「2. 家族など同居 (二世帯住宅を含む)」とお答えの方にお聞きます。ご自分を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか。(いくつでも)

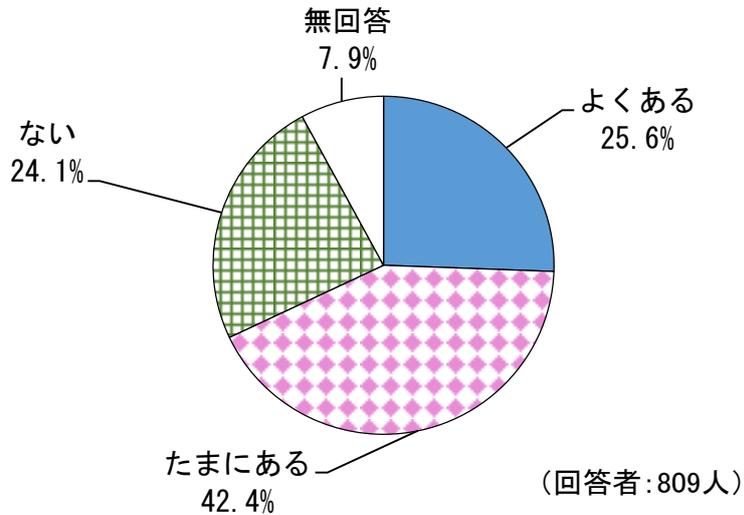


問1で「2. 家族など同居 (二世帯住宅を含む)」と回答した809人に、同居人数及び誰と同居しているかを尋ねたところ、同居人数については「2人」が53.9%で最も多く、以下、「3人」(20.6%)、「4人」(7.9%)、「5人」(4.3%)、「6人」(3.8%)などと続き、同居人数は多くなるにつれて構成比は少なくなっている。

同居している人については、「配偶者」が70.2%で最も多く、以下、「息子」(28.1%)、「娘」(16.9%)、「子の配偶者」(14.3%)、「孫」(13.8%)などが多くなっている。

(3) 日中の生活状況

問1-2 問1で「2. 家族などと同居（二世帯住宅を含む）」とお答えの方にお聞きします。
日中、あなた一人になることがありますか（1つ）

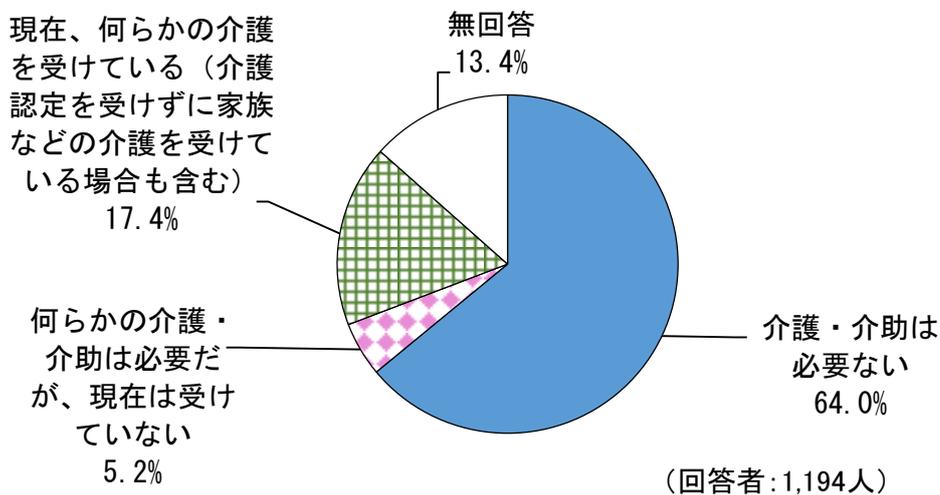


問1で「2. 家族などと同居（二世帯住宅を含む）」と回答した809人に、日中あなた一人になることがあるか尋ねたところ、「よくある」（25.6%）、「たまにある」（42.4%）、を合わせると、68.0%が「ある」と回答している。

また「ない」という回答は24.1%だった。

(4) 介護・介助の必要性

問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（1つ）

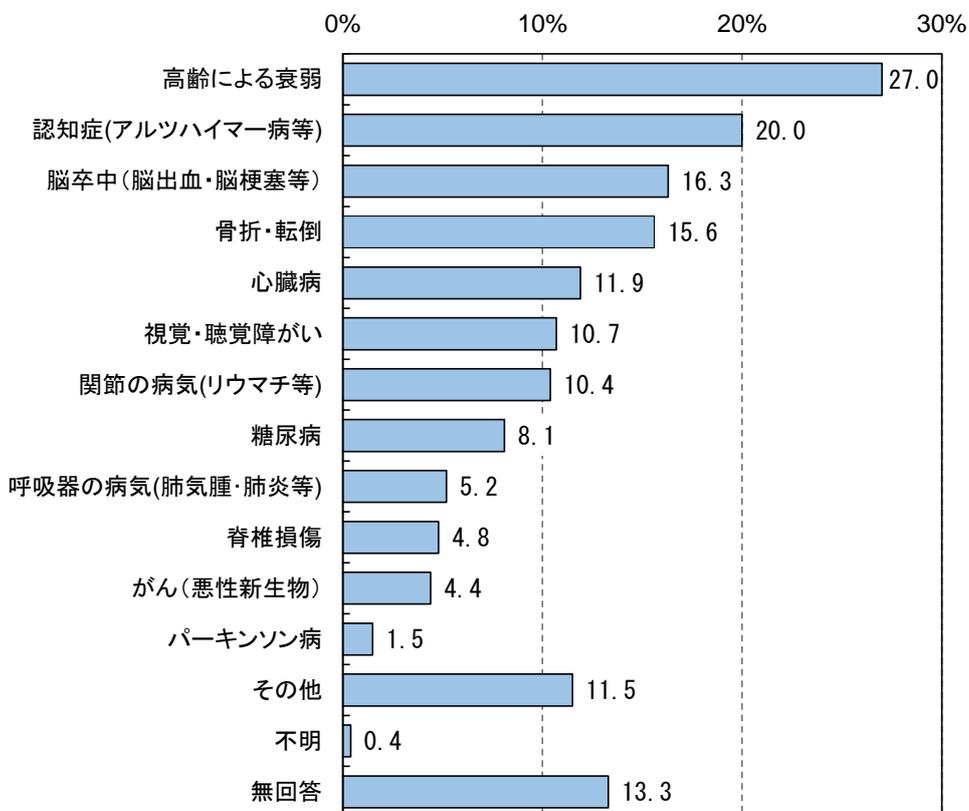


普段の生活で介護・介助が必要かでは、「介護・介助は必要ない」が64.0%と過半数を占めて最も多くなっており、以下、「現在、何らかの介護を受けている（※介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が17.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.2%となっている。

(5) 介護・介助が必要になった主な原因

問2-1 問2で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方にお聞きします。

介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも)

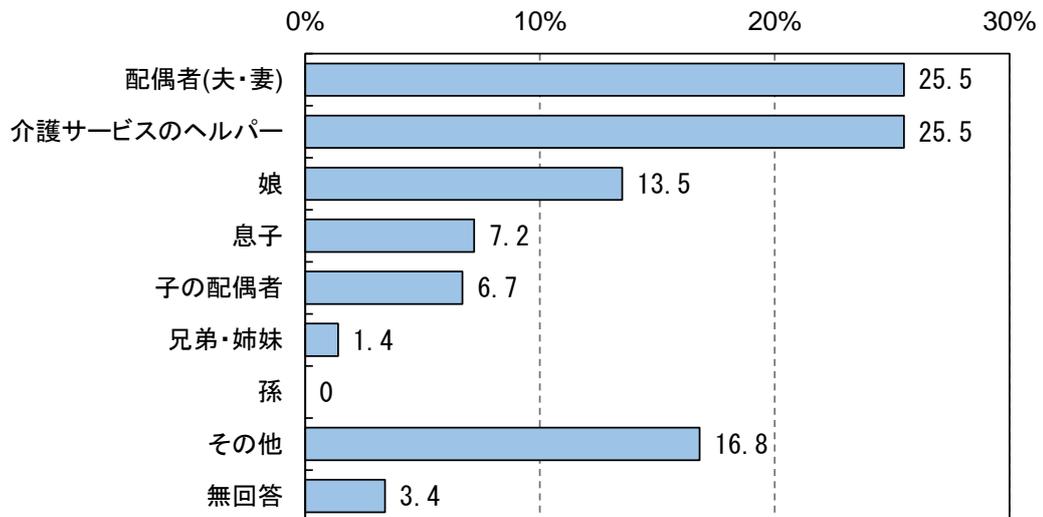


(回答者:270人)

問2で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した270人に、介護・介助が必要になった原因を尋ねたところ、「高齢による衰弱」が27.0%で最も多く、以下、「認知症(アルツハイマー病等)」(20.0%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(16.3%)、「骨折・転倒」(15.8%)、「心臓病」(11.9%)、「視覚・聴覚障害」(10.7%)、「関節の病気(リウマチ等)」(いずれも10.4%)、「糖尿病」(8.1%)、「呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)」(5.2%)などが比較的多く挙げられている。

(6) 主な介護者

問2-2 問2で「3. 現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方にお聞きします。主にどなたの介護・介助を受けていますか。(1つ)

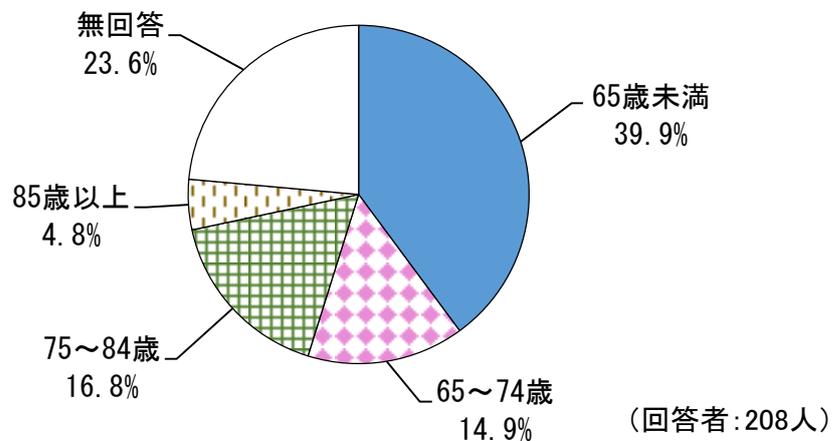


(回答者:208人)

問2で「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した208人に、主な介護者・介助者を尋ねたところ、「配偶者(夫・妻)」、「介護サービスのヘルパー」がいずれも25.5%で最も多く、以下、「娘」(13.5%)、「息子」(7.2%)、「子の配偶者」(6.7%)、「兄弟・姉妹」(1.4%)と続いている。なお、16.8%を占める「その他」については、施設職員あるいは施設、グループホームなどの回答が多くみられた。

(7) 主な介護者の年齢

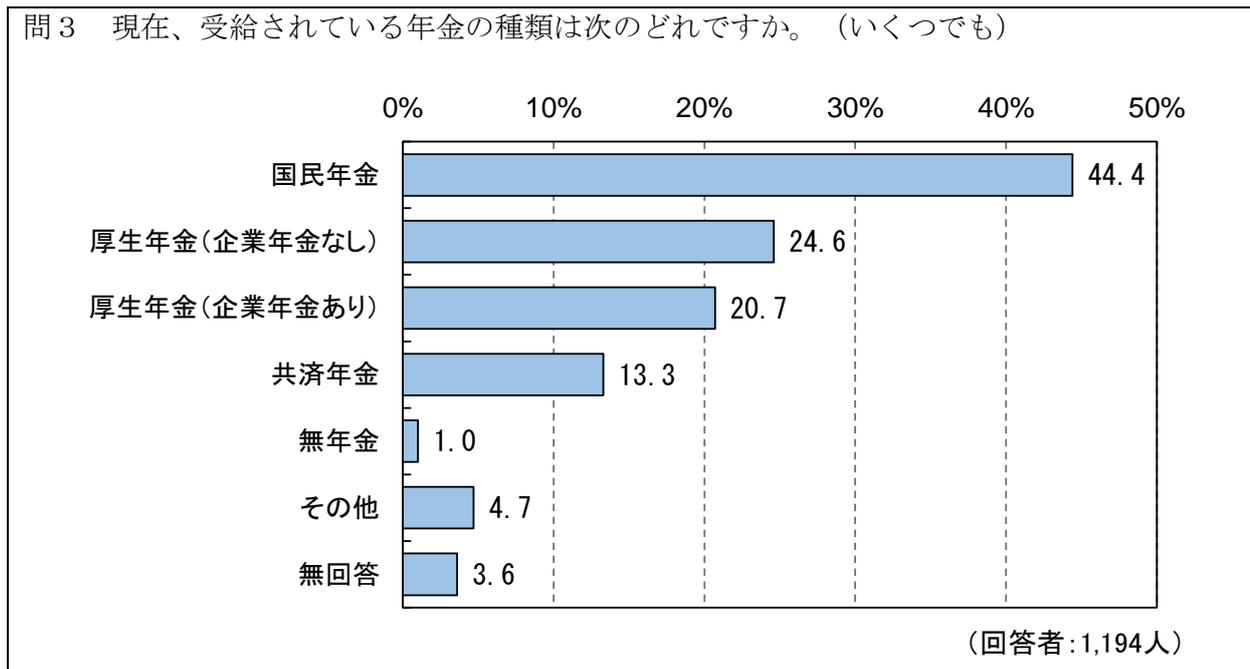
問2-3 問2で「3. 現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方にお聞きします。主に介護・介助している方の年齢は、次のどれですか。(1つ)



(回答者:208人)

問2で「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した208人に、主な介護者・介助者の年齢を尋ねたところ、「65歳未満」が39.9%で最も多く、以下、「75~84歳」(16.8%)、「65~74歳」(14.9%)、「85歳以上」(4.8%)となっており、約4割弱が65歳以上の高齢者による介護となっている。

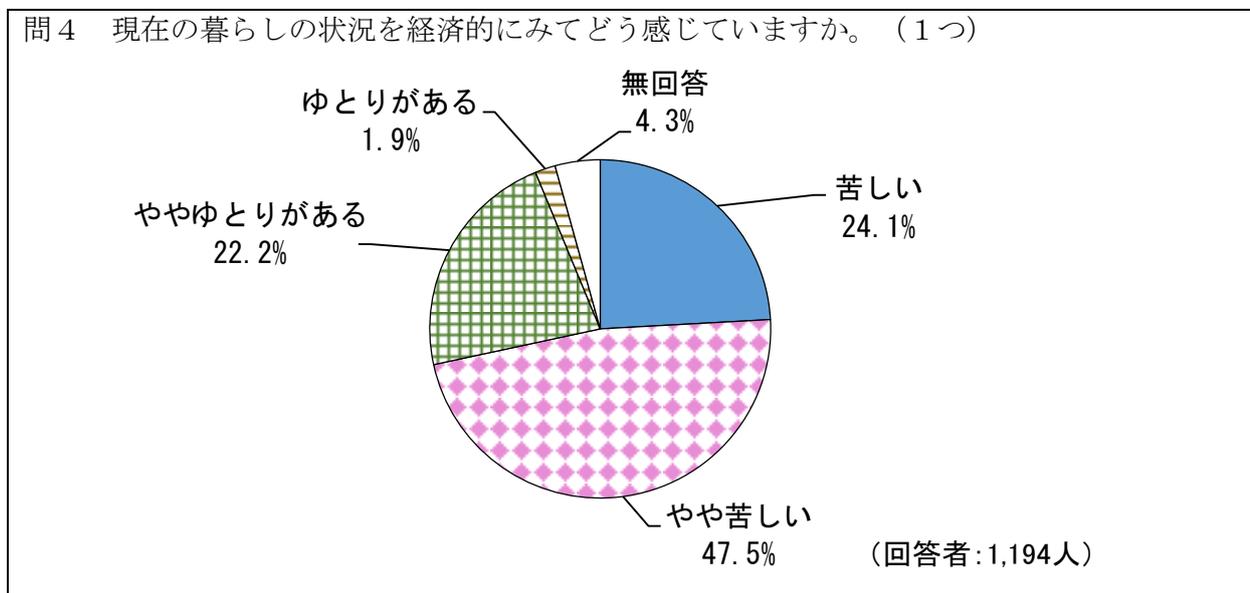
(8) 年金の種類



年金の種類については、「国民年金」が44.4%で最も多く、以下、「厚生年金（企業年金なし）」（24.6%）、「厚生年金（企業年金あり）」（20.7%）、「共済年金」（13.3%）などとなっている。

また、1.0%は、「無年金」と回答している。

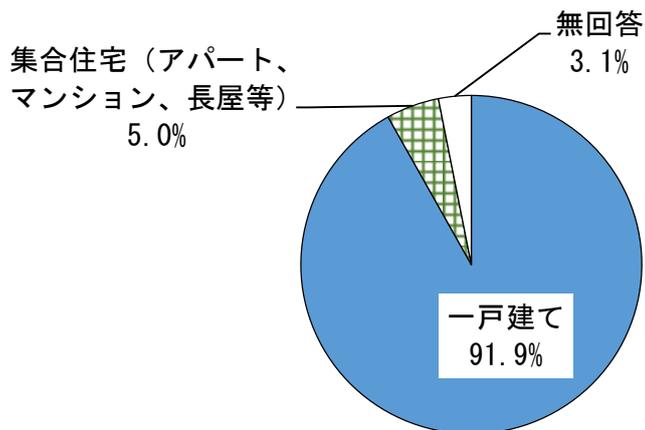
(9) 現在の暮らしの状況



現在の暮らしの状況では、「やや苦しい」が47.5%で最も多く、以下、「苦しい」（24.1%）、「ややゆとりがある」（22.2%）、「ゆとりがある」（1.9%）となっている。大別して、生活が苦しいと感じる割合（「やや苦しい」及び「苦しい」の合計）は71.6%で、生活にゆとりがあると感じる割合（「ゆとりがある」及び「ややゆとりがある」及びの合計）の24.1%を大きく上回っている。

(10) 住居の形態

問5 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つ)

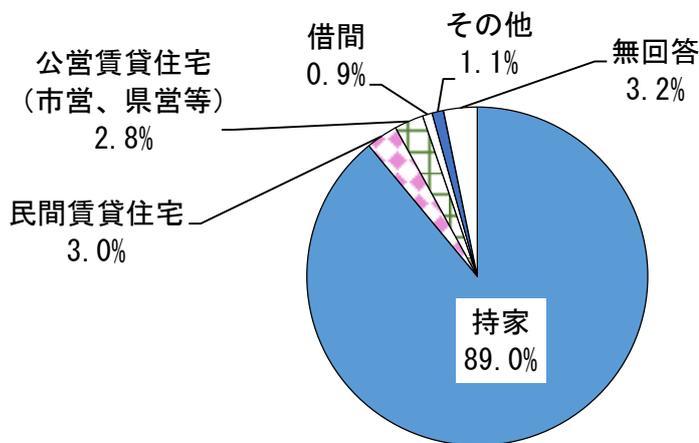


(回答者:1,194人)

一戸建てか集合住宅かについては、「一戸建て」が91.9%と大半を占め、「集合住宅 (アパート、マンション等)」は5.0%となっている。

(11) お住まいは、次のどれにあたりますか。(1つ)

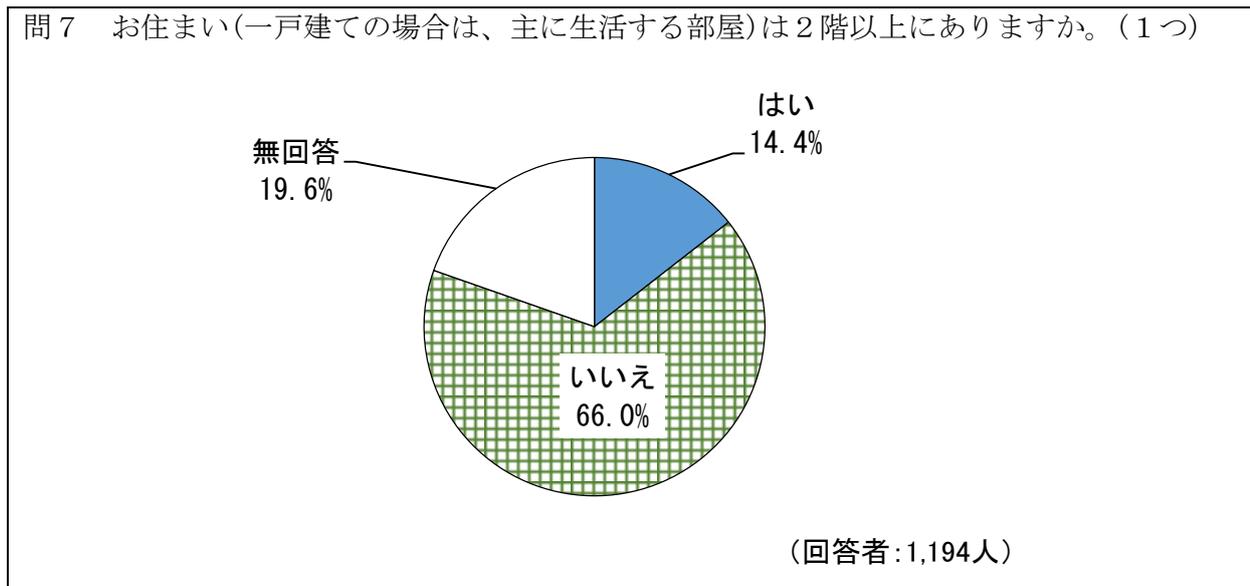
問6 お住まいは、次のどれにあたりますか。(1つ)



(回答者:1,194人)

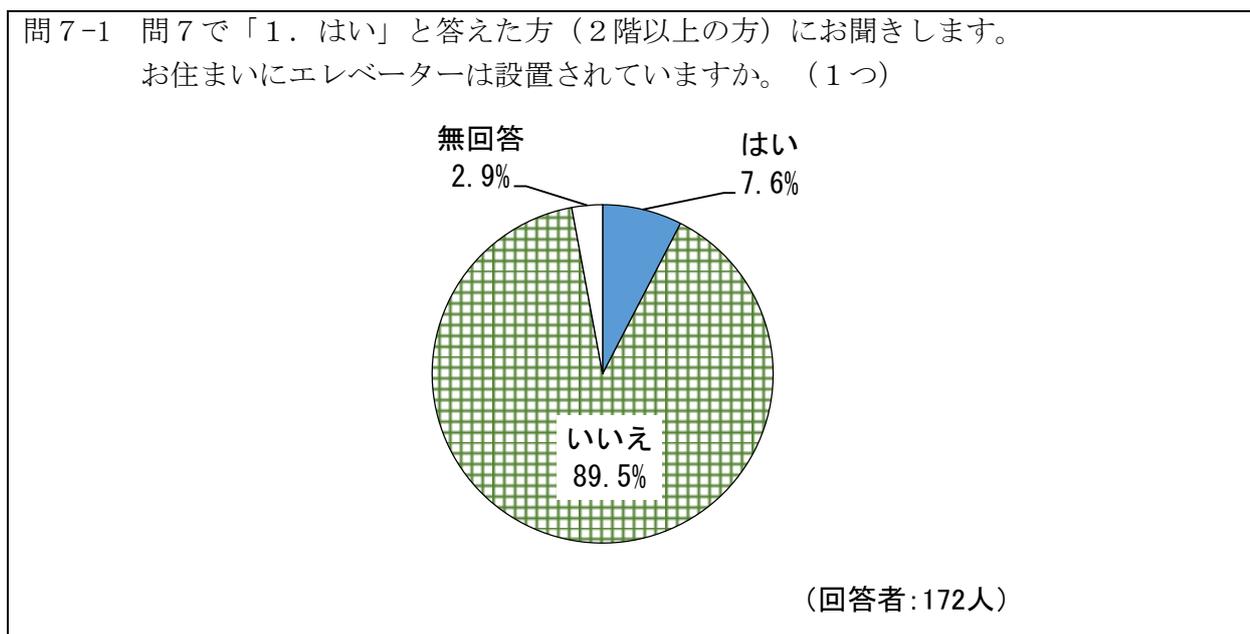
住居の所有・賃貸の状況については、「持家」が89.0%と圧倒的に多く、以下、「民間賃貸住宅」(3.0%)、「公営賃貸住宅 (市営・県営等)」(2.8%)、「借間」(0.9%)などと続いている。

(12) 住まいは2階以上にあるか



住まい(主に生活する部屋)が2階以上かどうかでは、「いいえ」が66.0%と圧倒的に多く、「はい」は14.4%となっている。

(13) 2階建て以上の住居のエレベーター設置の有無

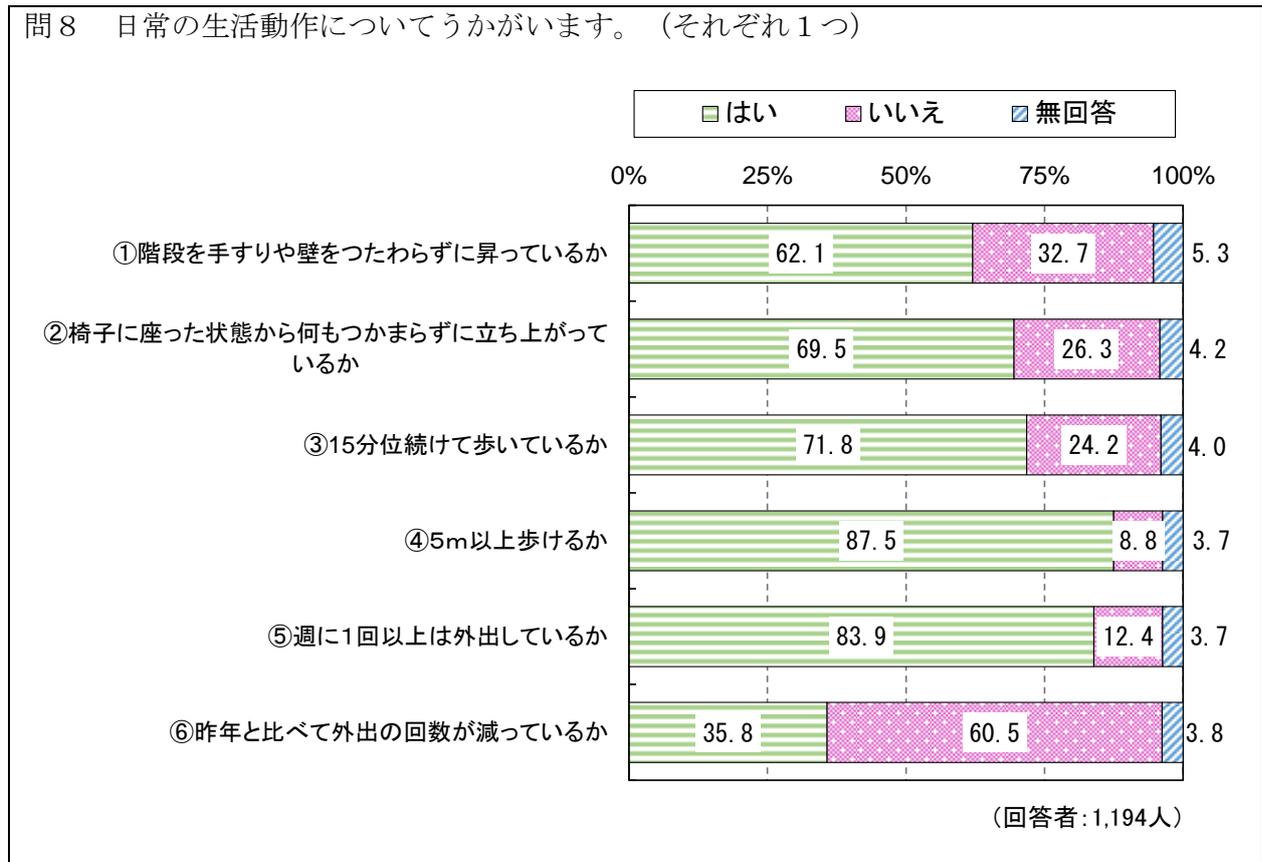


問7で住まい(一戸建ての場合は、主に生活する部屋)が2階以上であると回答した172人に、エレベーターの設置状況を尋ねたところ、「いいえ」が89.5%と圧倒的に多く、「はい」は7.6%となっている。

3 運動・閉じこもりについて

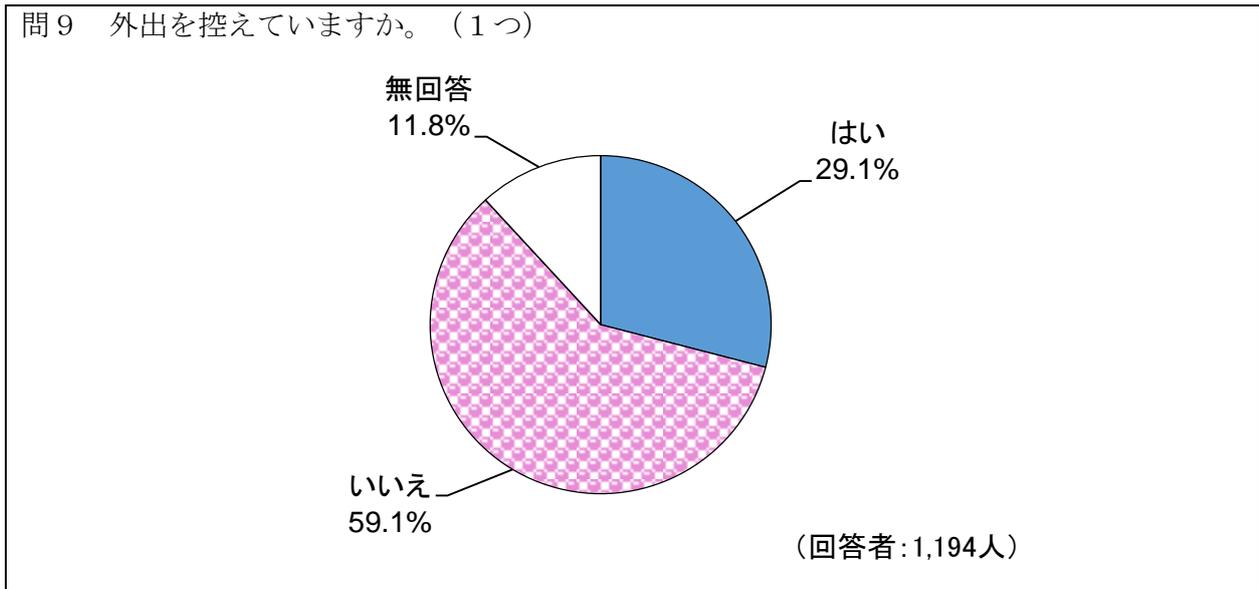
(1) 日常生活動作

問8 日常の生活動作についてうかがいます。(それぞれ1つ)



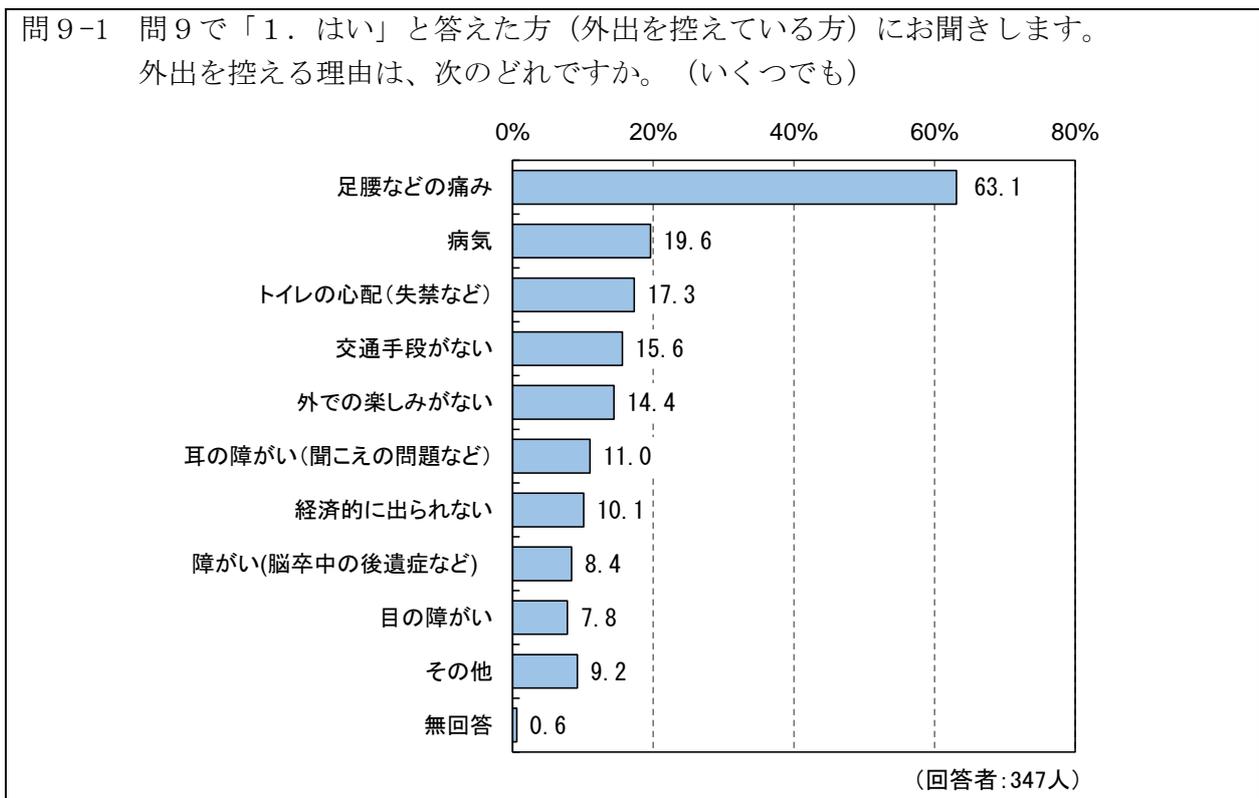
日常生活動作に関する各項目のチェック該当割合は、「⑥昨年と比べて外出の回数が減っているか」が35.8%（「はい」）で最も高く、以下、「①階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」（32.7%：「いいえ」）、「②椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか」（26.3%：「いいえ」）、「③屋内、屋外を問わず、15分位続けて歩いているか」（24.2%：「いいえ」）、「⑤週に1回以上は外出しているか」（12.4%：「いいえ」）、「④5m以上歩けるか」（8.8%：「いいえ」）の順となっている。

(2) 外出を控えているか



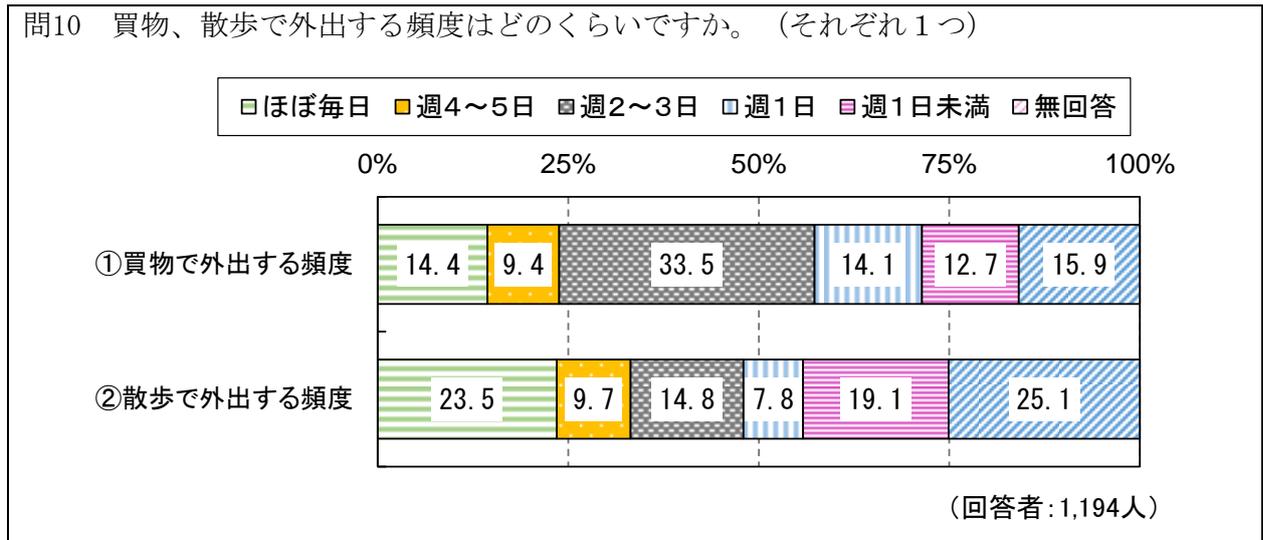
外出を控えているか尋ねたところ、「いいえ」が59.1%と過半数を占め、「はい」の29.1%を上回っている。

(3) 外出を控える理由



問9で外出を控えていると回答した347人に、その理由を尋ねたところ、「足腰などの痛み」が63.1%で最も多く、以下、「病気」(19.6%)、「トイレの心配(失禁など)」(17.3%)、「交通手段がない」(15.6%)、「外での楽しみがない」(14.4%)、「耳の障害(聞こえの問題など)」(11.0%)、「経済的に出られない」(10.1%)、「障がい(脳卒中の後遺症など)」(8.4%)「目の障害」(7.8%)などとなっている。

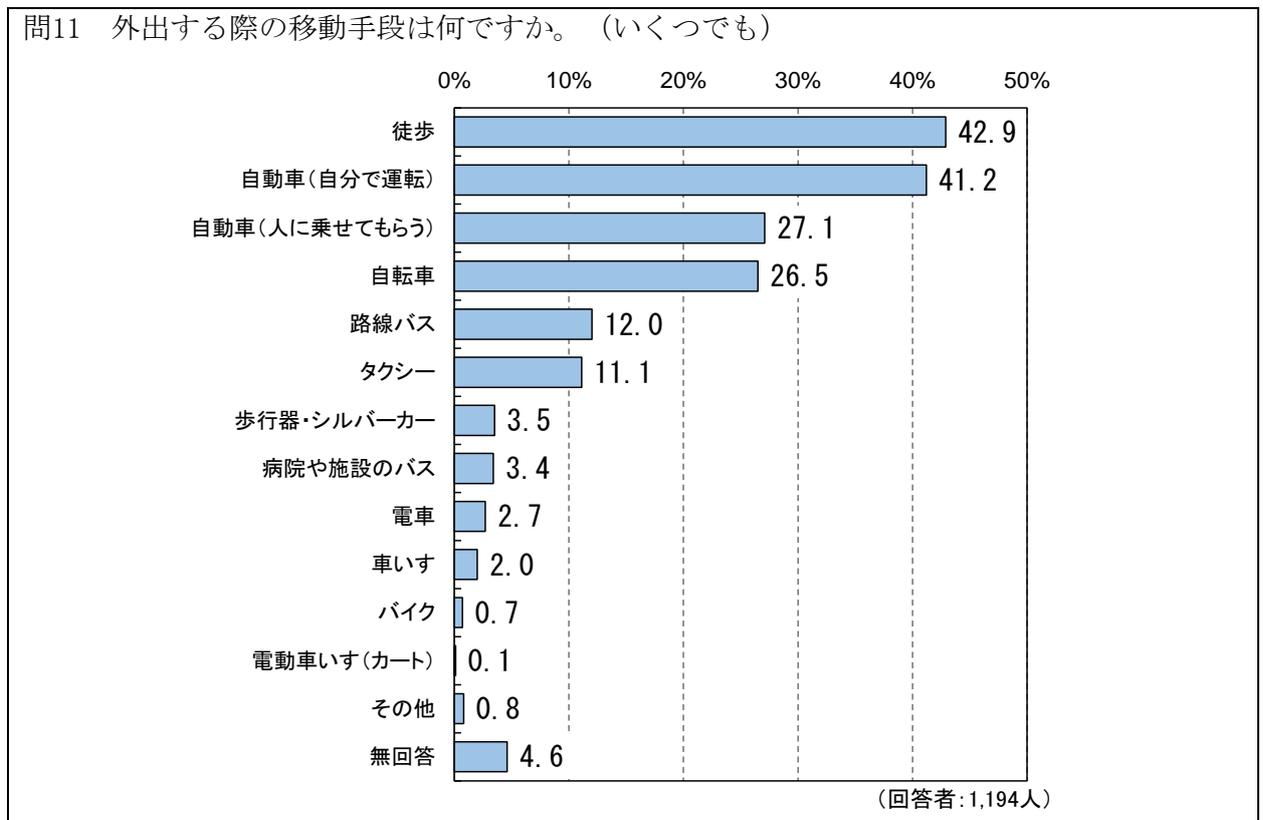
(4) 外出の頻度



外出の頻度については、「①買物で外出する頻度」は「週2、3日」が33.5%で最も多く、以下、「ほぼ毎日」(14.4%)、「週1日」(14.1%)などの順となっている。

また、「②散歩で外出する頻度」は「ほぼ毎日」が23.5%で最も多く、以下、「週1日未満」(19.1%)、「週2、3日」(14.8%)などの順となっている。

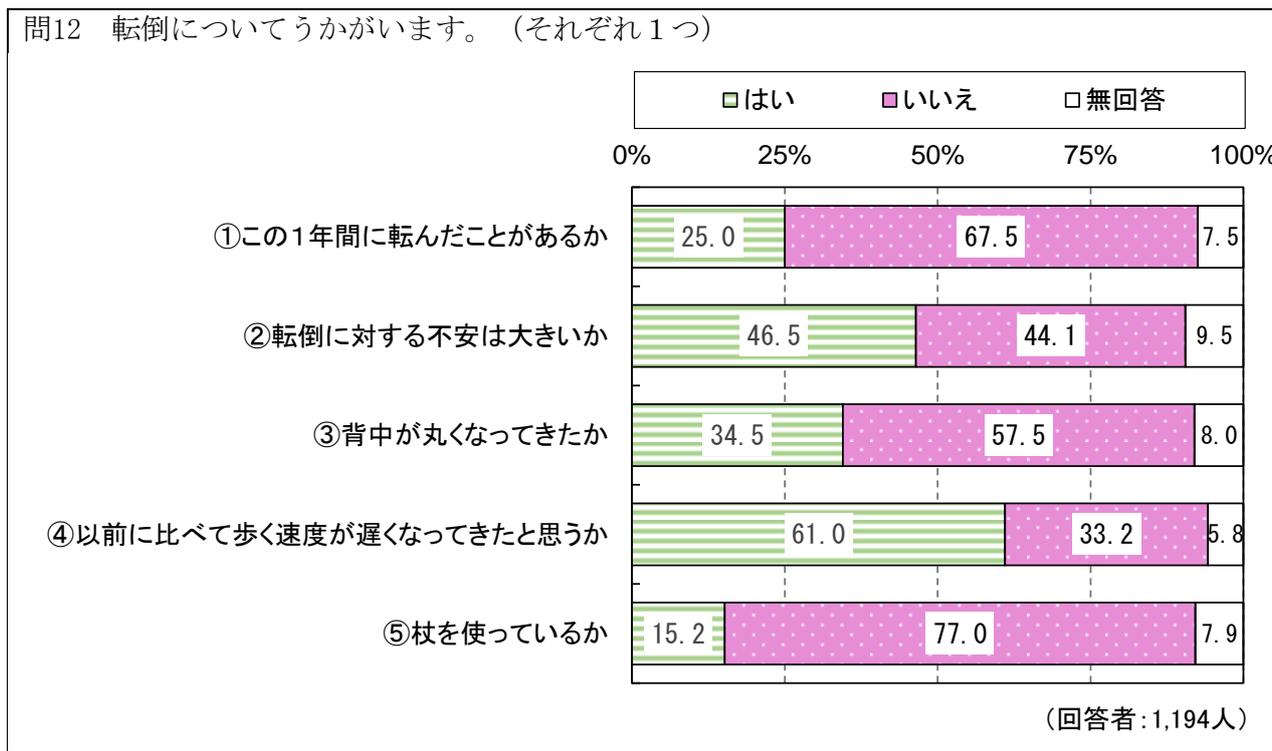
(5) 外出する際の移動手段



外出する際の移動手段については、「徒歩」が42.9%で最も多く、以下、「自動車(自分で運転)」(41.2%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(27.1%)、「自転車」(26.5%)、「路線バス」(12.0%)、「タクシー」(11.1%)などが比較的多く挙げられている。

4 転倒について

(1) 転倒に関すること



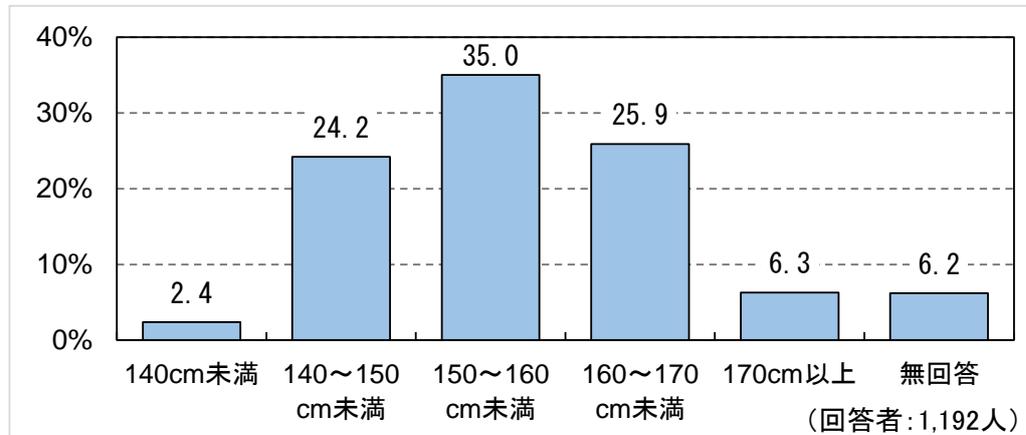
転倒に関する各項目のチェック該当 (いずれも「はい」) 割合は、「④以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか」が61.0%で最も高く、以下、「②転倒に対する不安は大きい」(46.5%)、「③背中が丸くなってきたか、または背中が丸くなってきたと言われるか」(34.5%)、「①この1年間に転んだことがあるか」(25.0%)、「⑤杖を使っているか」(15.2%)の順となっている。

5 口腔・栄養について

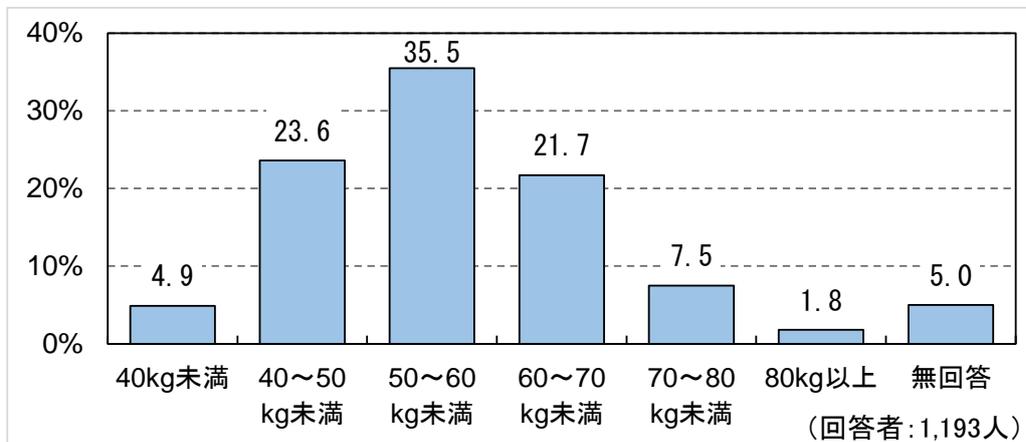
(1) 本人の身長・体重・BMI

問13 ご本人の身長、体重をお答えください。

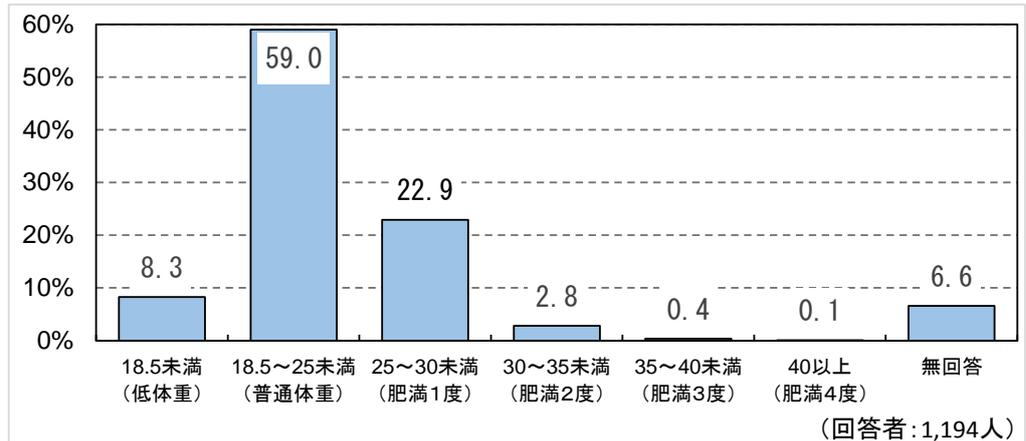
<身長>



<体重>



<BMI>

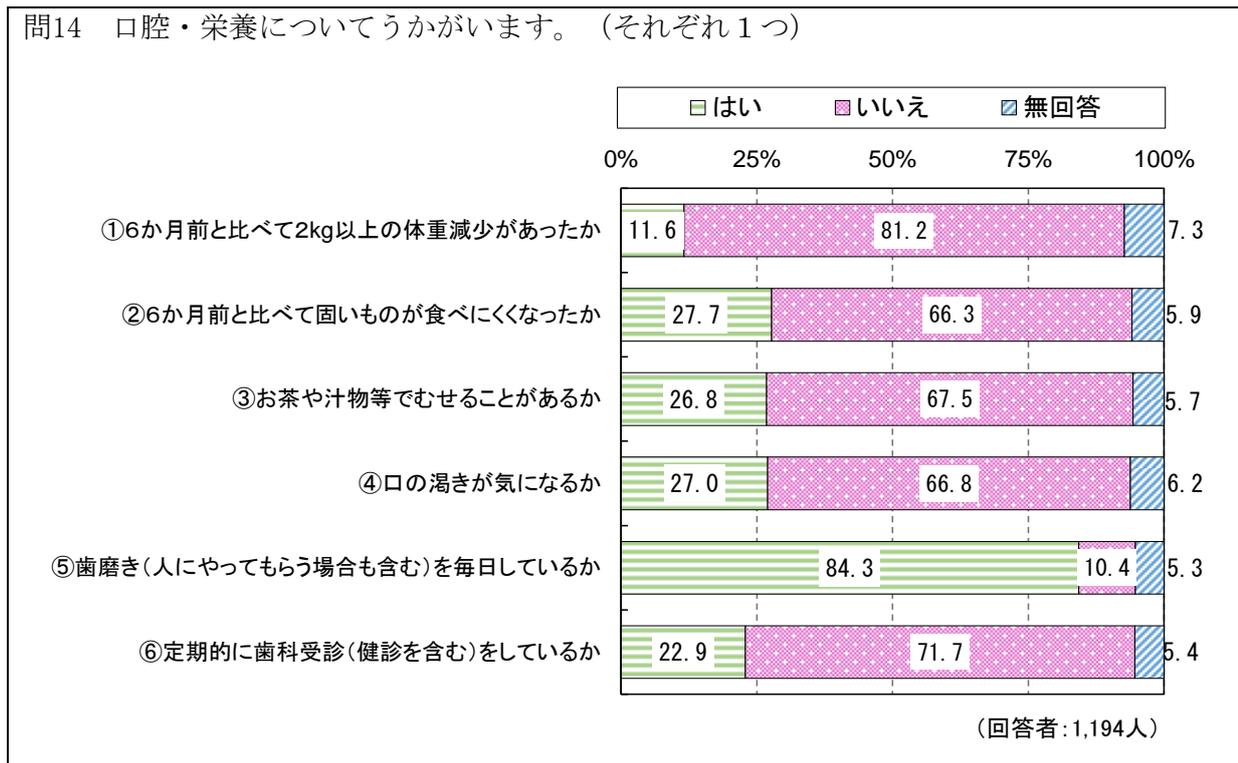


身長は、「150~160cm未満」が35.0%で最も多く、以下、「160~170cm未満」(25.9%)、「140~150cm未満」(24.2%)などと続いている。

また、体重は、「50~60kg」が35.5%で最も多く、以下、「40~50kg未満」(23.6%)、「60~70kg未満」(21.7%)、「70~80kg未満」(7.5%)などと続いている。

さらに、BMIについては、「18.5~25未満(普通体重)」が59.0%で最も多く、以下、「25~30未満(肥満1度)」(22.9%)、「18.5未満(低体重)」(8.3%)、「30~35未満(肥満2度)」(2.8%)などと続いている。

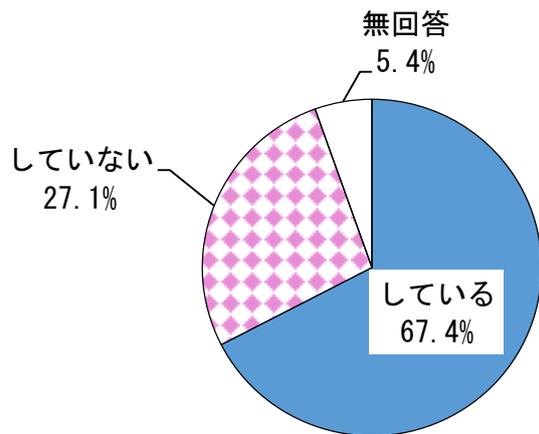
(2) 口腔・栄養



口腔・栄養に関する各項目のチェック該当割合は、「⑥定期的に歯科検診（健診を含む）をしているか」が71.7%（「いいえ」）で最も高く、以下、「②6か月前と比べて固いものが食べにくくなったか」（27.7%：「はい」）、「④口の渇きが気になるか」（27.0%：「はい」）、「③お茶や汁物等でむせることがあるか」（26.8%：「はい」）、「①6か月前と比べて2kg以上の体重減少があったか」（11.6%：「はい」）、「⑤歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているか」（10.4%：「いいえ」）の順となっている。

(3) 入れ歯の有無

問15 入れ歯（部分入れ歯を含む）を使用していますか。（1つ）

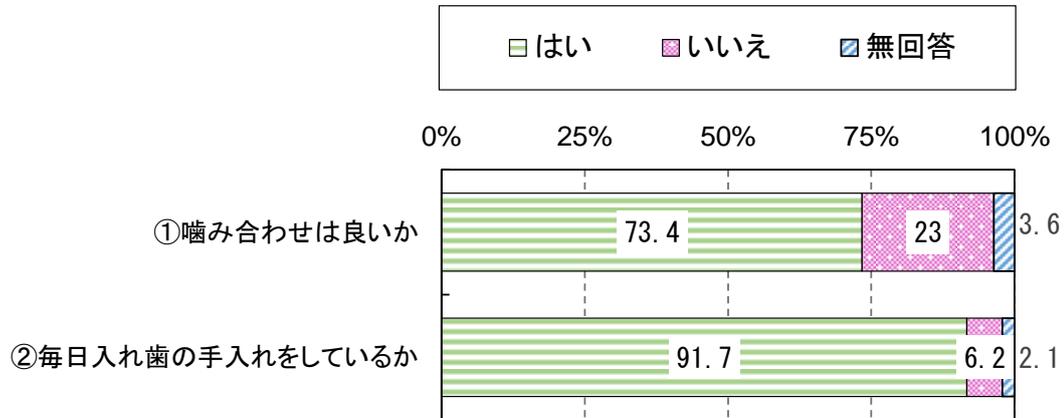


(回答者:1,194人)

入れ歯（部分入れ歯を含む）をしているかでは、「している」が67.4%を占めている。

(4) 入れ歯について

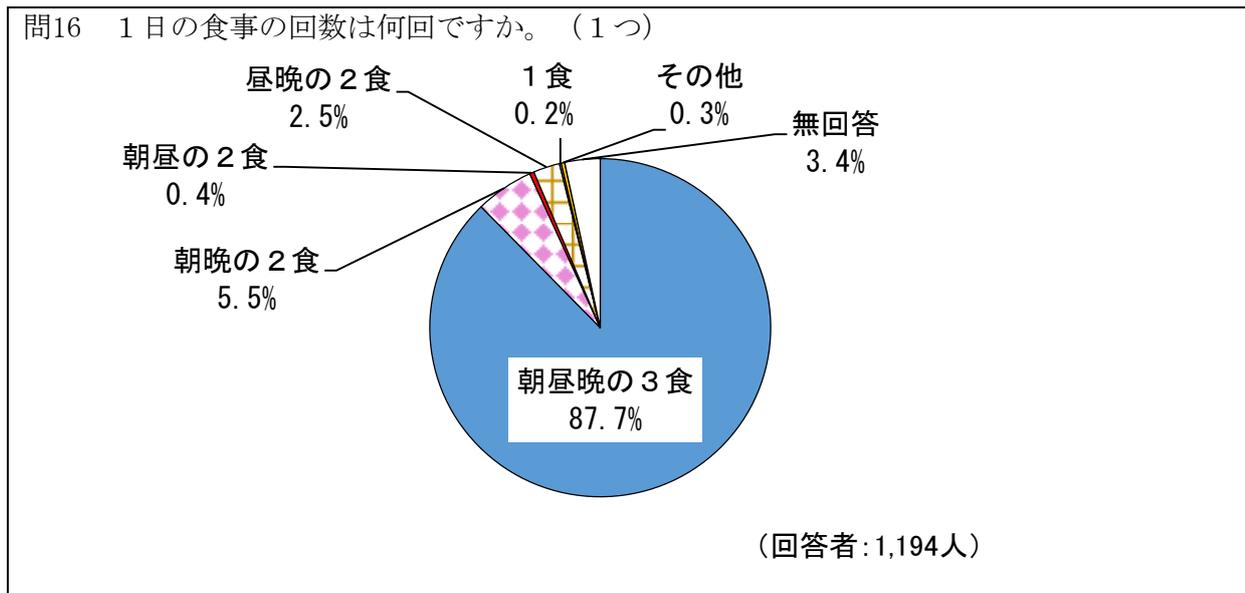
問15-1 問15で「1. している」と回答した方（入れ歯のある方）にお聞きします。
（それぞれ1つ）



(回答者:805人)

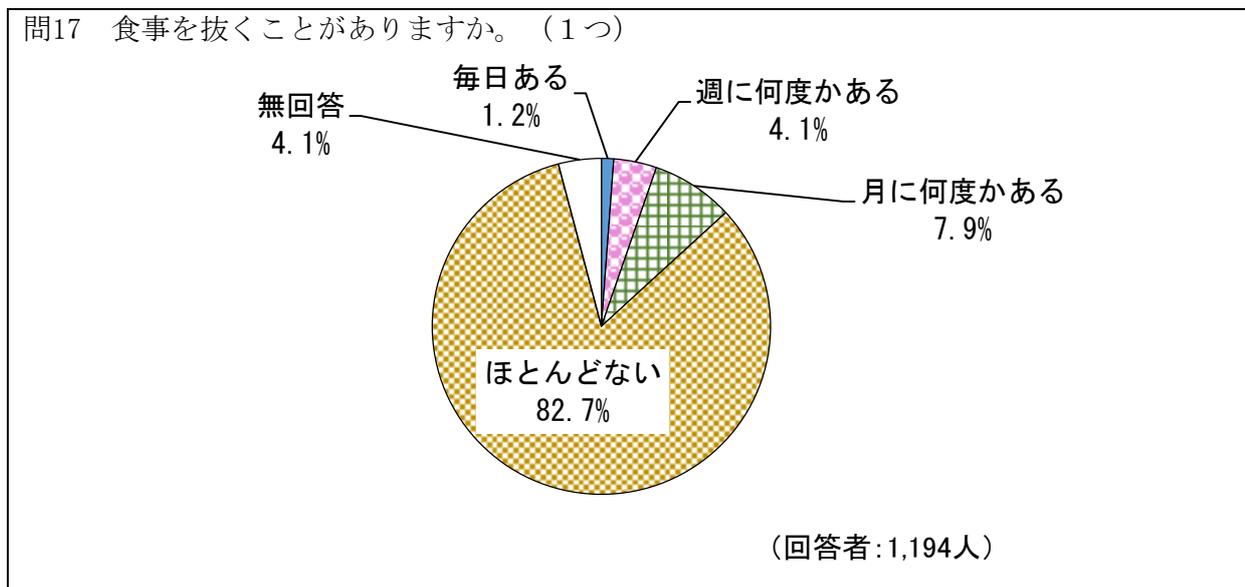
問15で入れ歯（部分入れ歯を含む）をしていると回答した805人に、入れ歯に関することについて尋ねたところ、「①噛み合わせはよいか」では、「はい」が73.4%、「②毎日入れ歯の手入れをしているか」では、「はい」が91.7%をそれぞれ占めている。

(5) 1日の食事の回数



1日の食事回数を尋ねたところ、「朝夕晩の3食」が87.7%と圧倒的に多く、以下、「朝晩の2食」が5.5%、「昼晩の2食」が2.5%、「朝昼の2食」が0.4%、「1食」0.2%となっている。

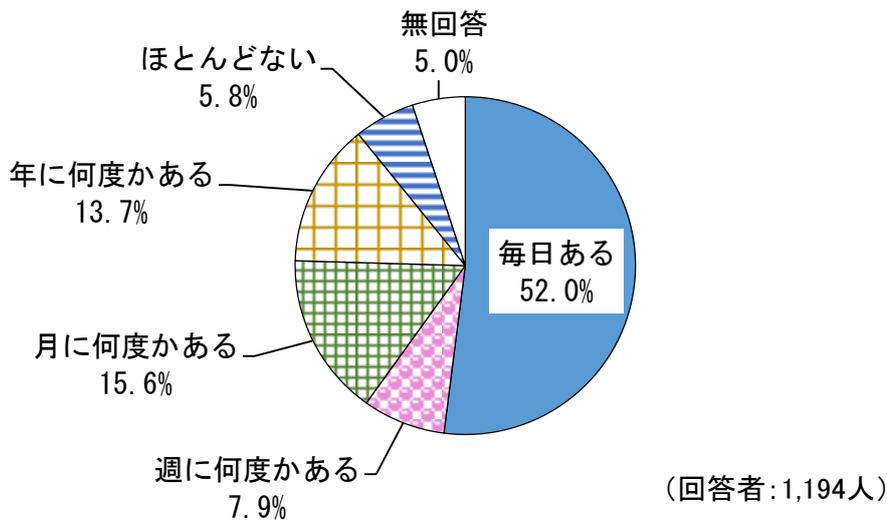
(6) 食事を抜くことがあるか



食事を抜くことがありますか尋ねたところ、「ほとんどない」が82.7%と圧倒的に多く、以下、「月に何度かある」が7.9%、「週に何度かある」が4.1%、「毎日ある」が1.2%となっている。

(7) 誰かと食事をする機会はあるか

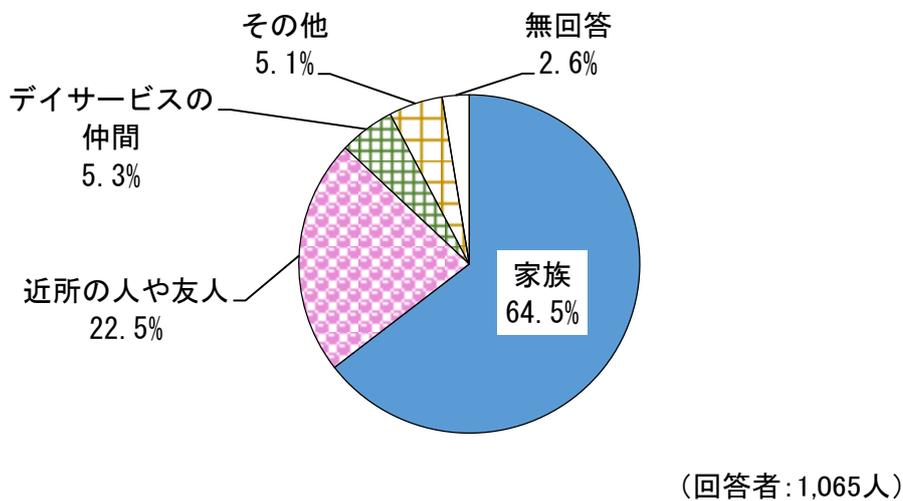
問18 自分一人でなく、どなたかと食事をともにする機会がありますか。(1つ)



誰かと食事をする機会があるか尋ねたところ、「1.毎日ある」が52.0%と過半数を占め、以下、「2.週に何度かある」が7.9%、「3.月に何度かある」が15.6%、「4.年に何度かある」が13.7%、「5.ほとんどない」が5.8%となっている。

(8) 誰かと食事をする機会はあるか

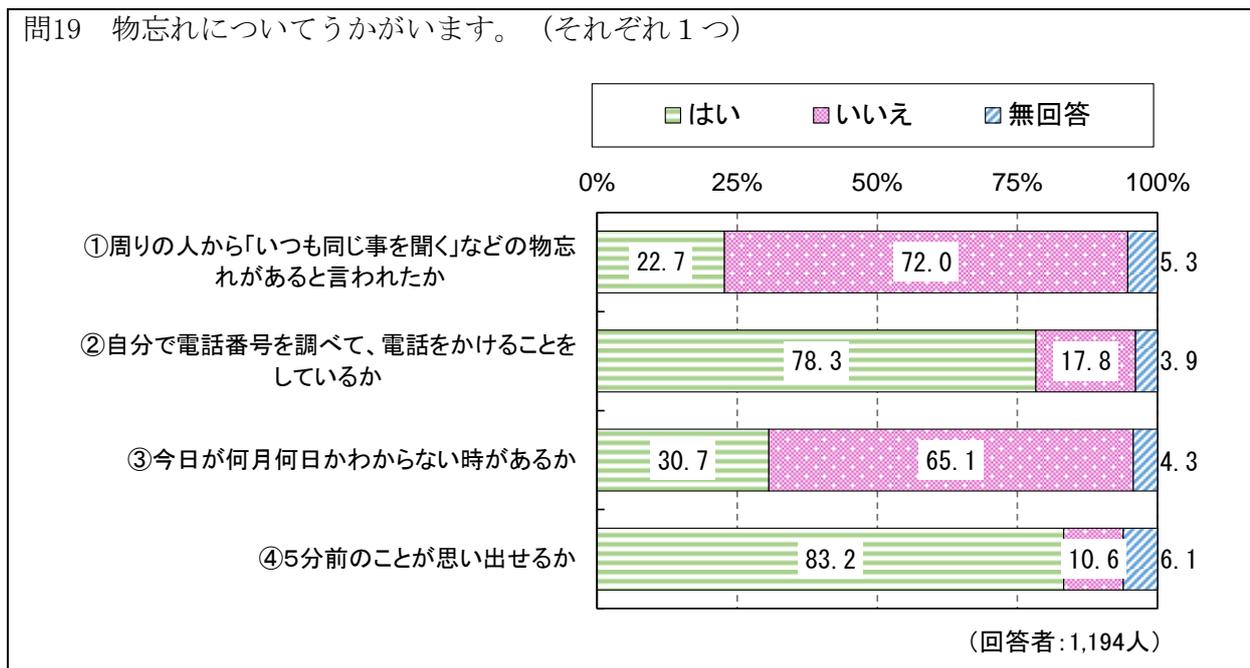
問18-1 問18で「1」～「4」と答えた方にお聞きします。
食事をともにする人はどなたですか。(いくつでも)



問18で「1」～「4」と回答した1,065人に、食事をともにする人はどなたですかと尋ねたところ、「家族」が64.5%が大多数を占め、以下「近所の人や友人」が22.5%、「デイサービスの仲間」が5.3%となっている。

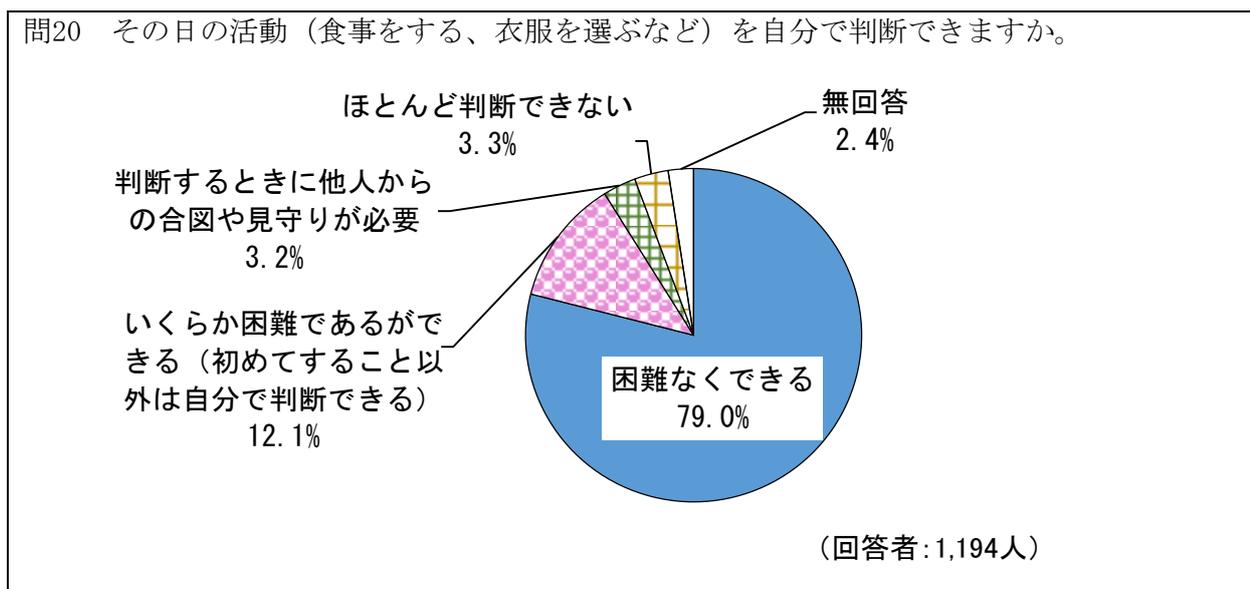
6 物忘れについて

(1) 物忘れ



物忘れに関する各項目のチェック該当割合は、「③今日が何月何日かわからない時があるか」が30.7%（「はい」）で最も多く、以下、「①周りの人から『いつも同じ事を聞く』などの物忘れがあるとされるか」（22.7%：「はい」）、「②自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているか」（17.8%：「いいえ」）、「④5分前のことが思い出せるか」（10.6%：「いいえ」）の順となっている。

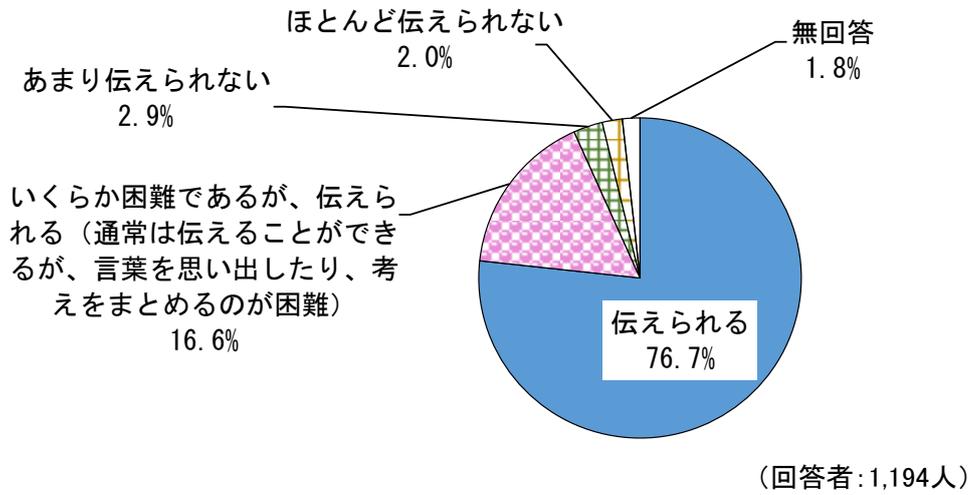
(2) 判断能力



その日の行動を自分で判断できるかでは、「困難なくできる」が79.0%で最も多く、以下、「いくらか困難であるができる（初めてすること以外は自分で判断できる）」（12.1%）、「判断するとき他人からの合図や見守りが必要」（3.2%）、「ほとんど判断できない」（3.3%）となっている。

(3) 意思の伝達

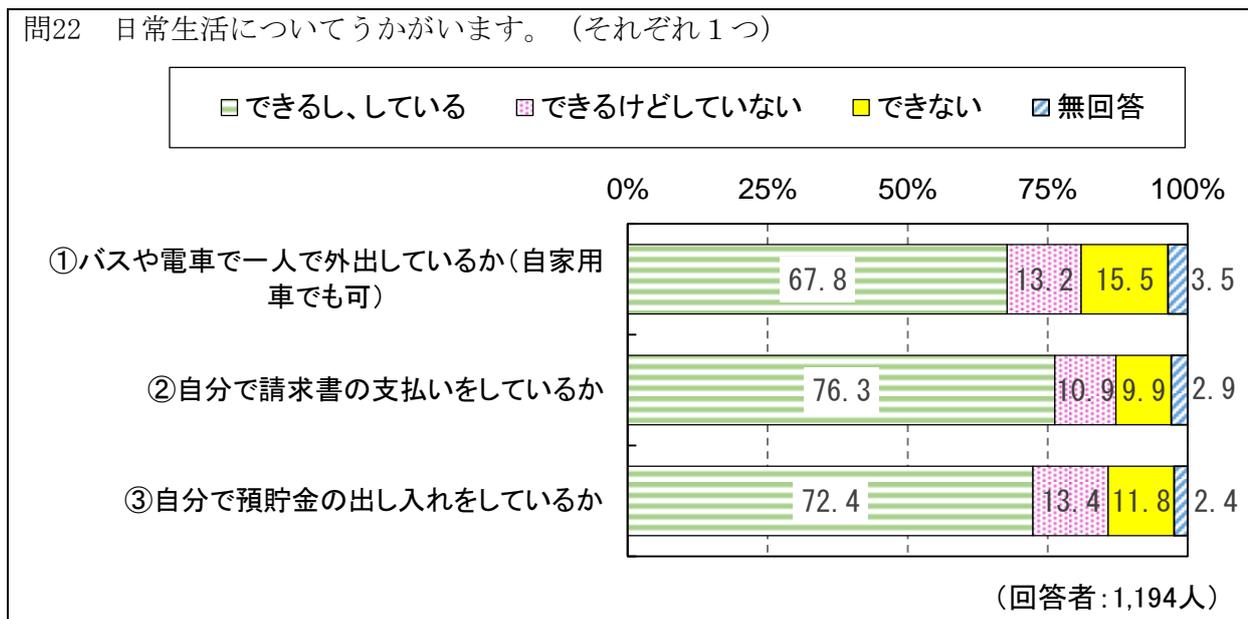
問21 人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つ)



人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、「伝えられる」が76.7%で最も多く、以下、「いくらか困難であるが、伝えられる (通常は伝えることができるが、言葉を思い出したり、考えをまとめるのが困難)」が16.6%、「あまり伝えられない」が2.9%、「ほとんど伝えられない」が2.0%となっている。

7 日常生活について

(1) 日常生活の状況①

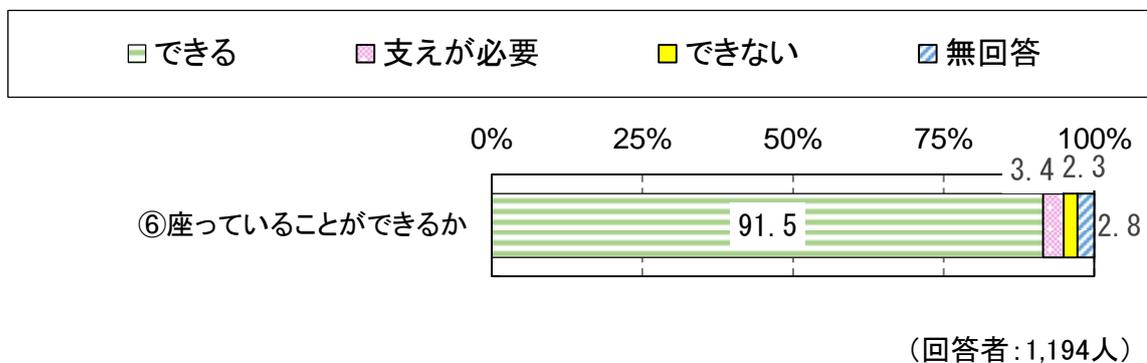
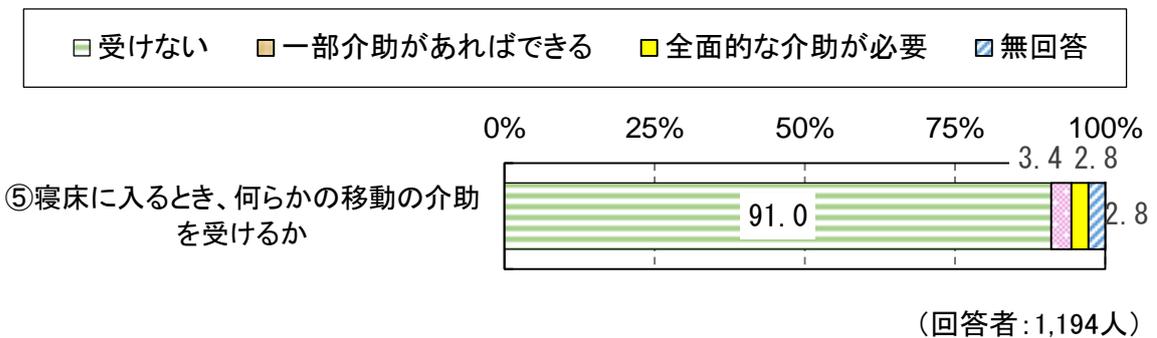
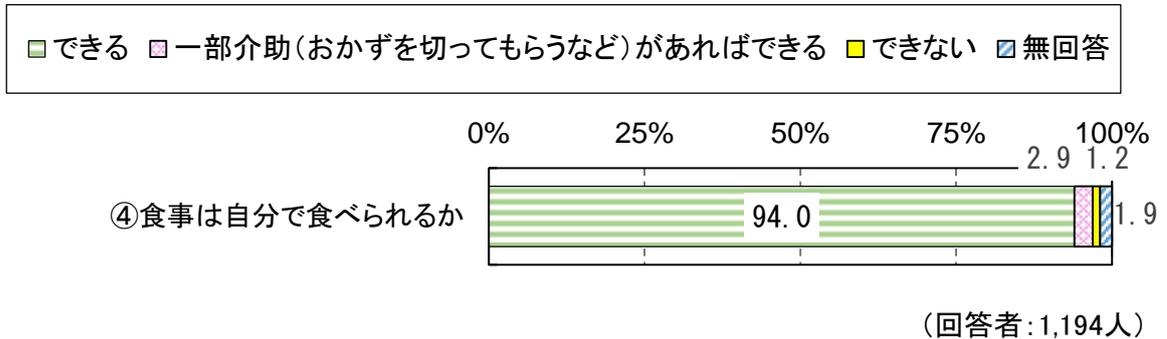


日常生活における①から③までの各項目については、「できるし、している」の回答割合はいずれも6割以上となっている。その中で回答割合が最も高い項目は「②自分で請求書の支払いをしているか」で76.3%の数値を示している。逆に、回答割合の最も低い項目は「①バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)」で67.0%となっている。

「できるけどしていない」の割合が最も高い項目は、「自分で預貯金の出し入れをしているか」の13.4%となっている。

(2) 日常生活の状況②

問22 日常生活についてうかがいます。(それぞれ1つ)

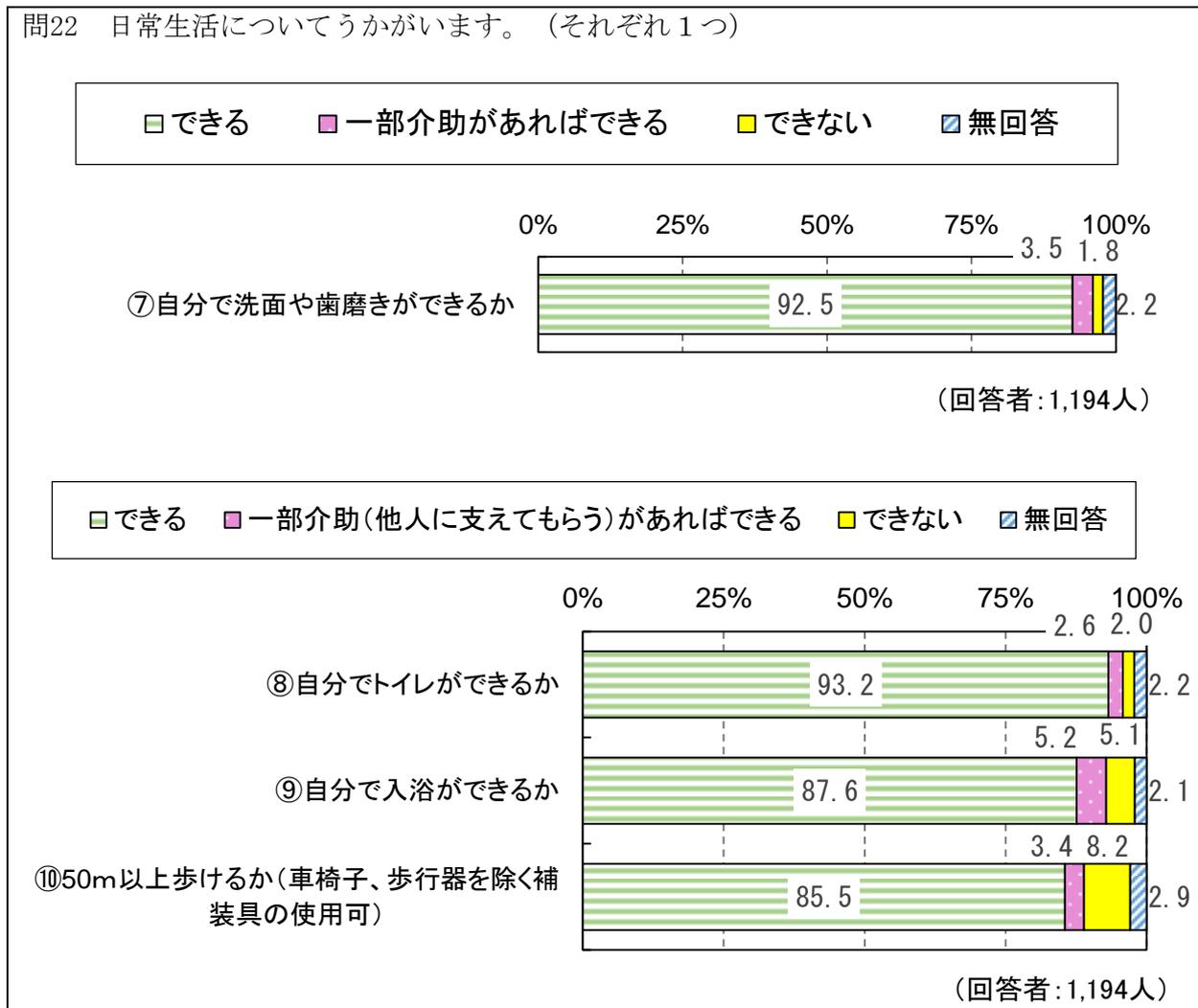


日常生活における④から⑥までの各項目について、「④食事は自分で食べられるか」では「できる」が94.0%、「一部介助(おかずを切ってもらふなど)があればできる」が2.9%、「できない」が1.2%となっている。

「⑤寝床に入るとき、何らかの介助を受けるか」では、「受けない」が91.0%、「一部介助があればできる」が3.4%、「全面的な介助が必要」が2.8%となっている。

「⑥座っていることができますか」では、「できる」が91.5%、「支えが必要」が3.4%、「できない」が2.3%となっている。

(3) 日常生活の状況③



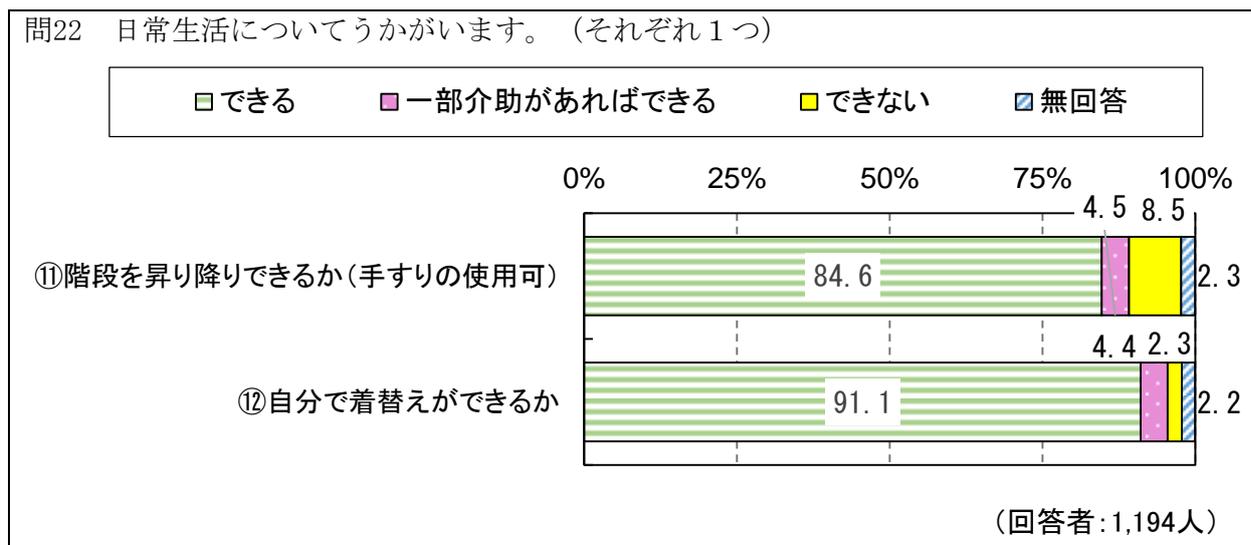
日常生活における⑦から⑩までの各項目について、「⑦自分で洗面や歯磨きができるか」では「できる」が92.5%、「一部介助があればできる」が3.5%、「できない」が1.8%となっている。

「⑧自分でトイレができるか」では、「できる」が93.2%、「一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」が2.6%、「できない」が2.0%となっている。

「⑨自分で入浴ができるか」では、「できる」が87.6%、「一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」が5.2%、「できない」が5.1%となっている。

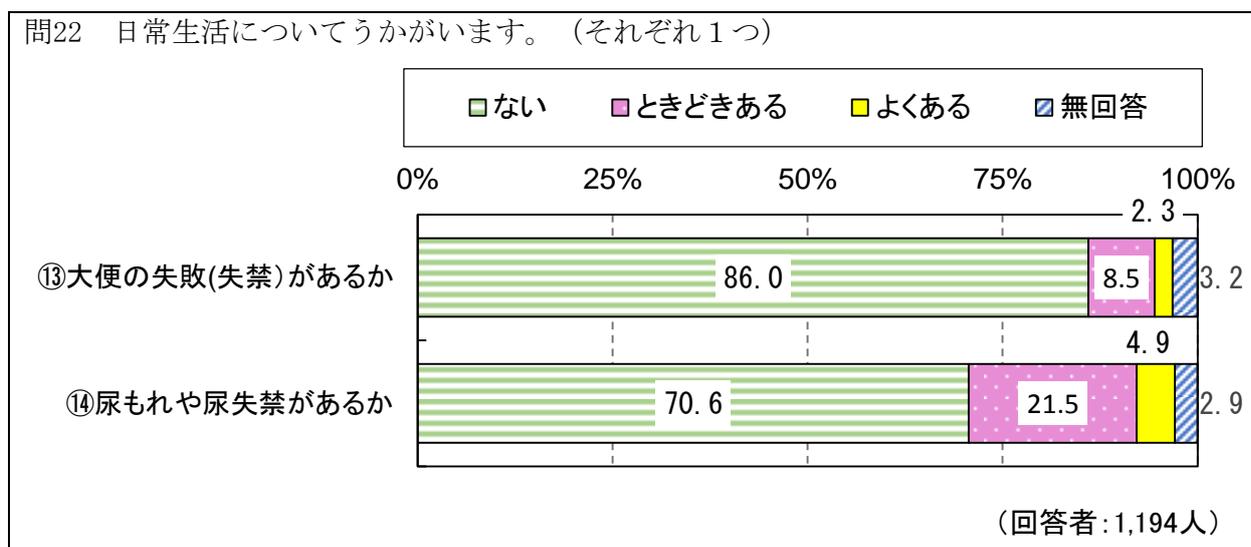
「⑩50m以上歩けるか（車椅子、歩行器を除く補装具の使用可）」では、「できる」が85.5%、「一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」が3.4%、「できない」が8.2%となっている。

(4) 日常生活の状況④



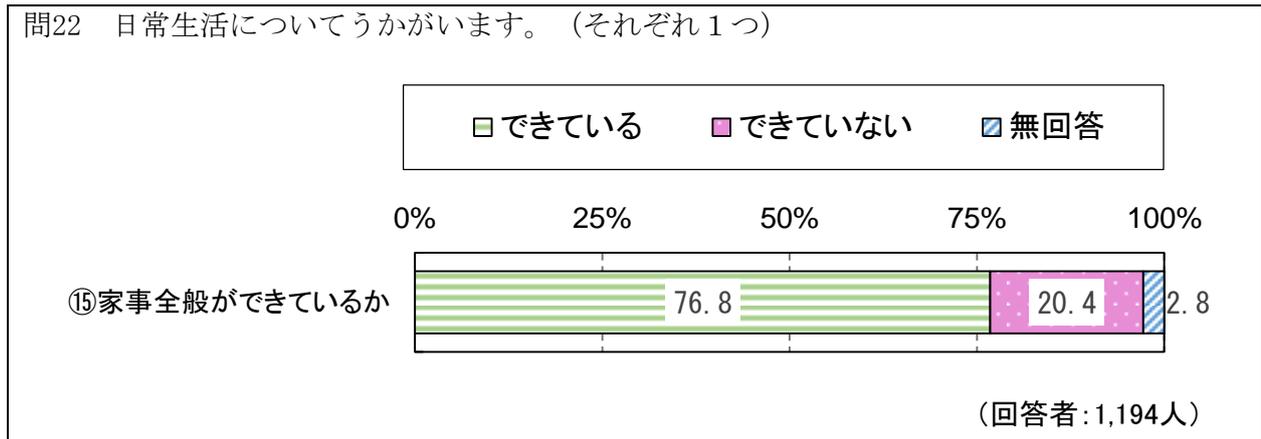
日常生活における①から②までの各項目について、「①階段を昇り降りできるか(手すりの使用可)」では「できる」が84.6%、「一部介助があればできる」が4.5%、「できない」が8.5%となっている。

「②自分で着替えができるか」では、「できる」が91.1%、「一部介助があればできる」が4.4%、「できない」が2.3%となっている。



排便・排尿については、大便の失敗、小便の失敗いずれも、「ない」という回答割合が多くを占めており、前者で86.0%、後者では70.6%の数値を示している。

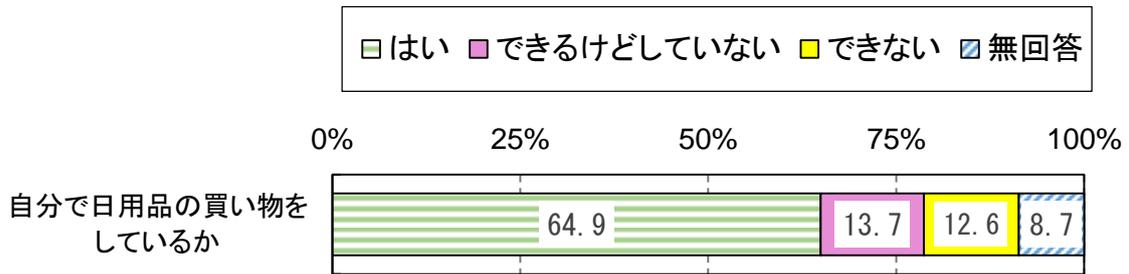
(5) 日常生活の状況⑤



日常生活において「⑮家事全般ができていますか」については、「できている」が76.8%、「できていない」が20.4%となっている。

(6) 日常生活の状況⑥

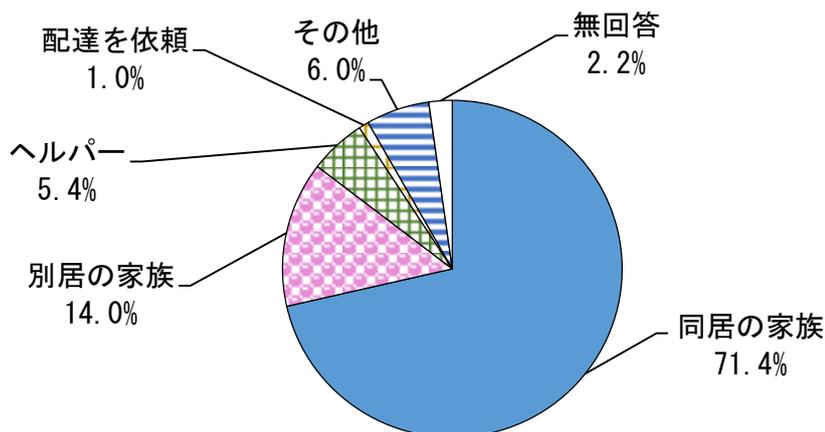
問23 日常生活についてうかがいます。(それぞれ1つ)



(回答者:1,194人)

日常生活において「自分で日用品の買い物をしているか」については、「はい」が64.9%、「できるけどしていない」が13.7%、「できない」が12.6%となっている。

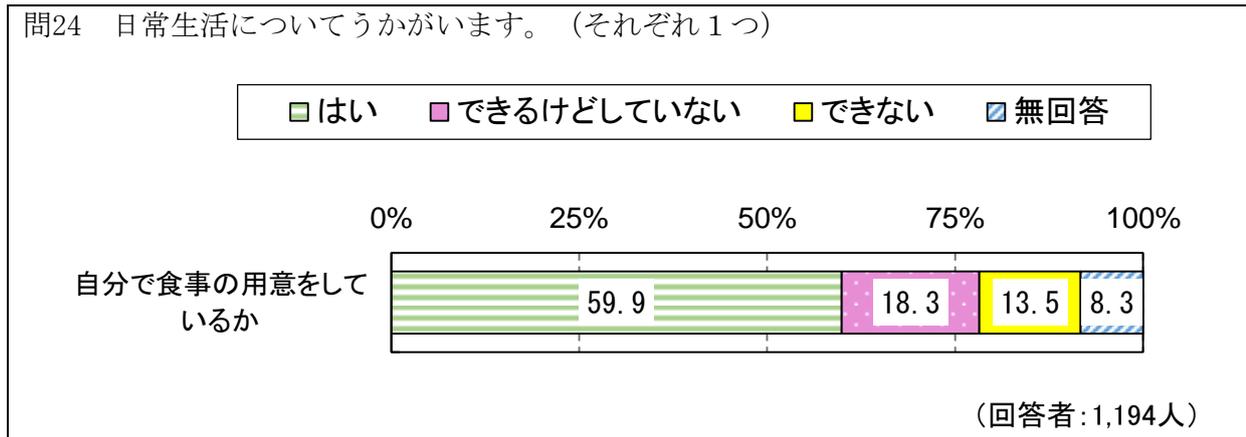
問23-1 問23で「できるけどしていない」、「できない」と答えた方にお聞きします。日用品の買い物をする方は主にどなたですか。(1つ)



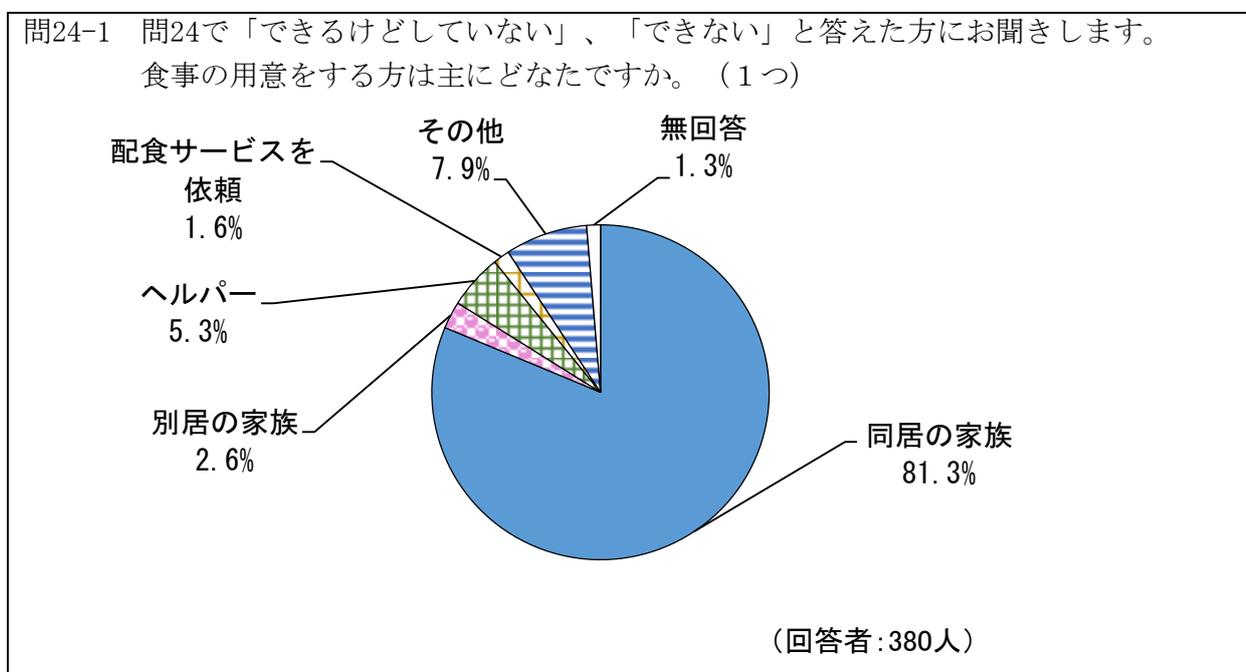
(回答者:315人)

問23で「できるけどしていない」、「できない」と回答した315人に、日用品の買い物をする方は主にどなたですかと尋ねたところ、「同居の家族」が71.4%と大多数を占め、以下「別居の家族」が14.0%、「ヘルパー」が5.4%、「配達を依頼」が1.0%となっている。

(7) 日常生活の状況⑦



日常生活において「自分で食事の用意をしているか」については、「はい」が59.9%、「できるけどしていない」が18.3%、「できない」が13.5%となっている。

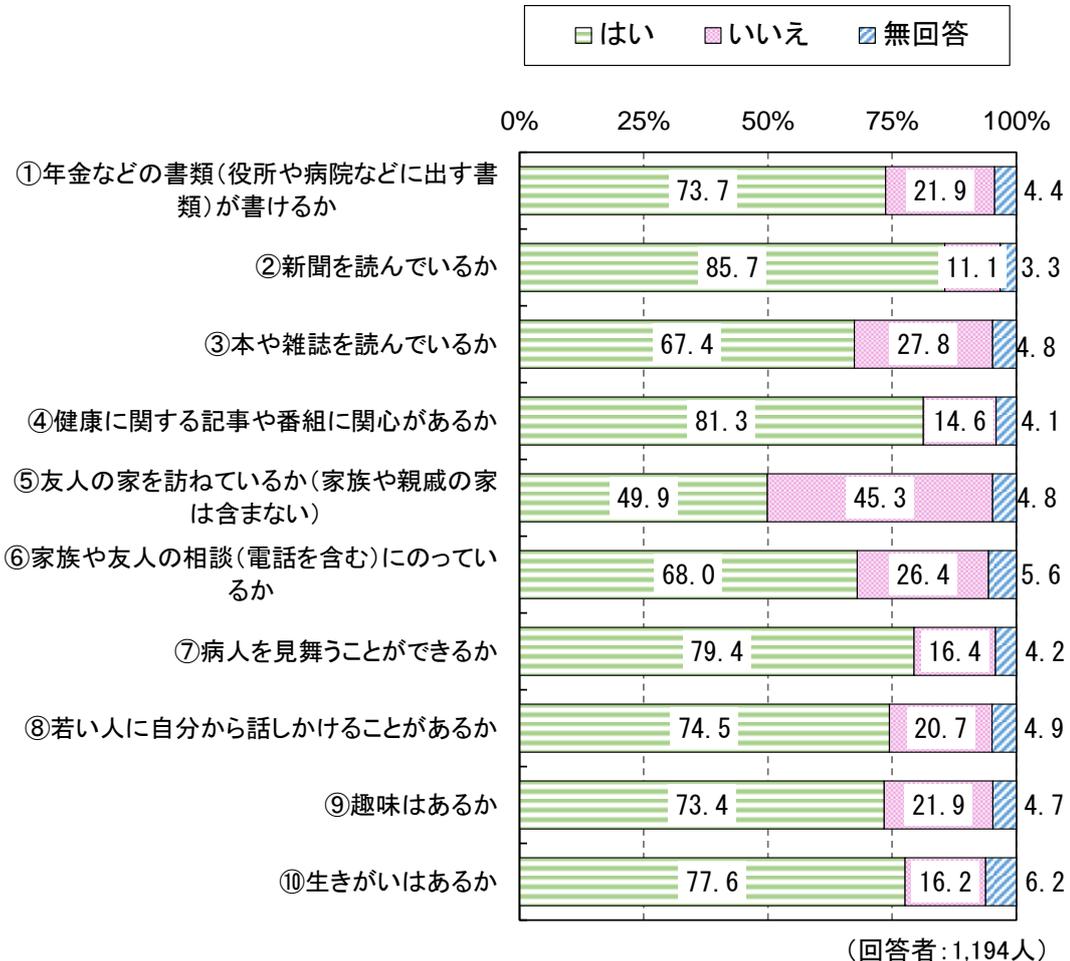


問24で「できるけどしていない」、「できない」と回答した380人に、食事の用意をする方は主にどなたですかと尋ねたところ、「同居の家族」が81.3%と大多数を占め、以下「別居の家族」が2.6%、「ヘルパー」が5.3%、「配食サービスを依頼」が1.6%となっている。

8 社会参加について

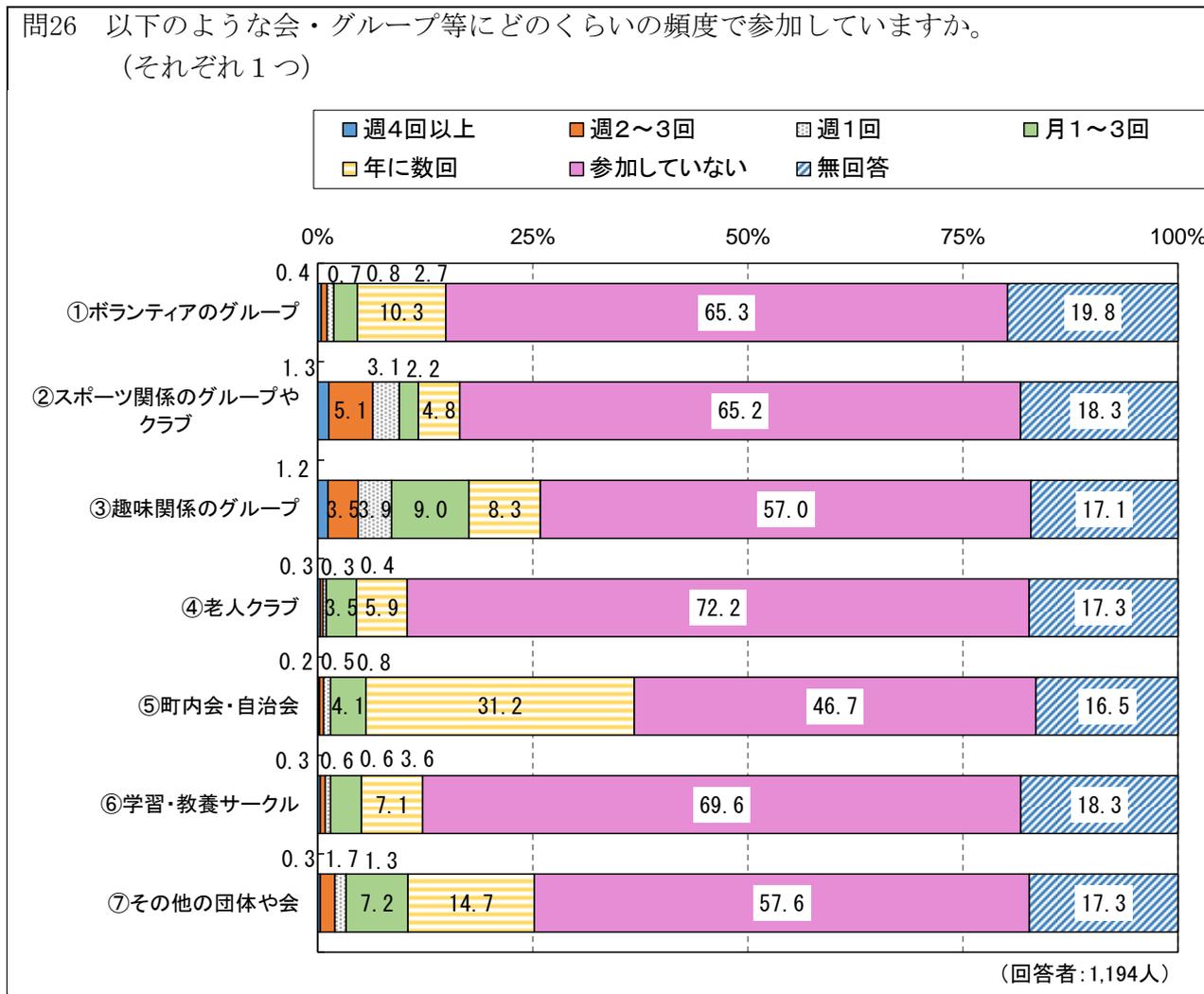
(1) 社会参加について

問25 日常の行動についてうかがいます。(それぞれ1つ)



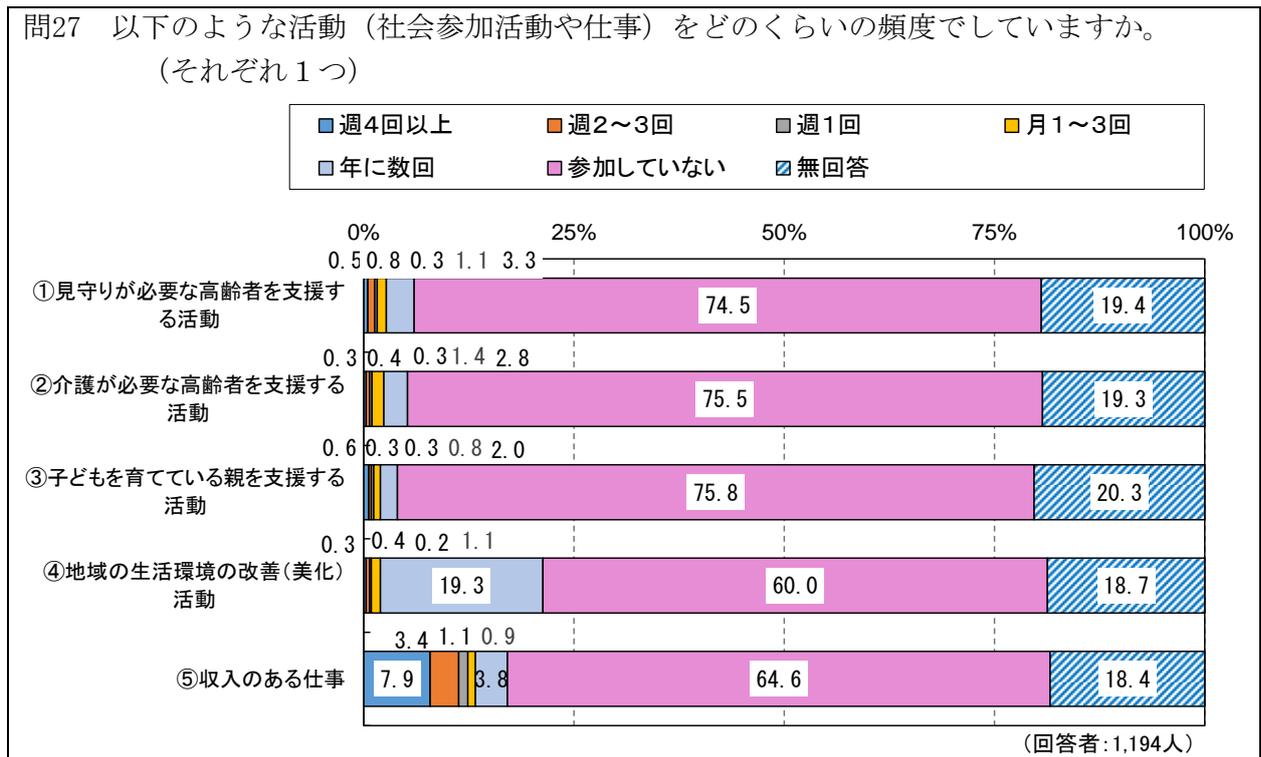
日常の行動に関する①から⑩までの各項目における「はい」の回答割合については、「②新聞を読んでいるか」(85.7%)、「④健康についての記事や番組に関心があるか」(81.3%)で特に高く、いずれも8割以上の数値を示している。以下、「⑦病人を見舞うことができるか」(79.4%)、「⑩生きがいはあるか」(77.6%)、「⑧若い人に自分から話しかけることがあるか」(74.5%)、「①年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けるか」(73.7%)、「⑨趣味はあるか」(73.4%)、「⑥家族や友人の相談(電話を含む)にのっているか」(68.0%)、「③本や雑誌を読んでいるか」(67.4%)、「⑤友人の家を訪ねているか(家族や親戚の家は含まない)」(49.9%)と続いている。

(2) クラブ・グループ活動の参加頻度



グループ活動等にどのくらいの頻度で参加しているかは、比較的「町内会・自治会」へ参加している回答が多く、対して、参加していないという回答が多いのが「老人クラブ」となっている。

(3) 社会参加活動や仕事の頻度

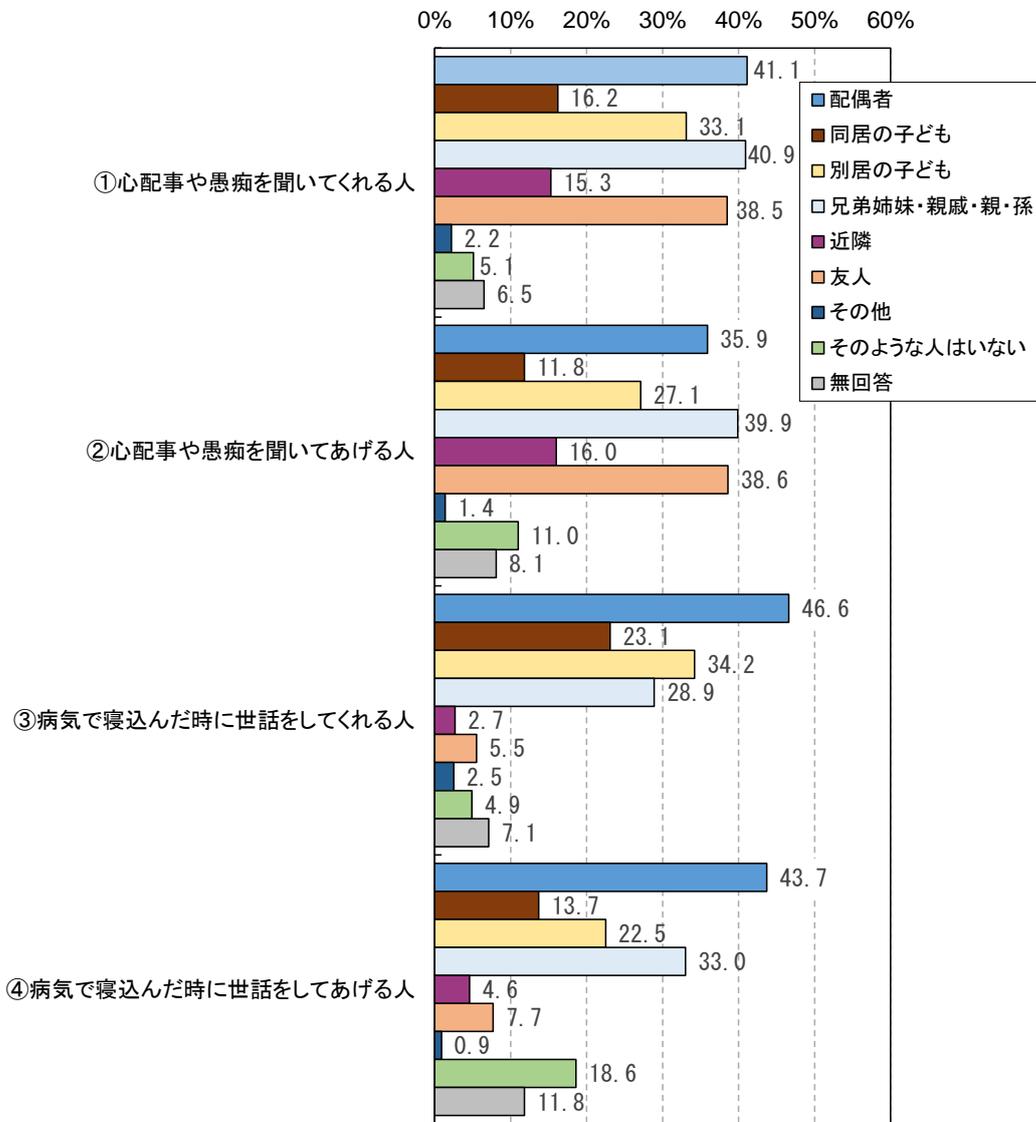


社会参加活動や仕事をどのくらいの頻度でしているかは、「①見守りが必要な高齢者を支援する活動」、「②介護が必要な高齢者を支援する活動」、「③子どもを育てている親を支援する活動」の3項目で7割以上が「参加していない」と回答している。

なお、「④地域の生活環境の改善(美化)活動」は、「年に数回」が19.3%、「⑤収入のある仕事」については「週4回以上」と「週2~3回」合わせて約10%が「参加している」と回答している。

(4) 「たすけあい」について

問28 あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
 あてはまるすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください

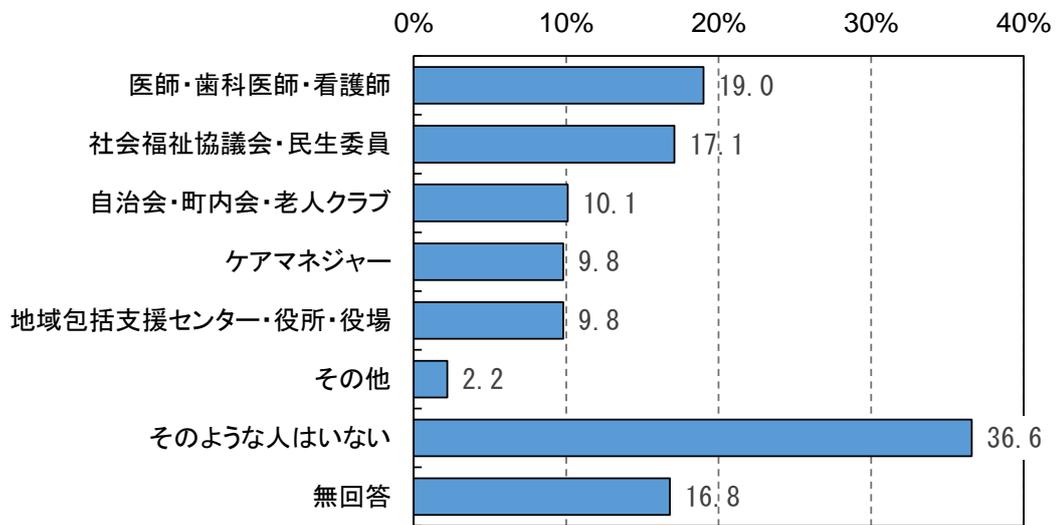


(回答者:1,194人)

あなたとまわりの人の「たすけあい」については、「①心配事や愚痴を聞いてくれる人」、
 「③病気で寝込んだ時に世話をしてくれる人」、「④病気で寝込んだ時に世話をしてあげる
 人」では、「配偶者」、「②心配事や愚痴を聞いてあげる人」では、「兄弟姉妹・親戚・
 親・孫」という回答が最も多くなっている。

(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

問29 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(電話のみも該当) (いくつでも)

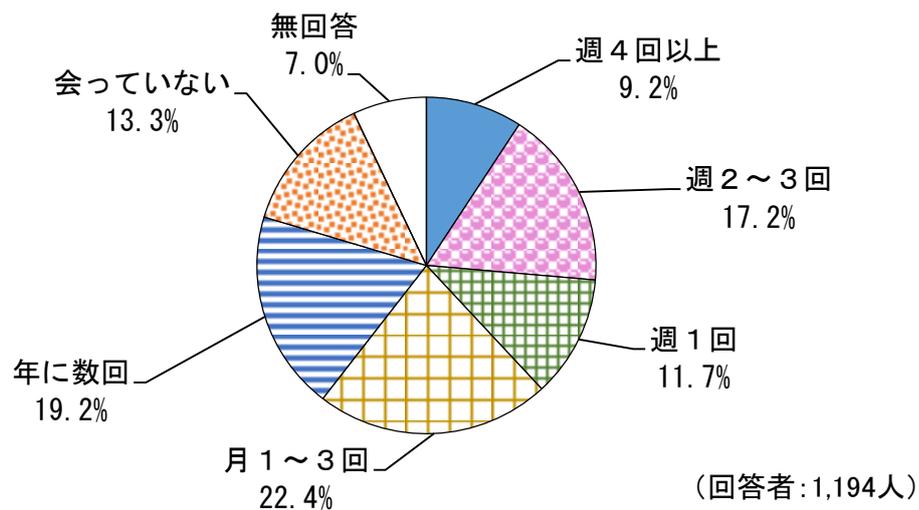


(回答者:1,194人)

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」が19.0%と最も多く、次いで「社会福祉協議会・民生委員」(17.1%)、「自治会・町内会・老人クラブ」(10.1%)と続いている。

(6) 友人関係について

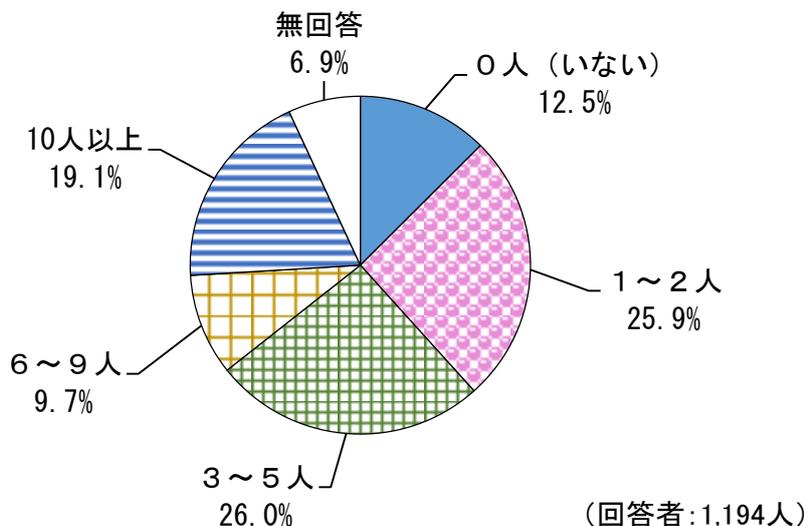
問30-1 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つ)



(回答者:1,194人)

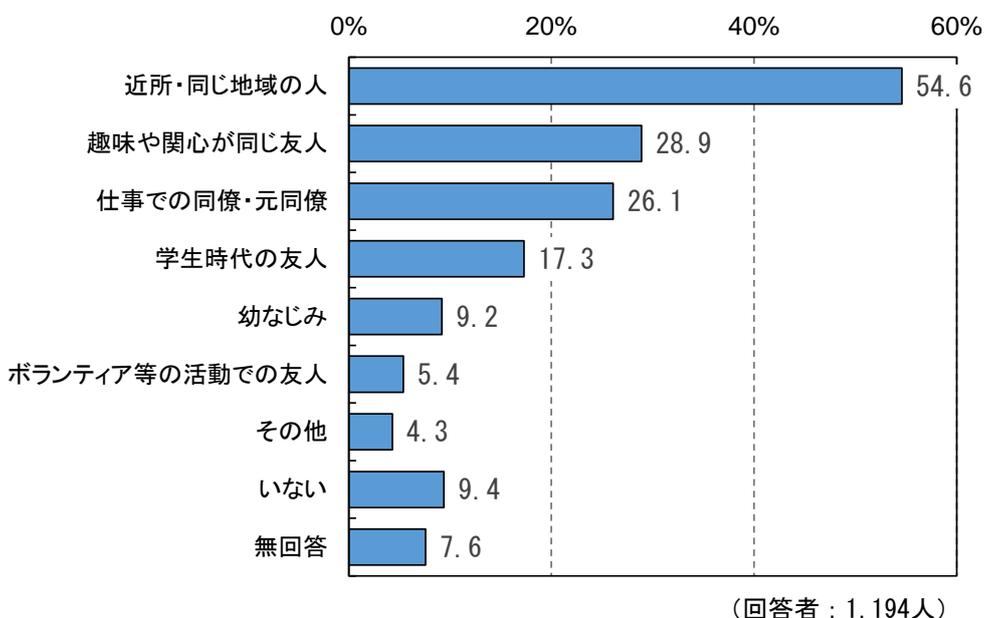
友人・知人と会う頻度は、「月1~3回」(22.4%)が最も多く、次いで「年に数回」(19.2%)、「週2~3回」(17.2%)、「会っていない」(13.3%)、「週1回」(11.7%)、「週4回以上」(9.2%)と続いている。

問30-2 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つ)



この1か月間、何人の友人・知人と会ったかは、「3～5人」が26.0%と最も多く、次いで「1人～2人」(25.9%)、「10人以上」(19.1%)、「0人(いない)」(12.5%)、「6人～9人」(9.7%)、と続いている。

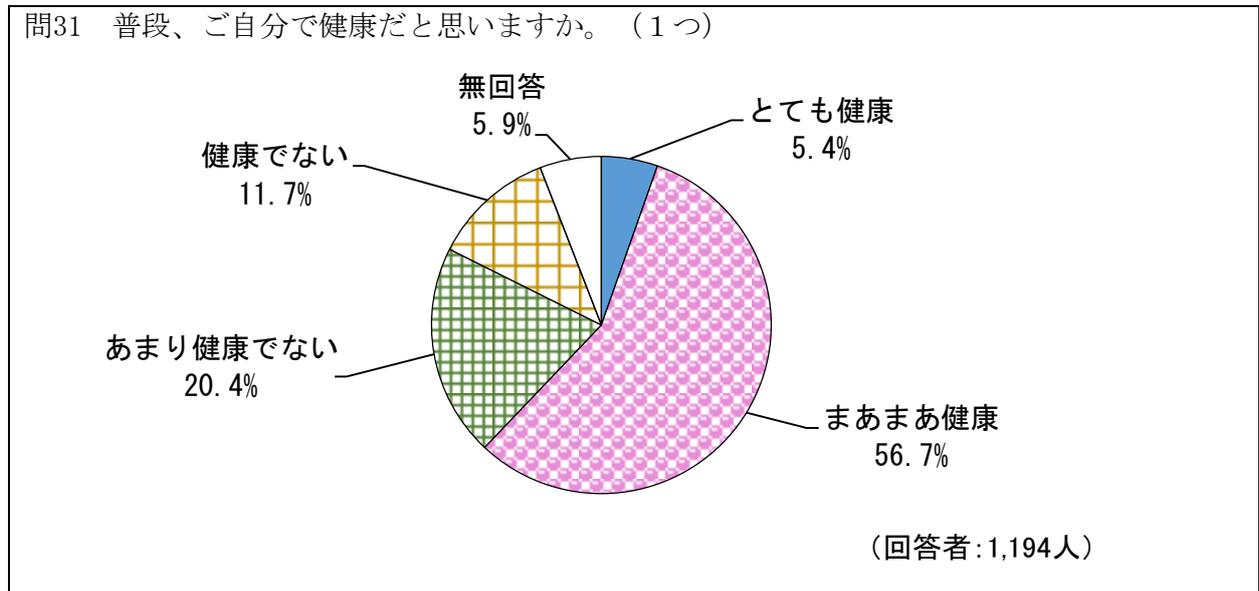
問30-3 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)



よく会う友人・知人はどんな関係かは、「近所・同じ地域の人」が54.6%と最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(28.9%)、「仕事での同僚・元同僚」(26.1%)と続いている。

9 健康について

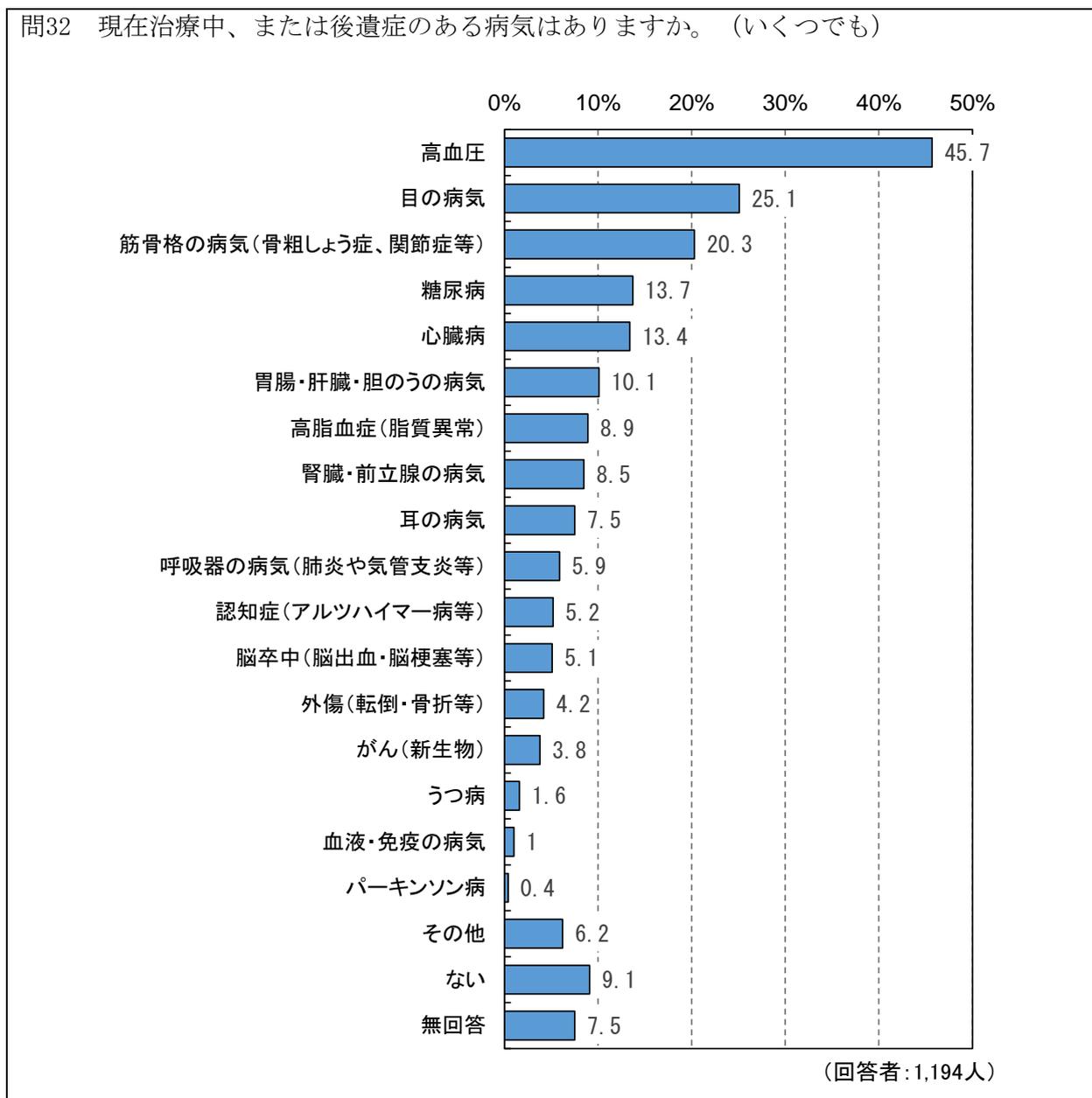
(1) 主観的健康観



普段、ご自分で健康だと思いますかでは「とても健康」(5.4%)、「まあまあ健康」(56.7%)を合わせると、62.1%が健康と回答している。

また、「あまり健康でない」(20.4%)、「健康でない」(11.7%)を合わせると、32.1%が健康でないと回答している。

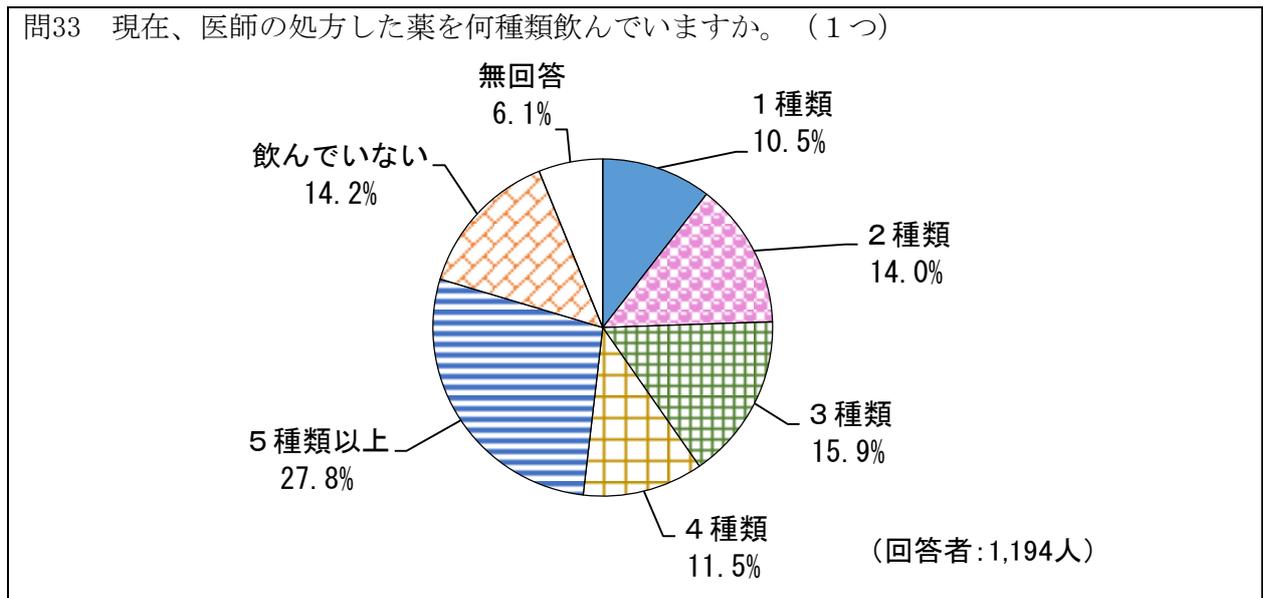
(2) 治療中の病気



現在治療中もしくは後遺症のある病気は、「高血圧」が45.7%と最も多く、次いで「目の病気」(25.1%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(20.3%)、「糖尿病」(13.7%)、「心臓病」(13.4%)、「胃腸・肝臓・胆のうの病気」(10.1%)、と続いている。

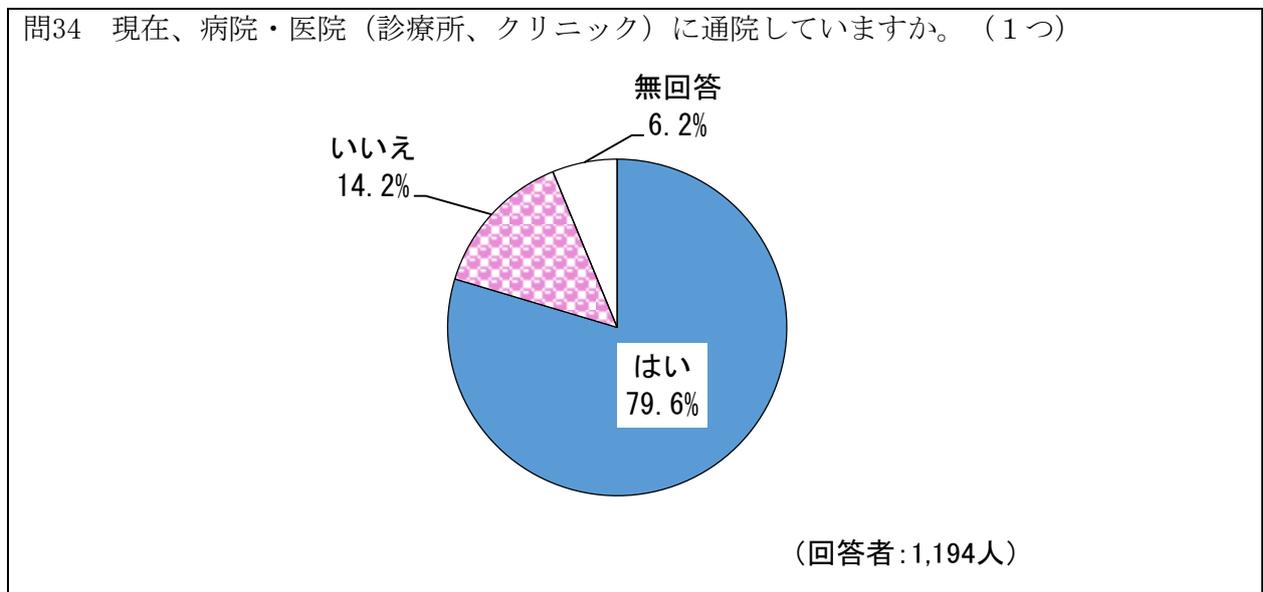
また、9.1%が「ない」と回答している。

(3) 服用中の薬の種類



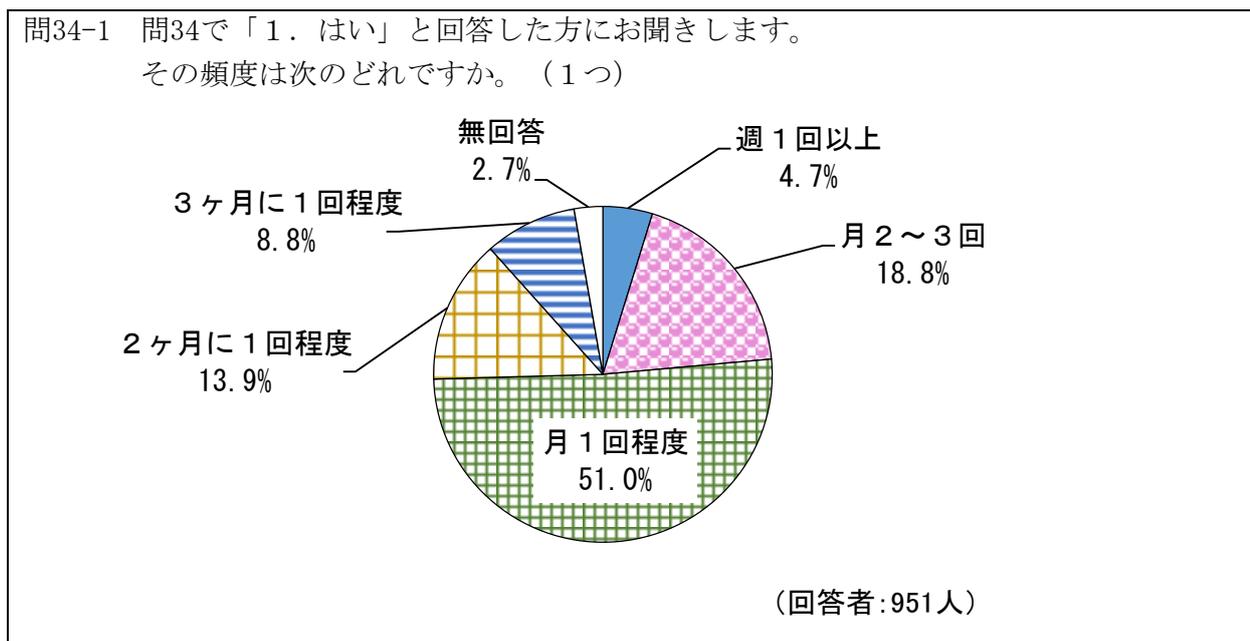
現在飲んでいる薬の種類は、「5種類以上」が27.8%で最も多く、以下、「3種類」(15.9%)、「2種類」(14.0%)、「4種類」(11.5%)、「1種類」(10.5%)と続いている。また、14.2%は「飲んでいない」と回答している。

(4) 通院の状況



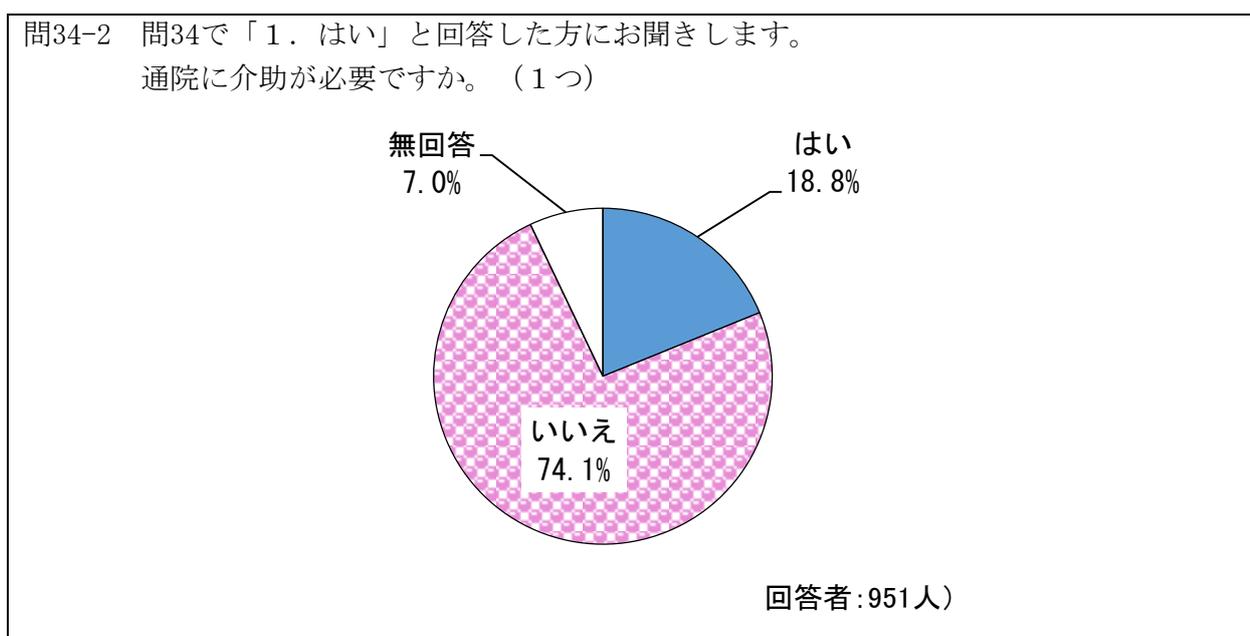
現在、病院・医院（診療所・クリニック）に通院しているかを尋ねたところ、79.6%が「はい」と回答している。

(5) 通院の頻度



問34で現在、病院・医院（診察所・クリニック）に通院していると回答した951人に、通院の頻度を尋ねたところ「月1回程度」が51.0%で最も多く、過半数を超えている。以下、「月2~3回」（18.8%）、「2ヶ月に1回程度」（13.9%）、「3ヶ月に1回程度」（8.8%）、「週1回以上」（4.7%）、の順となっている。

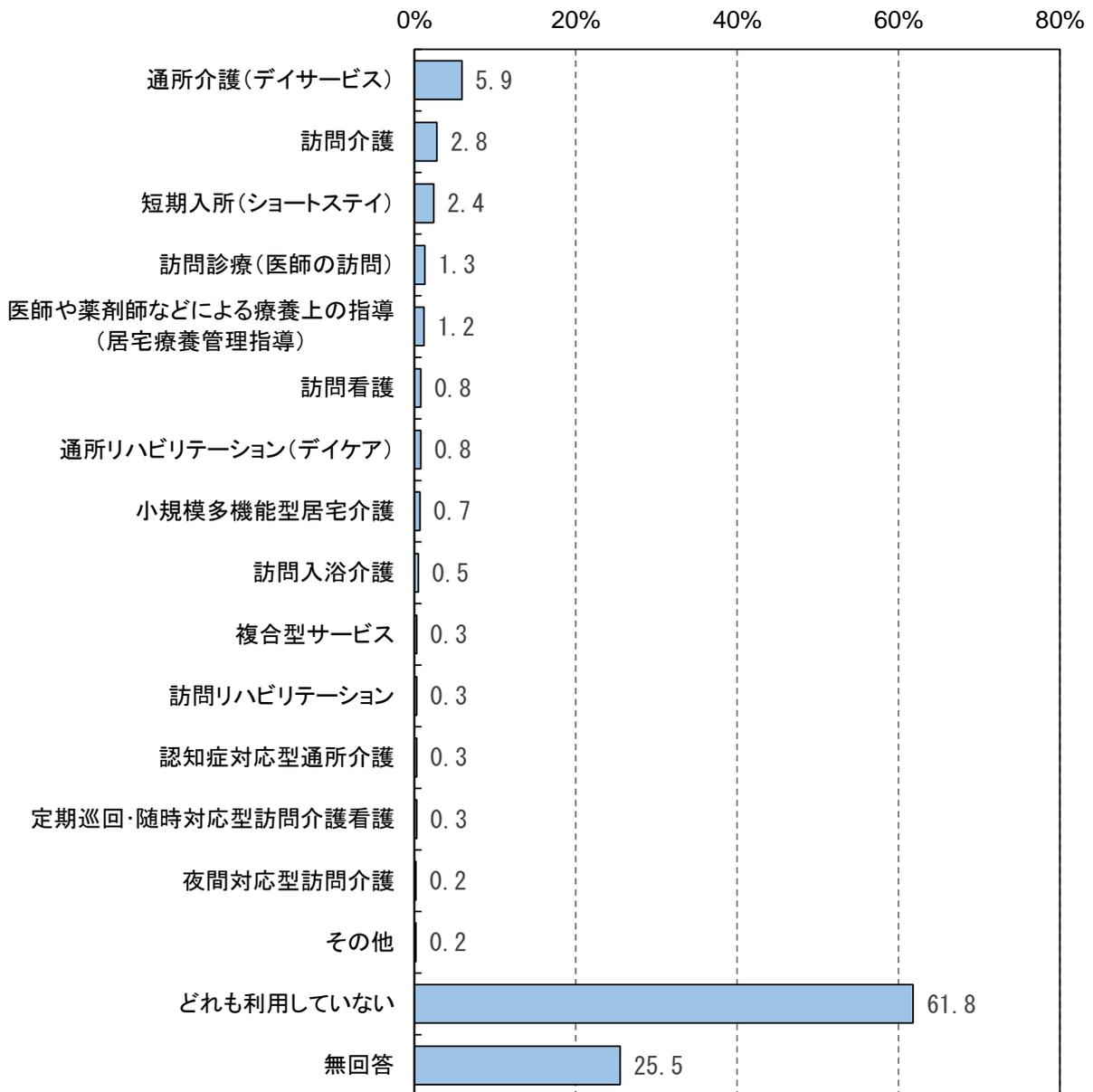
(6) 通院に介助を要するか



問34で現在、病院・医院（診察所・クリニック）に通院していると回答した951人に、通院に介助を要するか尋ねたところ、18.8%が「はい」と回答している。

(7) 介護サービスの利用状況

問35 以下の在宅サービス（介護保険サービス含む）を利用していますか。（いくつでも）

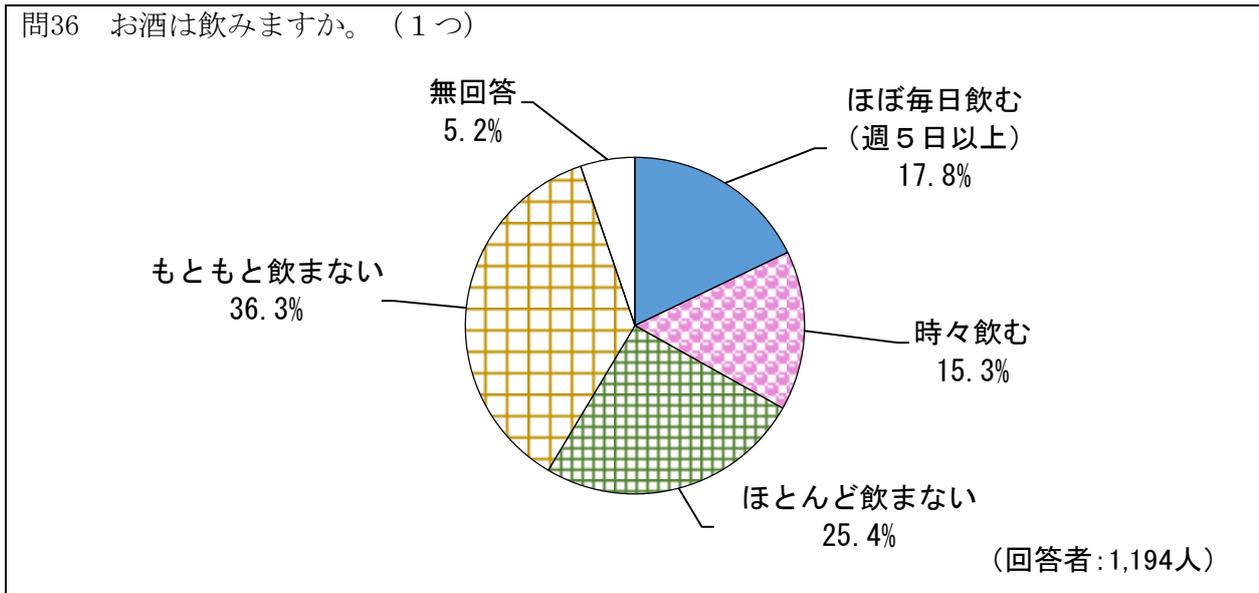


(回答者:1,194人)

利用している介護サービスについては、「通所介護（デイサービス）」が5.9%で最も多く、以下、「訪問介護」（2.8%）、「短期入所（ショートステイ）」（2.4%）、「訪問診療（医師の訪問）」（1.3%）、「医師や薬剤師などによる療養上の指導（居宅療養管理指導）」（1.2%）、「訪問看護」、「通所リハビリテーション（デイケア）」（いずれも0.8%）、「小規模多機能型居宅介護」（0.7%）、「訪問入浴介護」（0.5%）、などの順となっている。

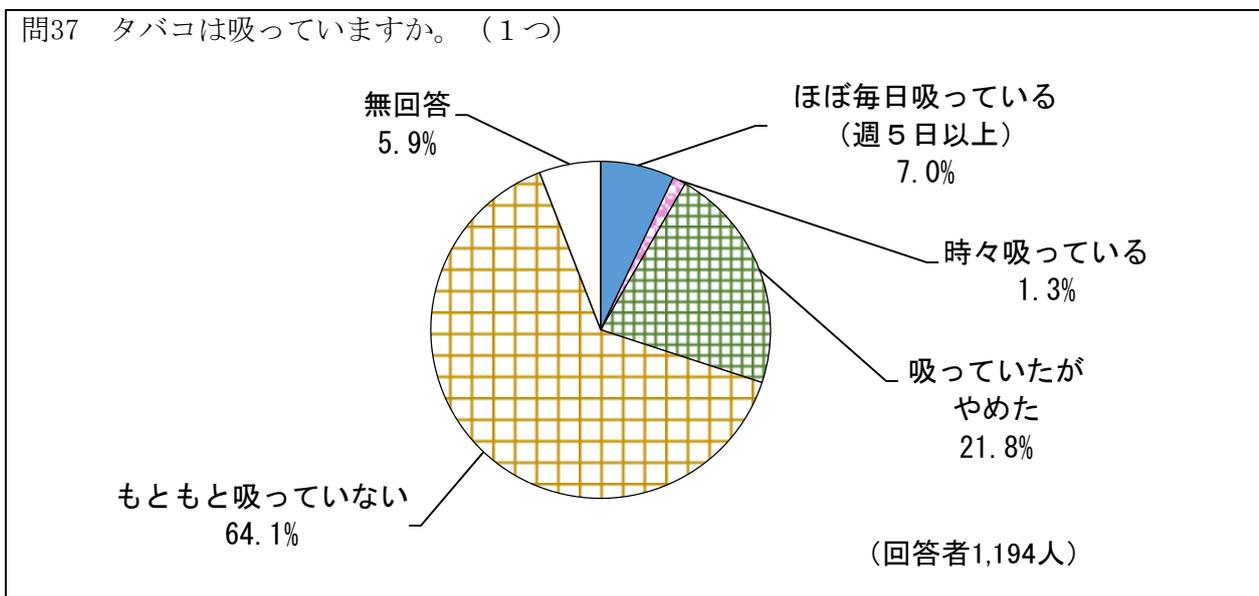
なお、61.8%は「利用していない」と回答している。

(8) 飲酒の状況



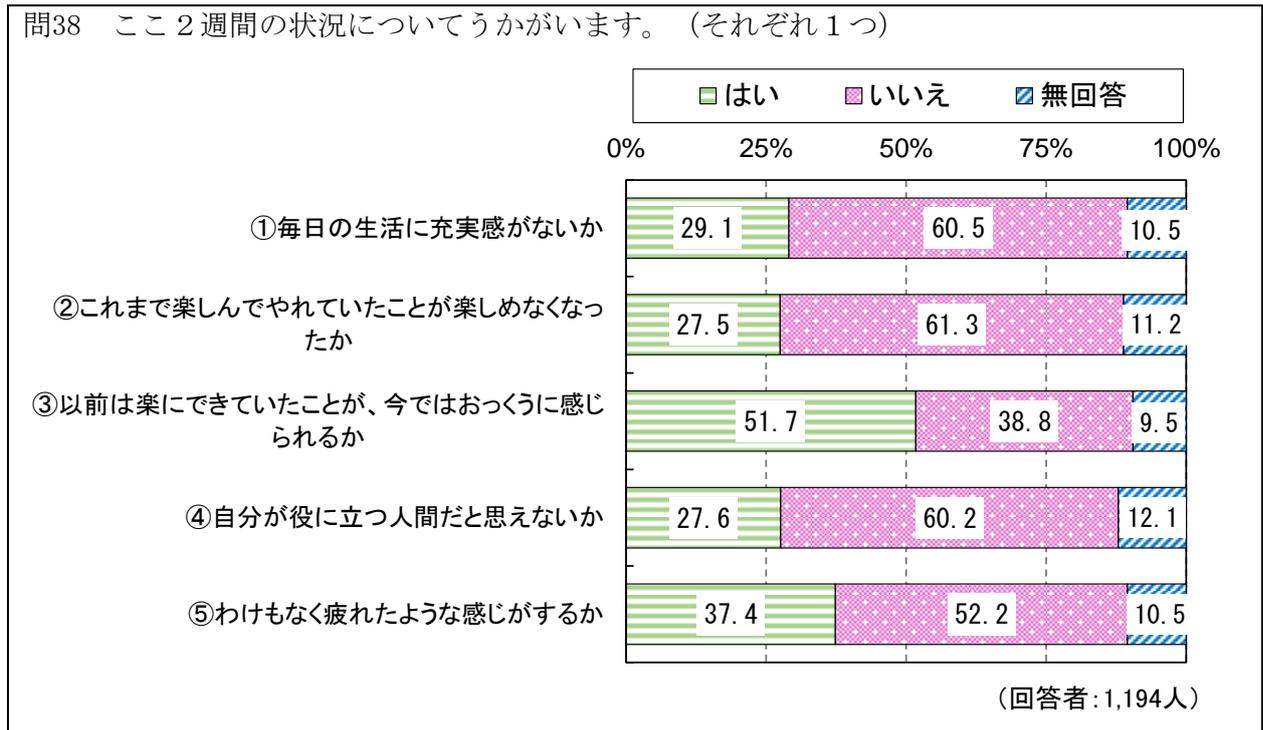
飲酒については、「もともと飲まない」が36.3%で最も多く、以下、「ほとんど飲まない」が25.4%、「ほぼ毎日飲む」が17.8%、「時々飲む」が15.3%となっている。飲酒する割合（「ほぼ毎日飲む」及び「時々飲む」の合計）は3割程度であることが分かる。

(9) 喫煙の状況



喫煙については、「もともと吸っていない」が64.1%と過半数を占めて最も多く、以下、「吸っていたがやめた」が21.8%、「ほぼ毎日吸っている」が7.0%、「時々吸っている」が1.3%となっている。喫煙者の割合（「ほぼ毎日吸っている」及び「時々吸っている」の合計）は8.3%であることが分かる。

(10) 最近 2 週間の心の状況

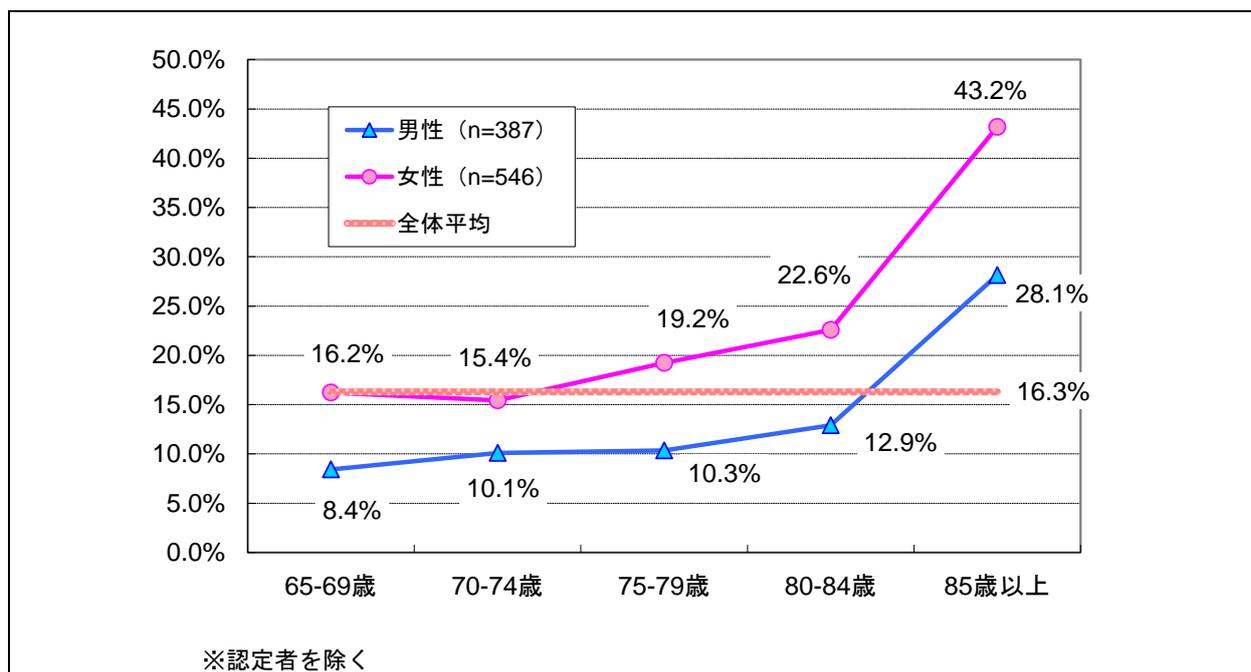


ここ 2 週間の状況について、「はい」の回答割合が最も高かった項目は、「③以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる」でその数値は51.7%を示している。以下、「⑤わけもなく疲れたような感じがする」が37.4%、「①毎日の生活に充実感がない」が29.1%、「④自分が役に立つ人間だと思えない」が27.5%、「②これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」が27.5%となっている。

Ⅲ 調査結果②【項目別リスク分析】

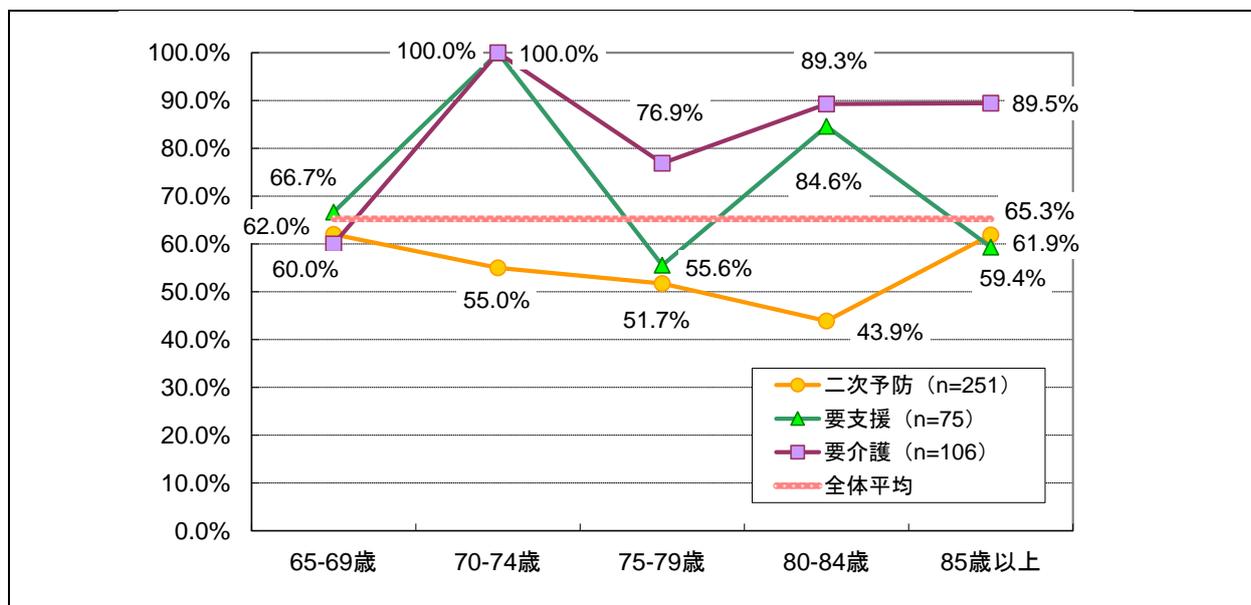
1 運動器

(1) 男女・年齢階級別該当状況



運動器リスクについて、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも同様の傾向を示しているが、「女性」が全年齢階級において「男性」より運動器リスクが高くなっていることが分かる。

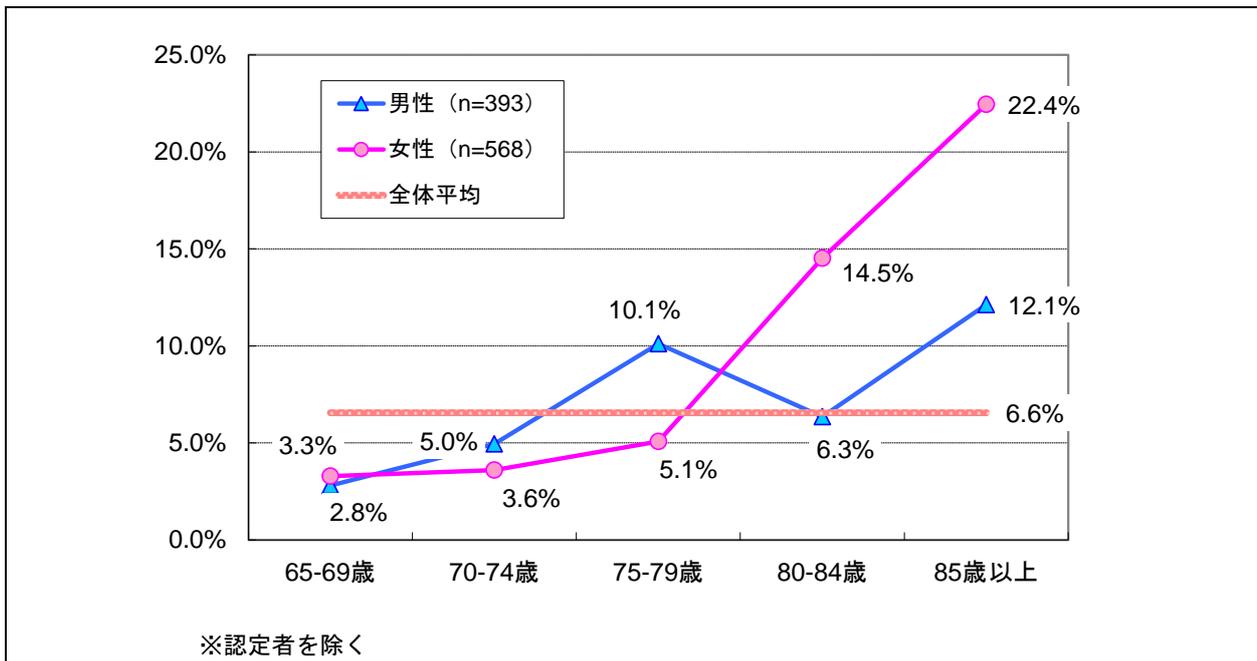
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



運動器リスクについて、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「二次予防」については、「80-84歳」以外の各年齢階級ではいずれも50%程度が該当していることが分かる。また、「要支援」、「要介護」いずれも「70-74歳」で該当割合が最も高い。(なお、「一般」については、全員非該当である。)

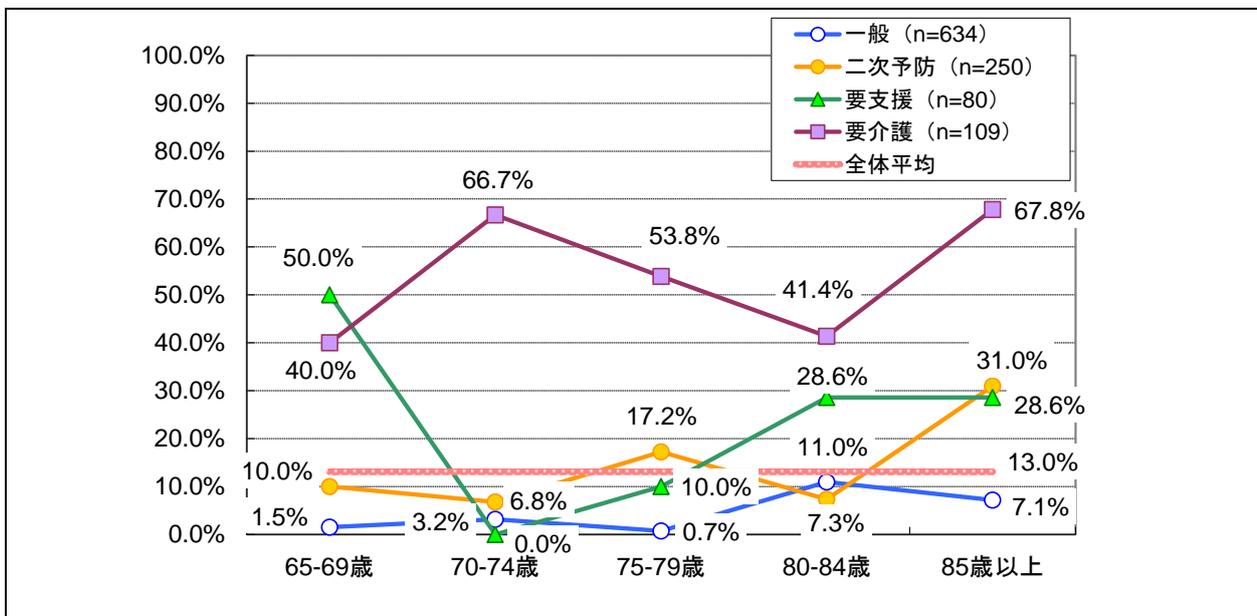
2 閉じこもり

(1) 男女・年齢階級別該当状況



閉じこもりリスクについて、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも「85歳以上」階級で最も高いことが分かる。また、「女性」については「80-84歳」階級から数値が大きく上昇している。

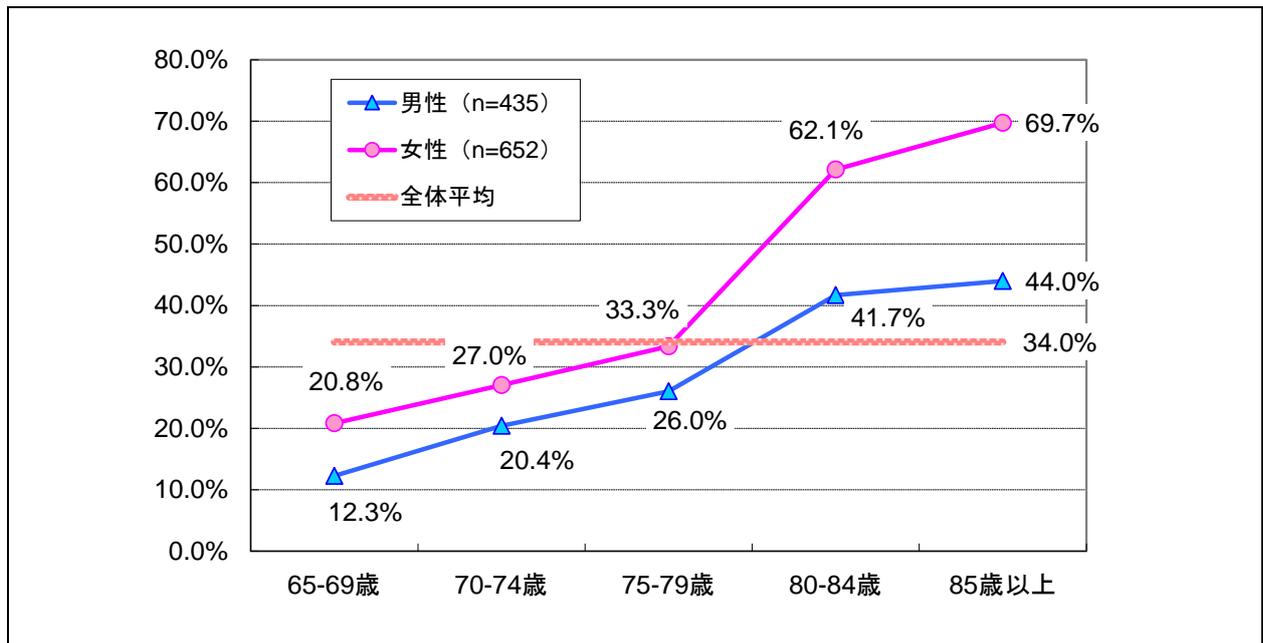
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



閉じこもりリスクについて、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「要介護」が「65-69歳」の年齢階級以外は他に比べて高い数値を示しているほか、「要支援」については「65-69歳」の年齢階級が突出して高くなっている。

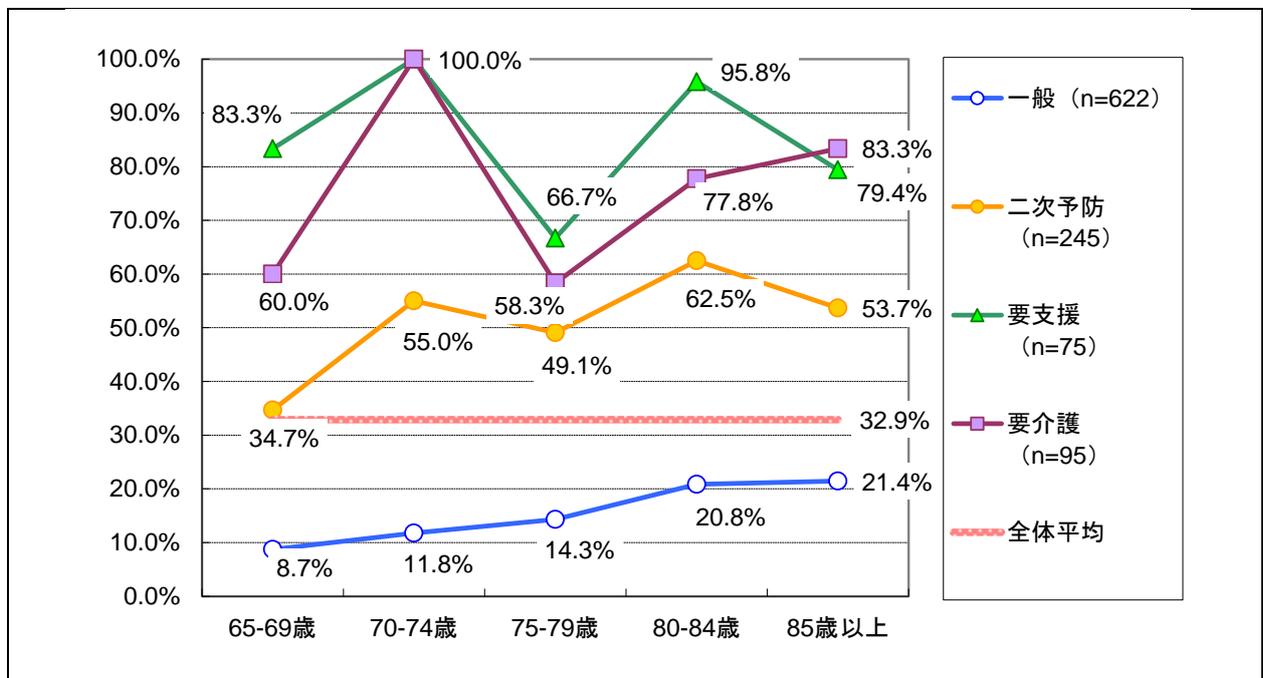
3 転倒

(1) 男女・年齢階級別該当状況



転倒リスクについて、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっていくことが特徴的である。

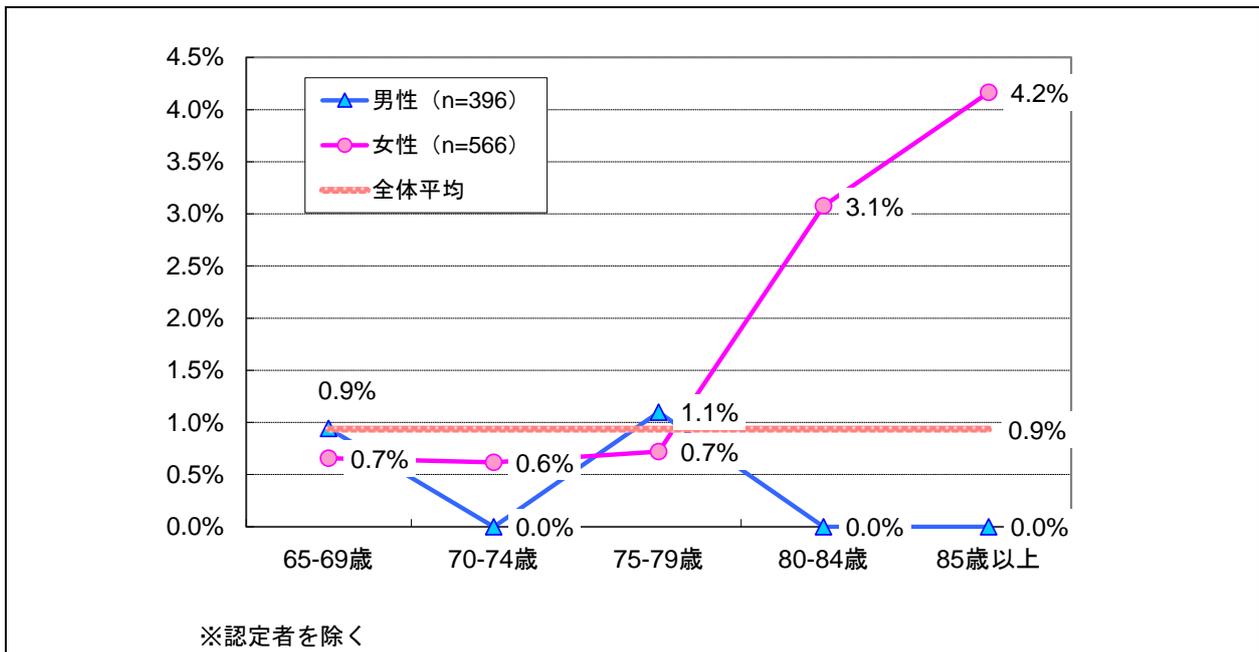
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



転倒リスクについて、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「一般」階級は年齢が上がるにつれて数値が高くなる傾向を示し、他の年齢階級では、「70-74歳」と「80-84歳」で数値が上昇する特徴を示している。

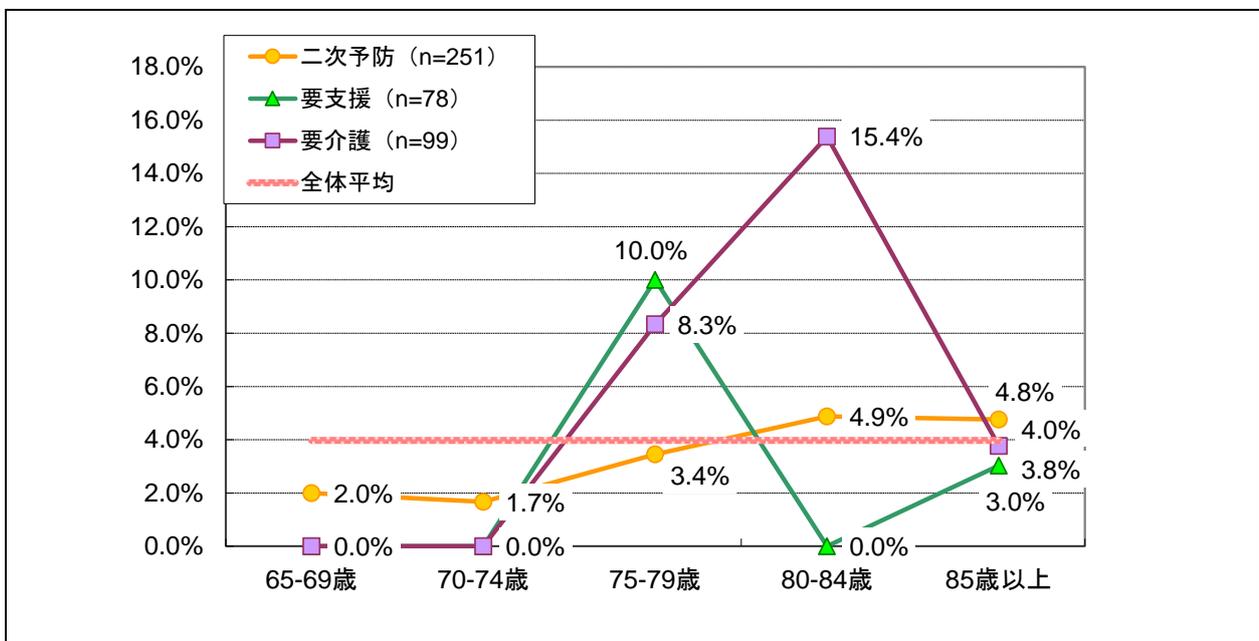
4 栄養

(1) 男女・年齢階級別該当状況



栄養リスクについて、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「女性」の「80-84歳」以上の年齢階級で数値がひととき高くなっている。

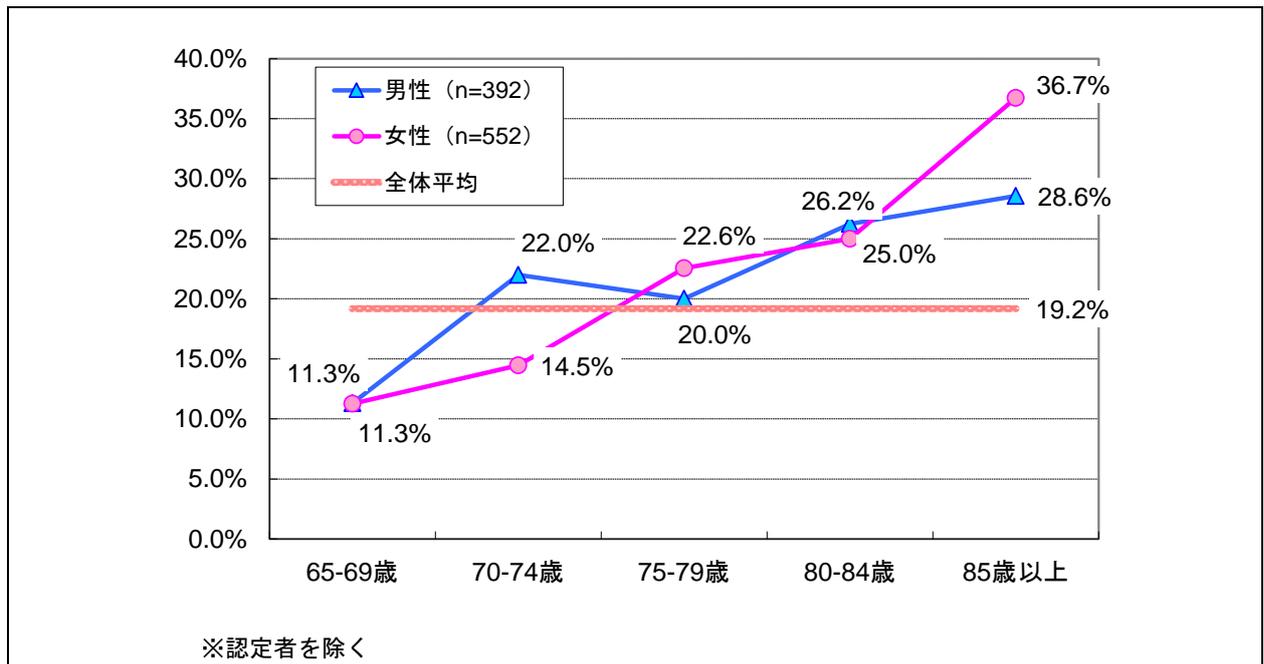
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



栄養リスクについて、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、全体的に後期高齢者の該当傾向がうかがえる。（なお、「一般」については、全員非該当である。）

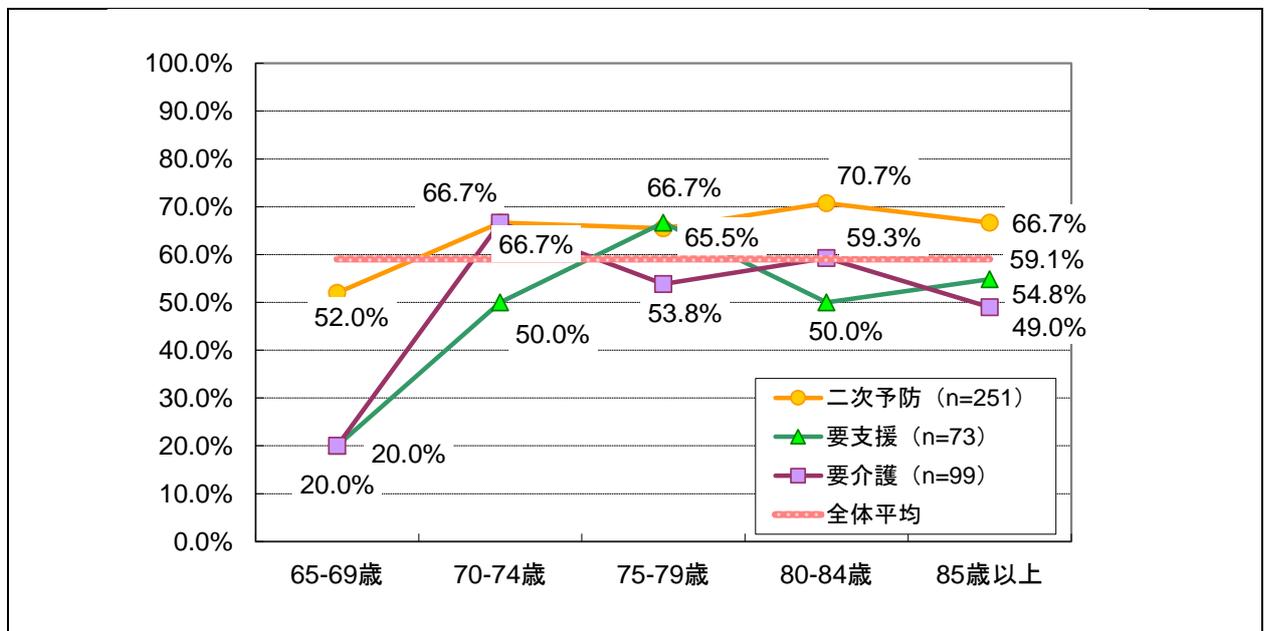
5 口腔

(1) 男女・年齢階級別該当状況



口腔リスクについて、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」では「80-84歳」以上の年齢階級から高くなり、「女性」では「85歳以上」で高くなっている。

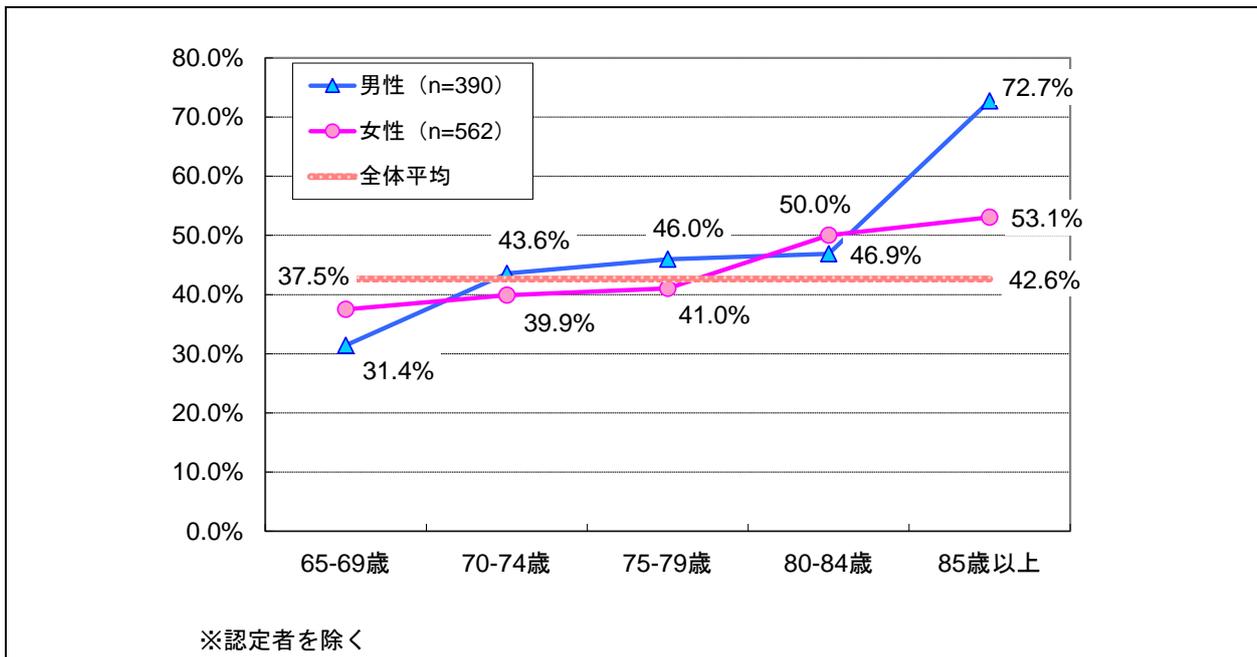
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



口腔リスクについて、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、総じて「二次予防」が「要支援」及び「要介護」に比して数値が高いことを示している。（なお、「一般」については、全員非該当である。）

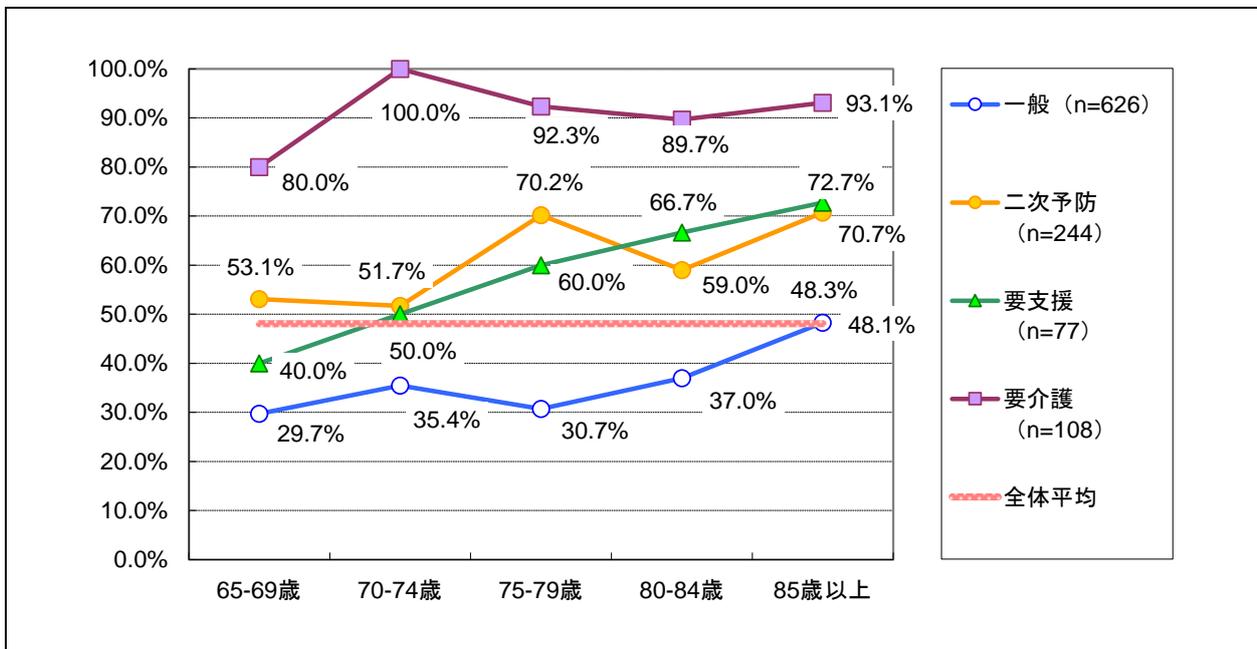
6 認知症予防

(1) 男女・年齢階級別該当状況



認知症予防について、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっている。特に「男性」では、「85歳以上」の年齢階級において数値が高くなっている。

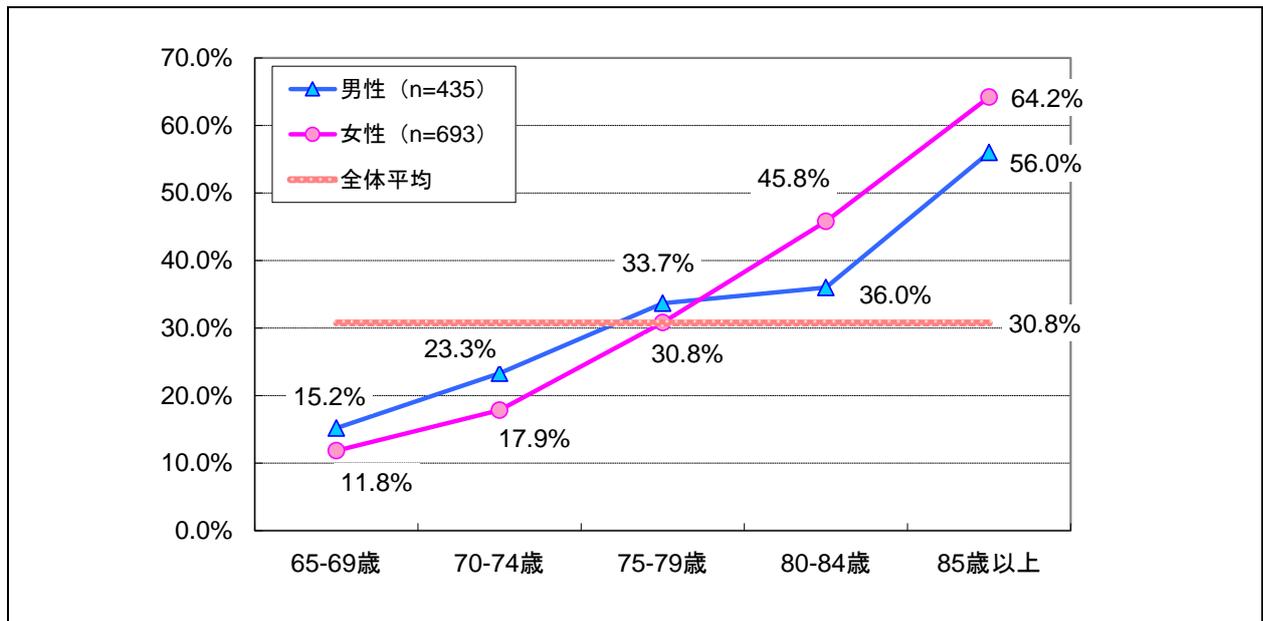
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



認知症予防について、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「要介護」の「70-74歳」年齢階級で数値が最も高くなっている。また、「二次予防」の「65-69歳」、「70-74歳」、「75-79歳」の年齢階級においては、「要支援」の同年齢階級より数値が高くなっていることが分かる。

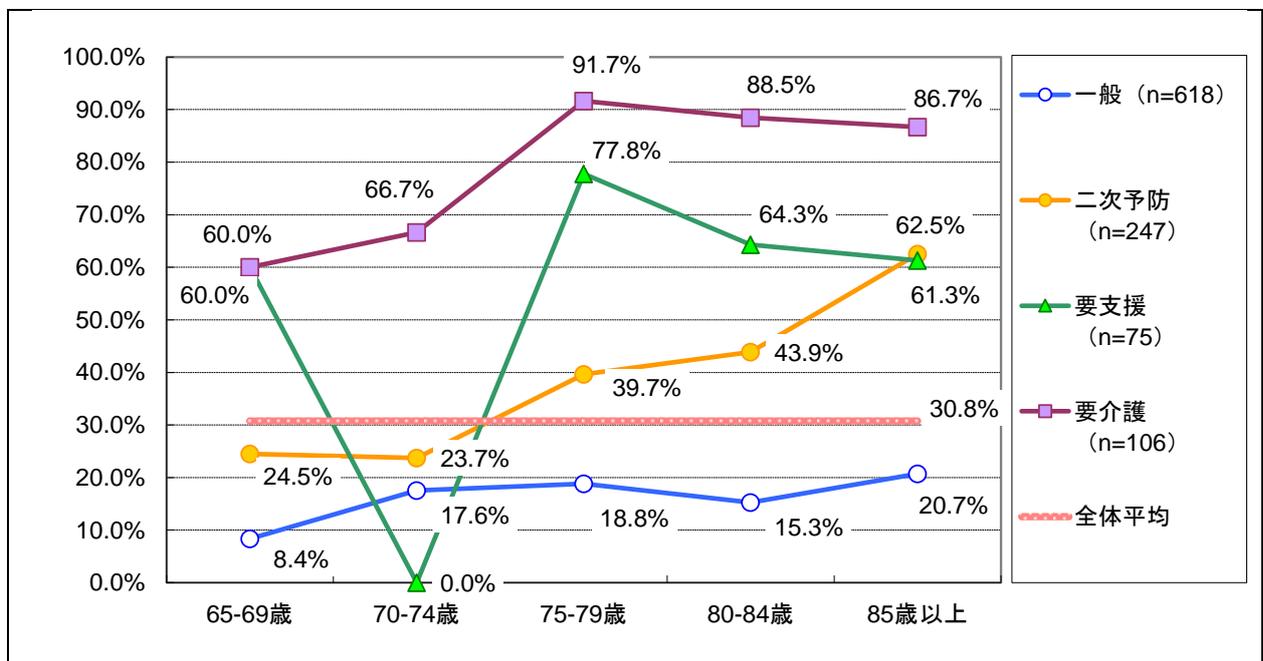
7 認知機能障害程度（CPS）

（1）男女・年齢階級別該当状況



認知機能障害程度（CPS）について、男女別、年齢階級別にリスク者割合をみると「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっていくことが分かる。

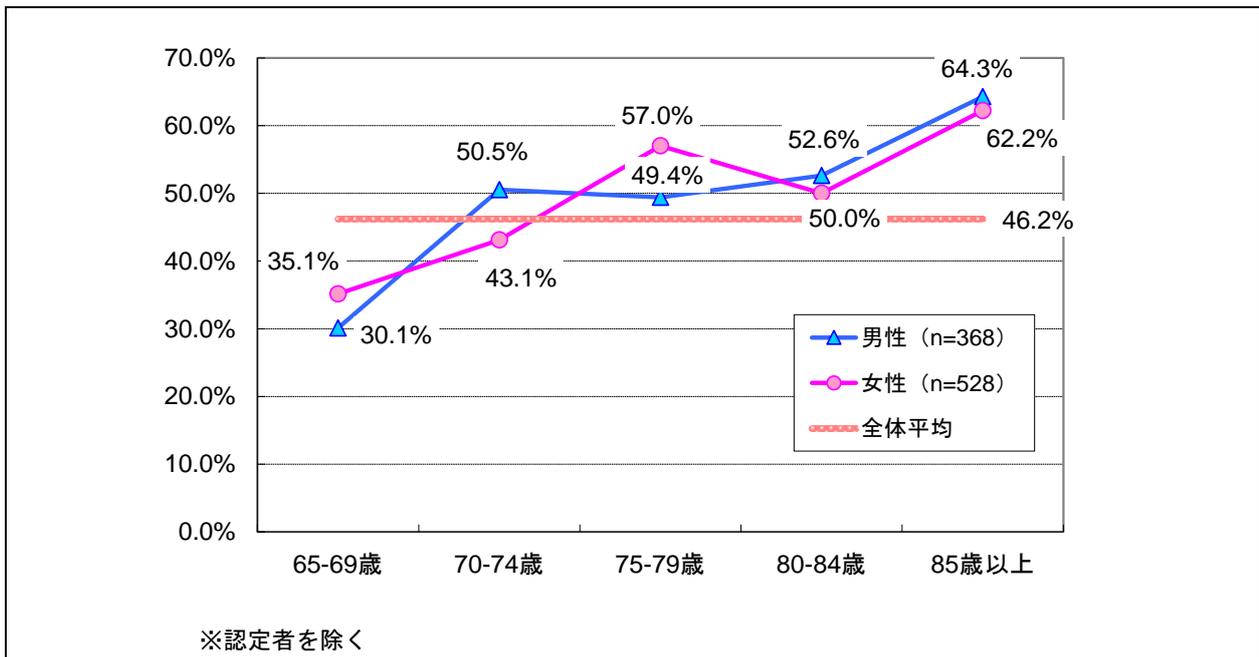
（2）認定状況・年齢階級別該当状況



認知機能障害程度（CPS）について、認定状況別、年齢階級別にリスク者割合をみると、「一般」についても、「85歳以上」では2割以上が該当していることが分かる。

8 うつ予防

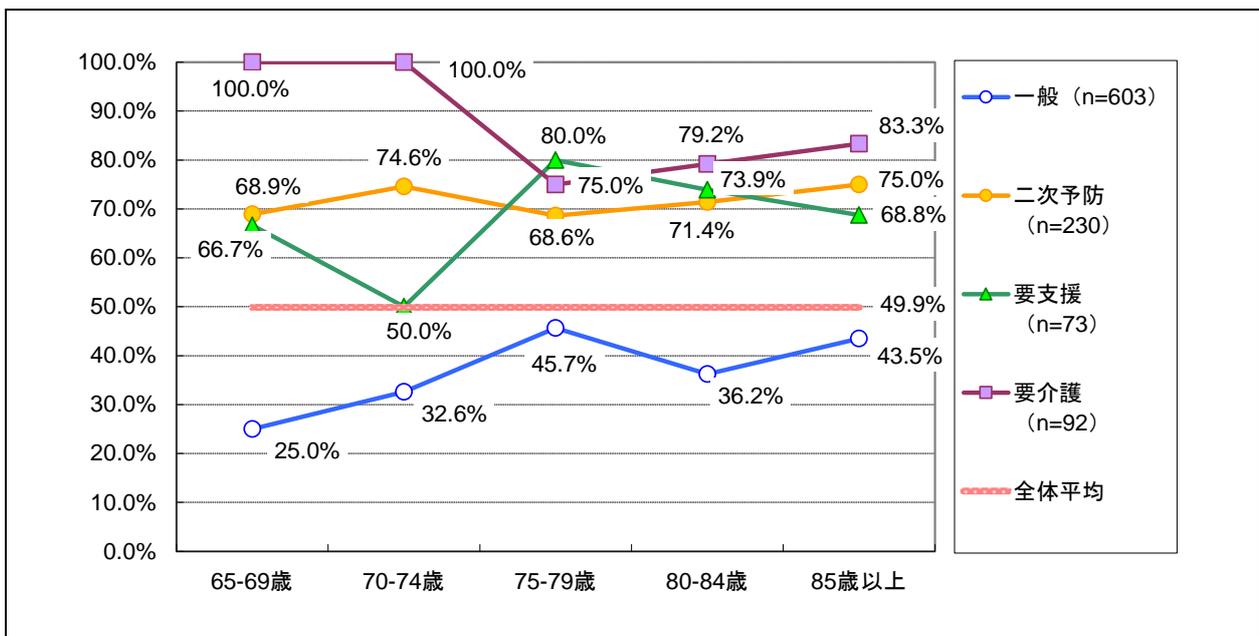
(1) 男女・年齢階級別該当状況



うつ予防について、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」は「70-74歳」、「85歳以上」の年齢階級で、「女性」は「75-79歳」と「85歳以上」年齢階級で数値が大きく上昇するのが分かります。

また、「男性」は「70-74歳」、「80-84歳」、「85歳以上」の年齢階級で「女性」の数値を上回っています。

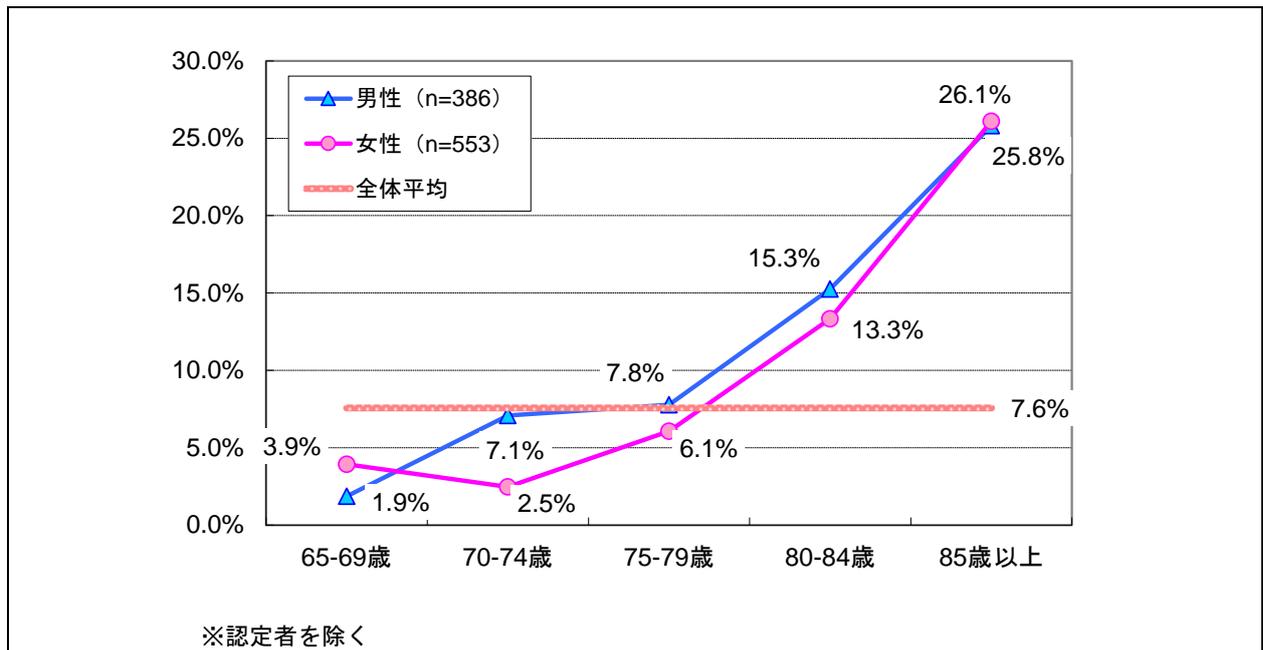
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



うつ予防について、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「二次予防」、「要支援」、「要介護」についてはいずれの年齢階級においても該当者割合は50%以上となっていることが分かる。また、「一般」については年齢が上がるにつれて数値が高くなっていくものの、いずれの年齢階級においても該当者割合は50%を下回っている。

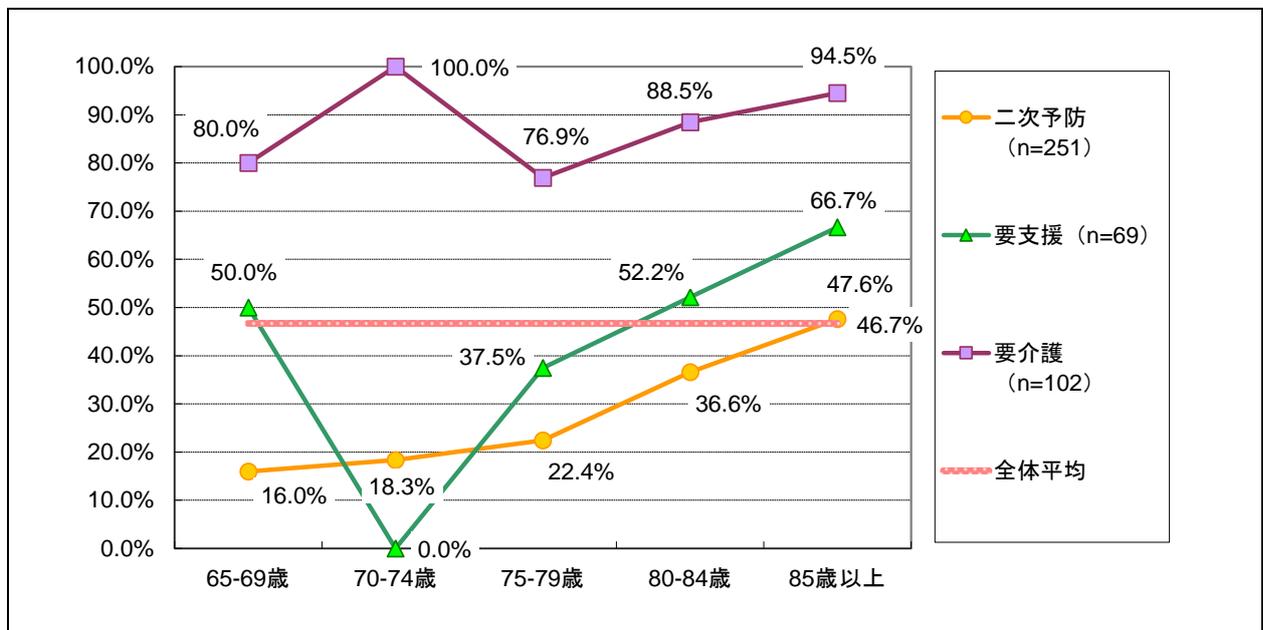
9 虚弱

(1) 男女・年齢階級別該当状況



虚弱判定について、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっており、特に「85歳以上」になると急激に数値が高くなっていることが特徴的である。

(2) 認定状況・年齢階級別該当状況

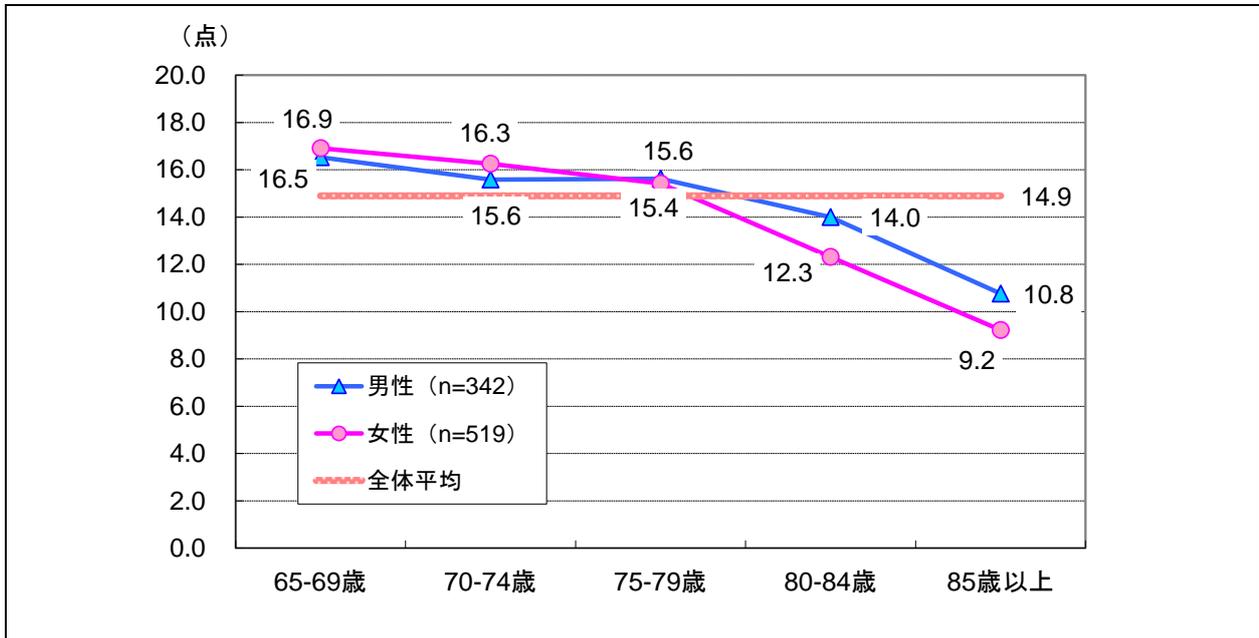


虚弱判定について、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「要介護」ではいずれの年齢階級においても7割以上の数値を示す一方、「二次予防」については、「70-74歳」を除く各年齢階級において「要支援」、「要介護」の数値を下回っている。（なお、「一般」については、全員非該当である。）

10 基本チェックリスト得点

※この項目の指標はリスク該当者割合でなく、肯定的な数値であることに注意。

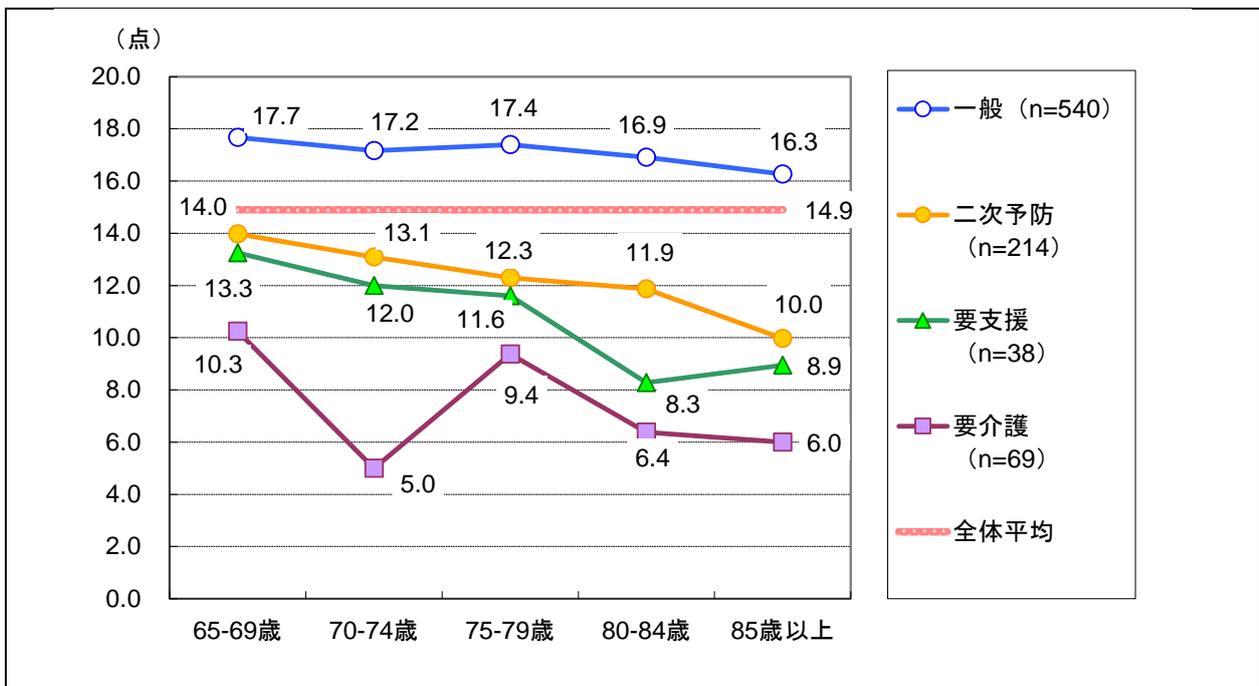
(1) 男女・年齢階級別該当状況



基本チェックリスト得点について、男女別、年齢階級別に平均得点をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて得点が低下している。

「女性」は、「75-79歳」以上の年齢階級の数値は、「男性」を下回っている。

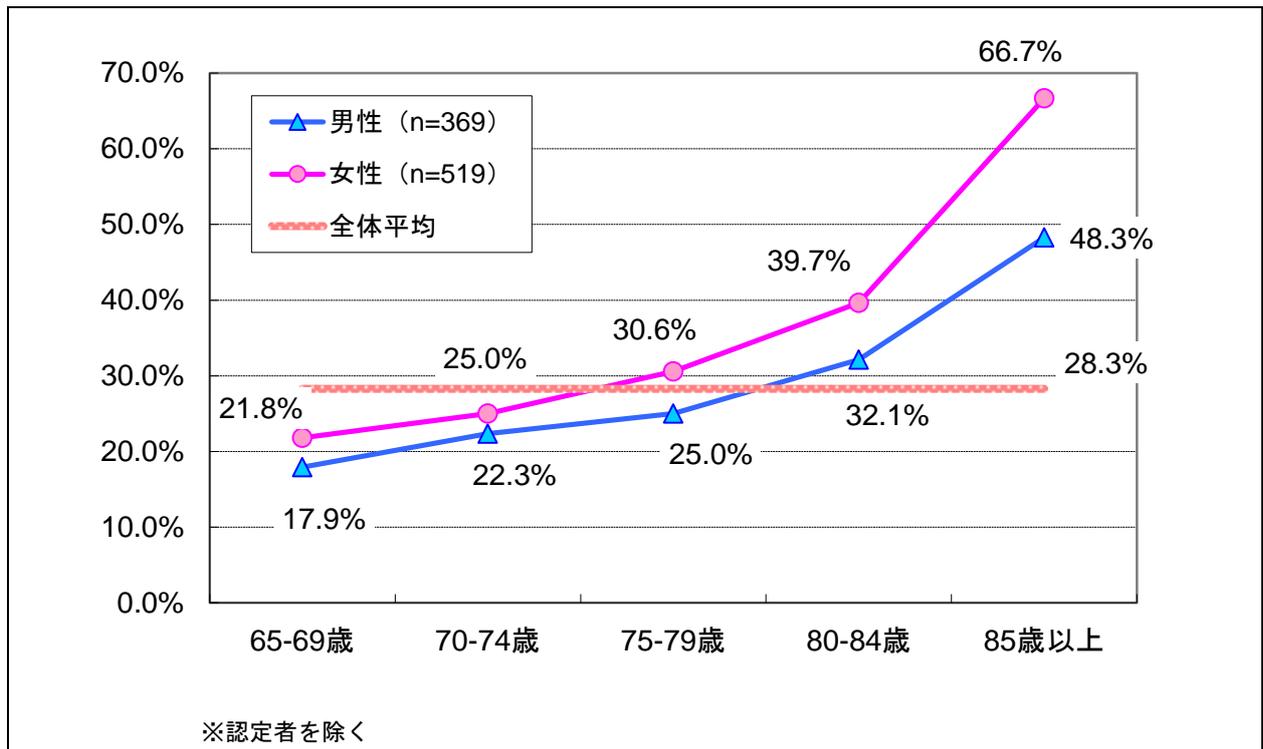
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



基本チェックリスト得点について、認定状況別、年齢階級別に平均得点をみると、「一般」についてはいずれの年齢階級においても全体平均を上回る一方、「二次予防」、「要支援」、「要介護」については、いずれの年齢階級においても全体平均を下回っている。

11 二次予防対象者

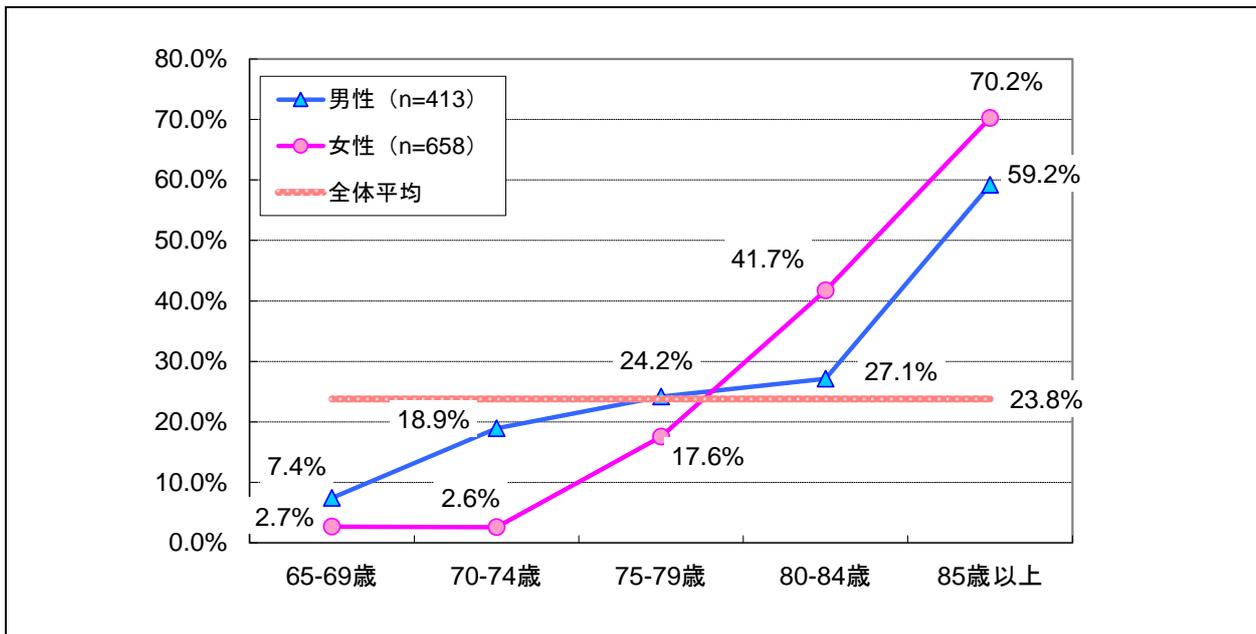
(1) 男女・年齢階級別該当状況



二次予防対象者について、男女別、年齢階級別に該当者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっていることが分かる。

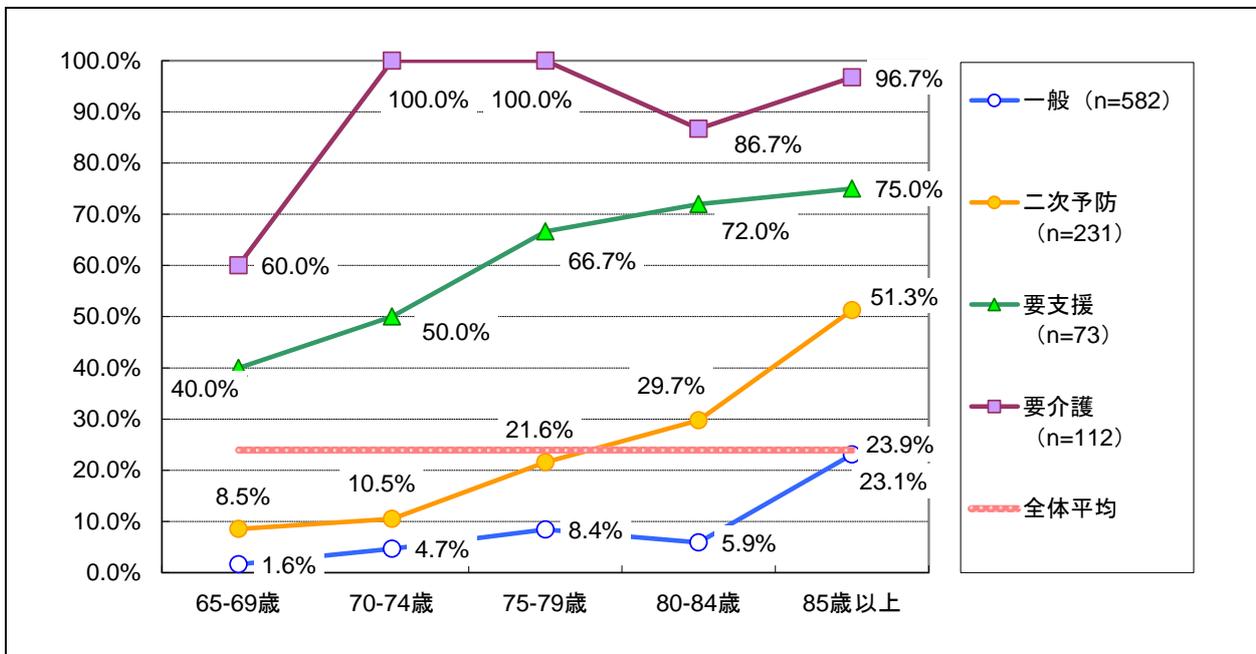
12 手段的自立度（IADL）

（1）男女・年齢階級別該当状況



手段的自立度（IADL）について、男女別、年齢階級別に低下者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっており、特に「男性」は「85歳以上」、「女性」は「75-79歳」以上からの上昇傾向が顕著である。

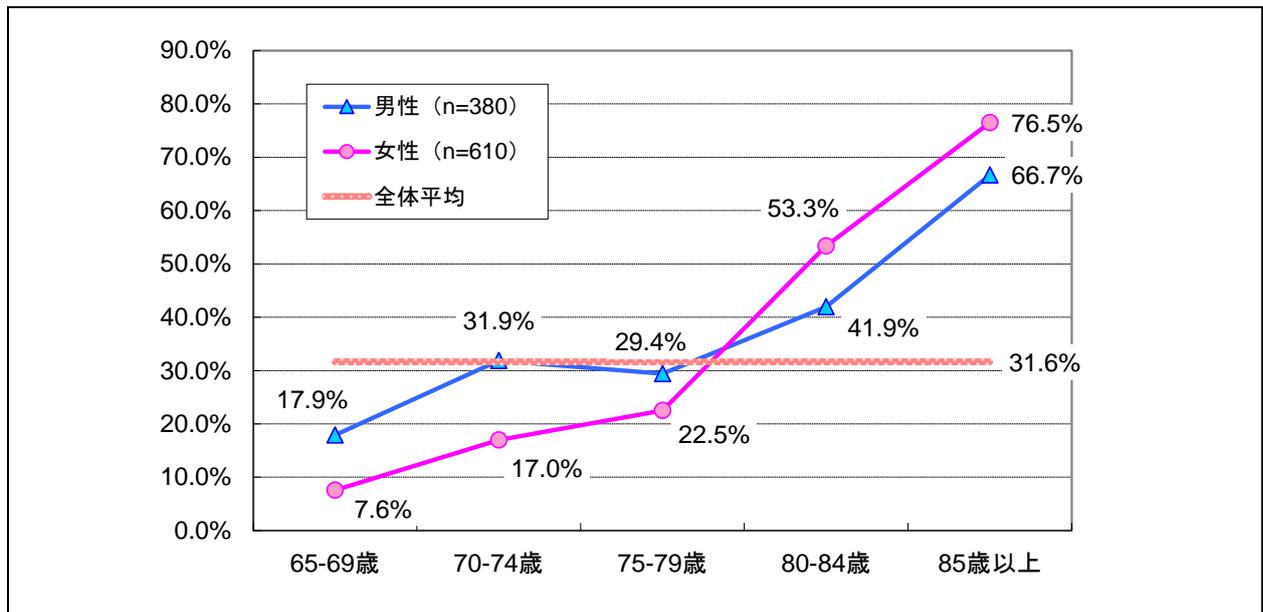
（2）認定状況・年齢階級別該当状況



手段的自立度（IADL）について、認定状況別、年齢階級別に低下者割合をみると、「要介護」では「65-69歳」の年齢階級で6割、それ以外の年齢階級では8割以上の高い数値を示している。また「二次予防」については、「85歳以上」の数値の上昇が目立っている。

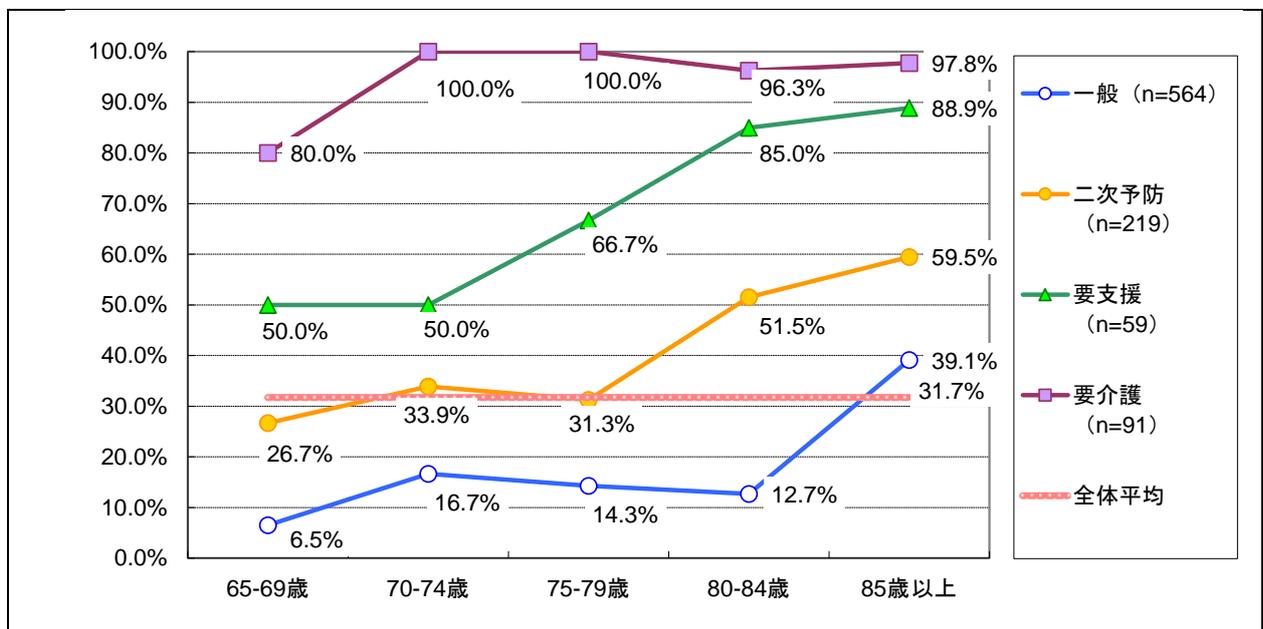
13 生活機能総合評価

(1) 男女・年齢階級別該当状況



生活機能総合評価結果から、男女別、年齢階級別に低下者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっており、特に「80-84歳」からの上昇傾向が顕著である。

(2) 認定状況・年齢階級別該当状況

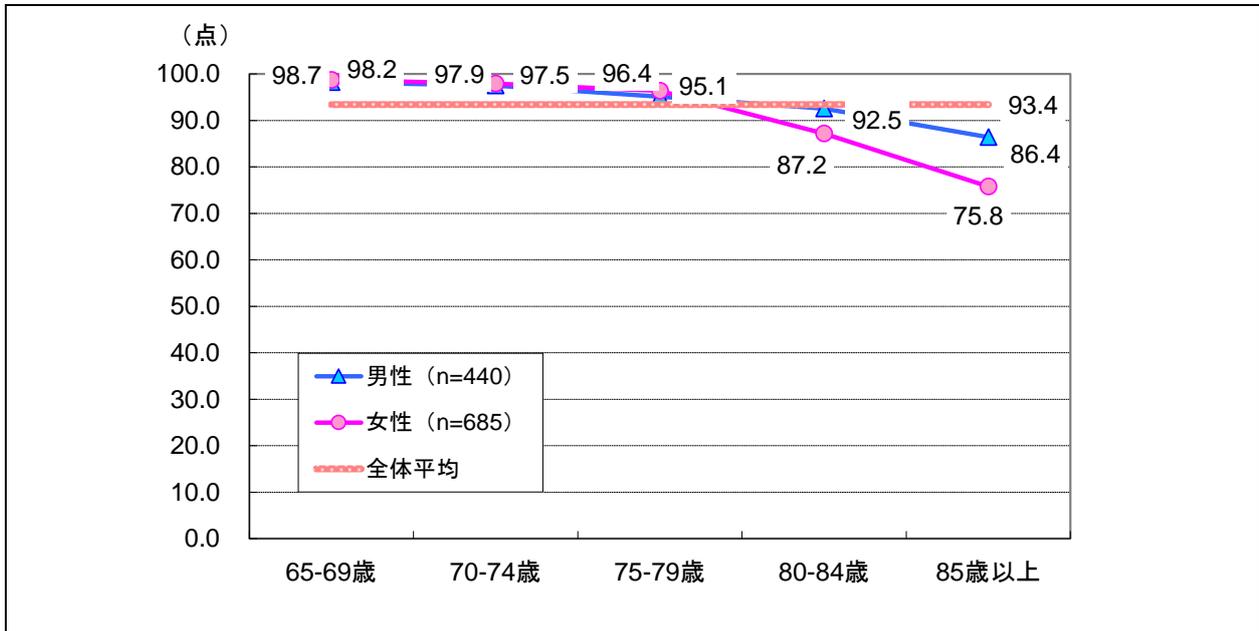


生活機能総合評価結果から、認定状況別、年齢階級別に低下者割合をみると、「要介護」ではいずれの年齢階級においても8割以上の高い数値を示している。「要支援」については「75-79歳」からの上昇傾向が顕著である。また、「二次予防」では、「80-84歳」の数値の上昇が目立っている。

14 日常生活動作（ADL）

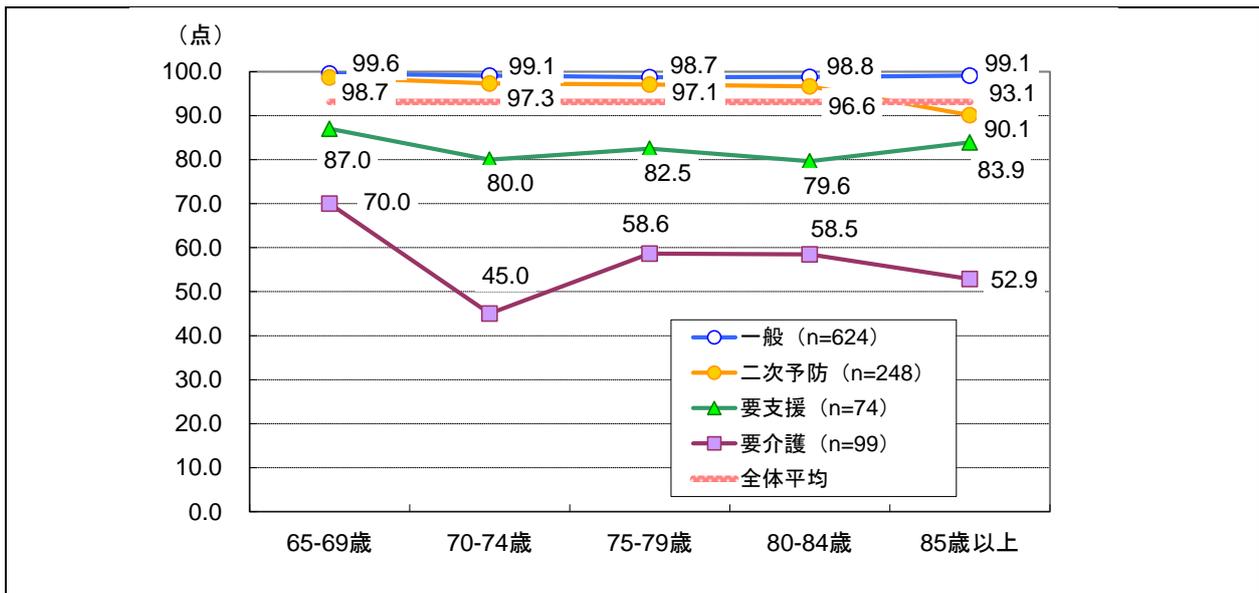
※この項目の指標はリスク該当者割合でなく、肯定的な数値であることに注意。

（1）男女・年齢階級別該当状況



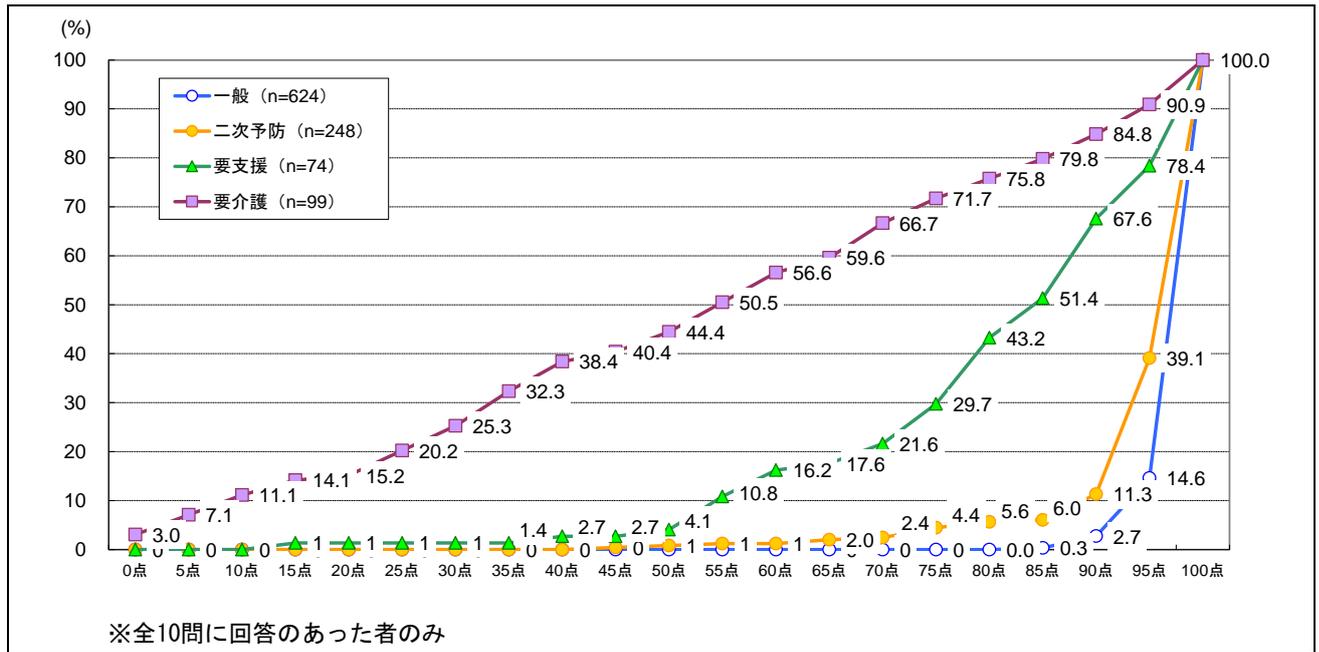
日常生活動作（ADL）について、男女別、年齢階級別に平均得点をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて得点が低下する傾向がみられ、「85歳以上」の数値の低下が顕著であることも共通している。また、「75-79歳」までの男女の得点に大きな差はみられないが、「80-84歳」以上の年齢階級では「女性」の数値が「男性」の数値を下回ることが特徴的である。

（2）認定状況・年齢階級別該当状況



日常生活動作（ADL）について、認定状況別、年齢階級別に平均得点をみると、いずれの年齢階級においても「一般」、「二次予防」、「要支援」、「要介護」の序列順に得点が低くなっていくことが分かる。

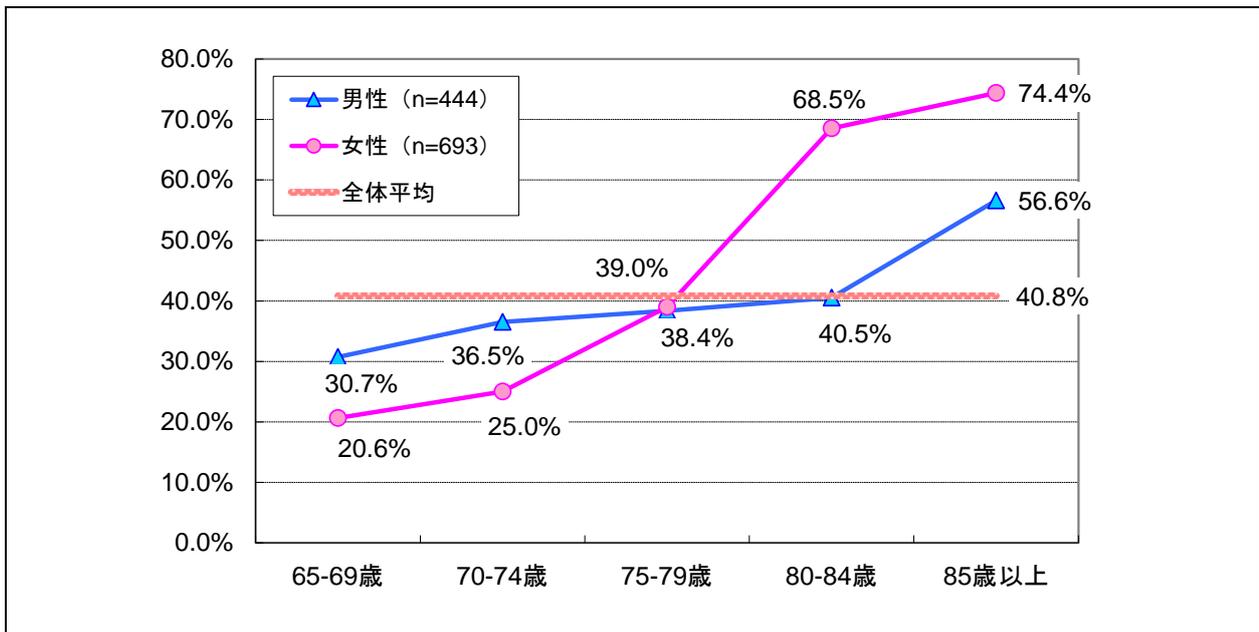
(3) ADL得点累積相対度数



日常生活動作（ADL）について、ADL得点累積相対度数をみると、「一般」については高得点が大半を占めるためL字型の分布となっている一方、「要介護」は高得点から低得点が分散しているため、直線に近い分布となっている。また、「二次予防」及び「要支援」については、「一般」と「要介護」の間に分布していることが分かる。

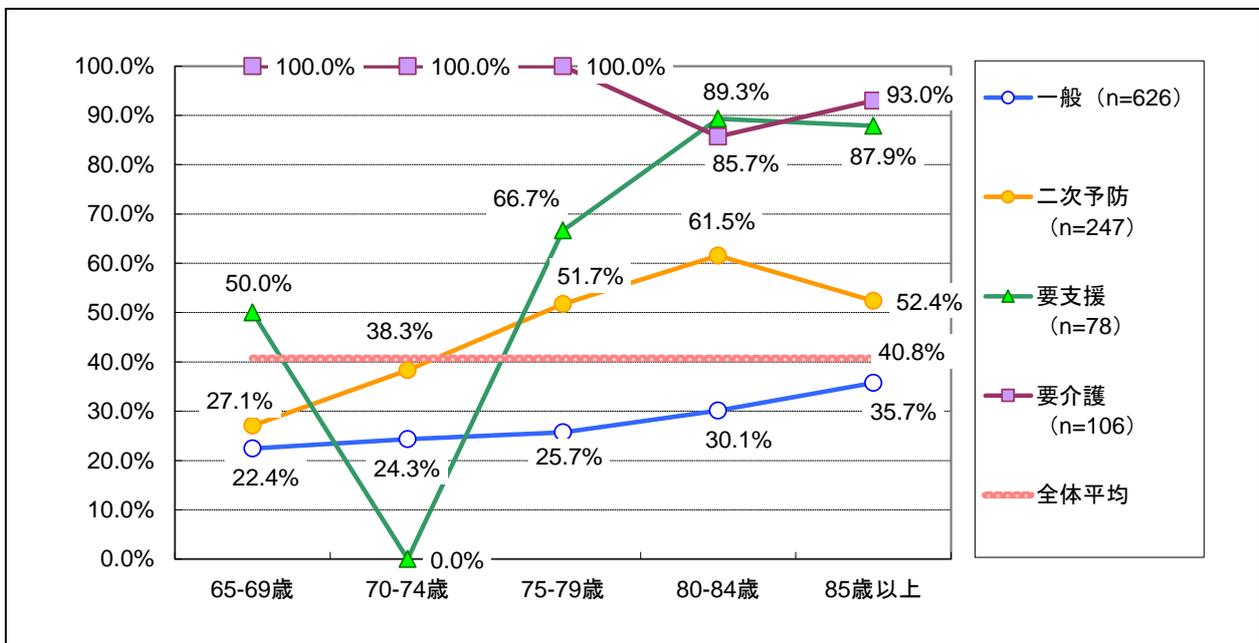
15 知的能動性

(1) 男女・年齢階級別該当状況



知的能動性について、男女別、年齢階級別に低下者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっており、特に「女性」は「75-79歳」階級から高い数値の上昇傾向を示し、以降の年齢階級で「男性」の数値を上回っていることが分かる。

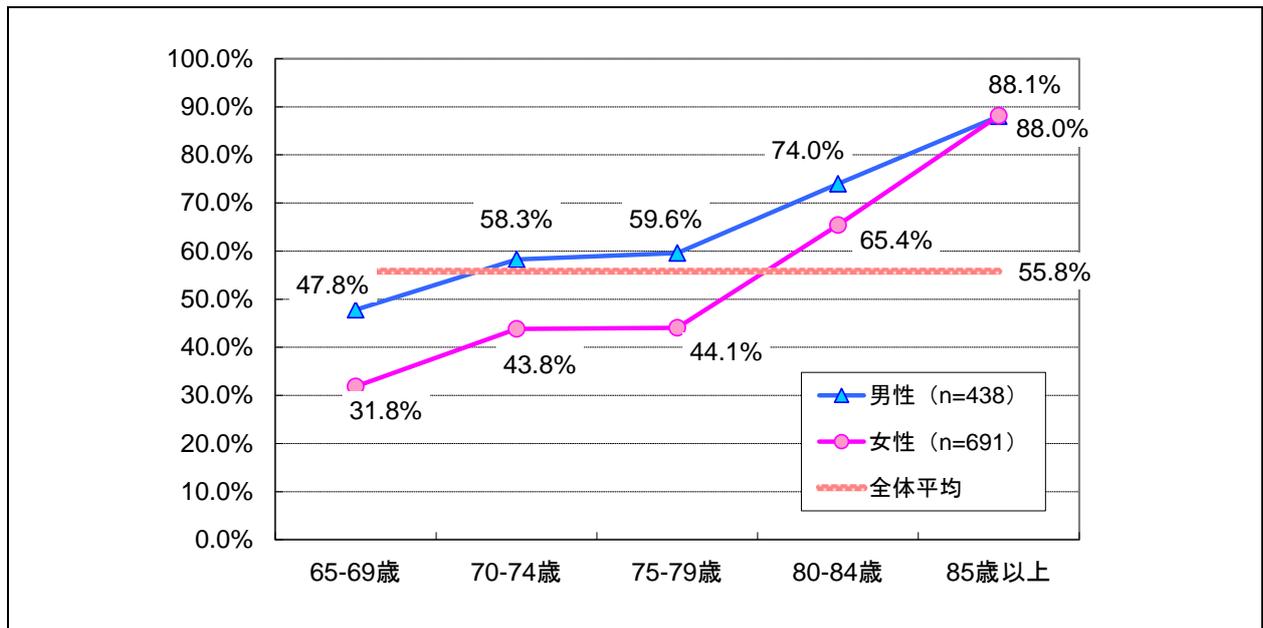
(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



知的能動性について、認定状況別、年齢階級別に該当者割合をみると、「要支援」の「70-74歳」年齢階級を除き、ほぼ「一般」、「二次予防」、「要支援」、「要介護」の序列順に数値が高くなっていくことが分かる。

16 社会的役割

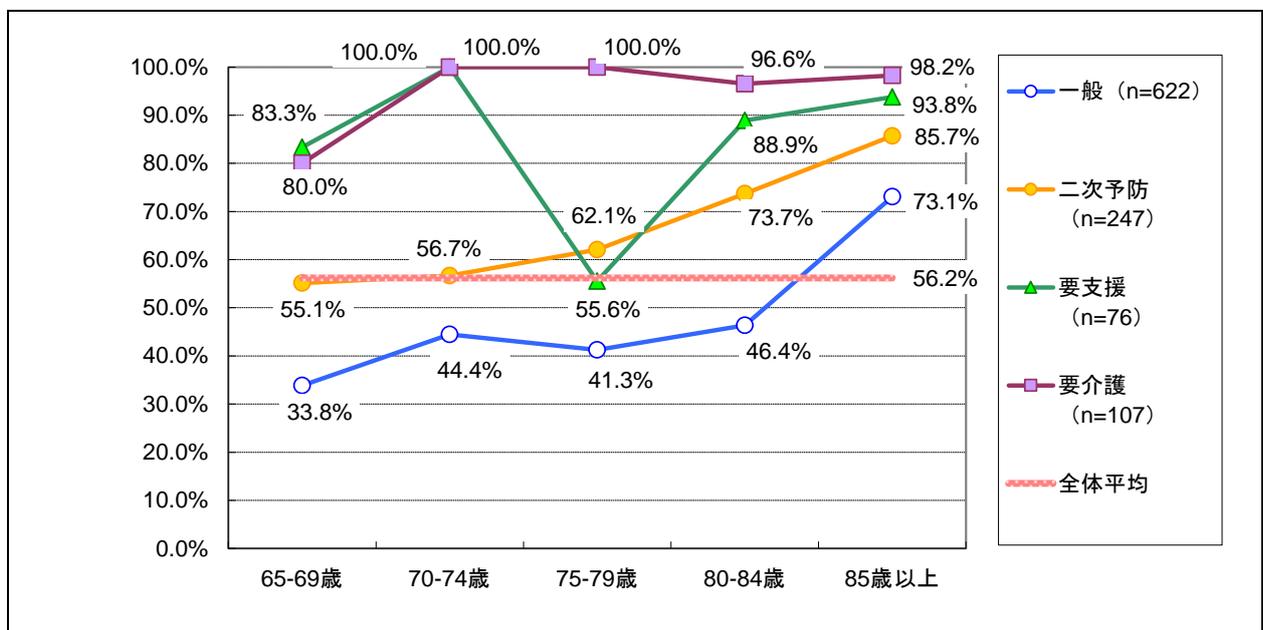
(1) 男女・年齢階級別該当状況



社会的役割について、男女別、年齢階級別に低下者割合をみると、「男性」、「女性」いずれも年齢が上がるにつれて数値が高くなっているほか、いずれの年齢階級においても「男性」の数値が「女性」の数値を上回っていることが分かる。

(「85歳以上」の年齢階級では、「女性」が0.1%「男性」を上回る数値となっている。)

(2) 認定状況・年齢階級別該当状況



社会的役割について、認定状況別、年齢階級別に低下者割合をみると、「要支援」の「75-79歳」階級で低い数値がみられるものの、総じて、「一般」、「二次予防」、「要支援」、「要介護」の序列順に数値が高くなっていると言える。

IV 調査結果③ 【各地区のリスク該当状況】

各地区の対象者の基本属性（年齢・性別・要介護認定状況）

本章における地区の分類については、p 8における9つの居住地区のうち、「扇洲地区」「檜山地区」「鶴形地区」の3地区を「東部地区」に、さらに「二ツ井地区」「富根地区」の2地区を「二ツ井地区」に統合し、①本庁地区、②南地区、③向能代地区、④東部地区、⑤常盤地区、⑥二ツ井地区の6地区としている。

■年齢

上段:度数 下段:%	年齢					
	合計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
全体	1,194	274	274	257	196	193
	100.0%	22.9%	22.9%	21.5%	16.4%	16.2%
本庁地区	530	120	131	114	90	75
	100.0%	22.6%	24.7%	21.5%	17.0%	14.2%
南地区	123	40	25	24	19	15
	100.0%	32.5%	20.3%	19.5%	15.4%	12.2%
向能代地区	146	37	38	31	17	23
	100.0%	25.3%	26.0%	21.2%	11.6%	15.8%
東部地区	91	20	17	18	25	11
	100.0%	22.0%	18.7%	19.8%	27.5%	12.1%
常盤地区	29	5	3	7	4	10
	100.0%	17.2%	10.3%	24.1%	13.8%	34.5%
二ツ井地区	275	52	60	63	41	59
	100.0%	18.9%	21.8%	22.9%	14.9%	21.5%

年齢については、「常盤地区」、「東部地区」、「二ツ井地区」では後期高齢者比率が相対的に高く、逆に「南地区」、「向能代地区」では相対的に低い。

■性別

上段:度数 下段:%	性別		
	合計	男	女
全体	1,194	462	732
	100.0%	38.7%	61.3%
本庁地区	530	201	329
	100.0%	37.9%	62.1%
南地区	123	52	71
	100.0%	42.3%	57.7%
向能代地区	146	59	87
	100.0%	40.4%	59.6%
東部地区	91	38	53
	100.0%	41.8%	58.2%
常盤地区	29	11	18
	100.0%	37.9%	62.1%
二ツ井地区	275	101	174
	100.0%	36.7%	63.3%

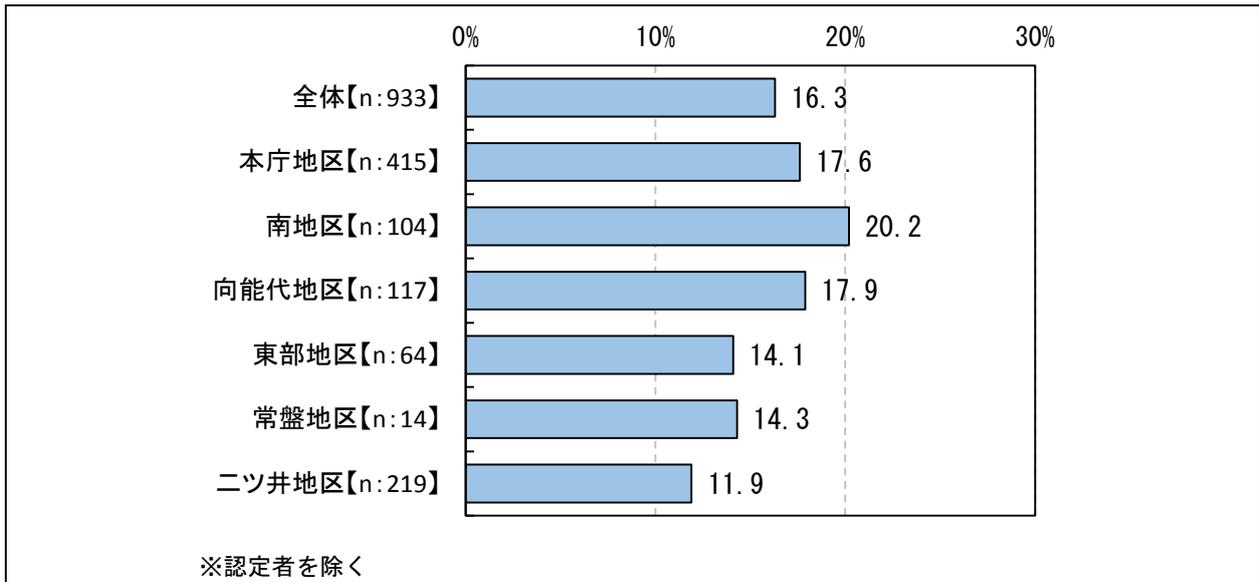
男女比については、「二ツ井地区」、「常盤地区」、「本庁地区」で、「女」の構成比が相対的に高くなっている。

■要支援・要介護認定状況

上段:度数 下段:%	要介護度								
	合計	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	1,194	989	54	29	42	22	21	23	14
	100.0%	82.8%	4.5%	2.4%	3.5%	1.8%	1.8%	1.9%	1.2%
本庁地区	530	438	29	13	17	8	9	11	5
	100.0%	82.6%	5.5%	2.5%	3.2%	1.5%	1.7%	2.1%	0.9%
南地区	123	109	3	3	4	1	1	2	-
	100.0%	88.6%	2.4%	2.4%	3.3%	0.8%	0.8%	1.6%	-
向能代地区	146	127	5	2	2	1	6	2	1
	100.0%	87.0%	3.4%	1.4%	1.4%	0.7%	4.1%	1.4%	0.7%
東部地区	91	69	2	-	8	3	1	2	6
	100.0%	75.8%	2.2%	-	8.8%	3.3%	1.1%	2.2%	6.6%
常盤地区	29	18	4	2	2	2	-	-	1
	100.0%	62.1%	13.8%	6.9%	6.9%	6.9%	-	-	3.4%
二ツ井地区	275	228	11	9	9	7	4	6	1
	100.0%	82.9%	4.0%	3.3%	3.3%	2.5%	1.5%	2.2%	0.4%

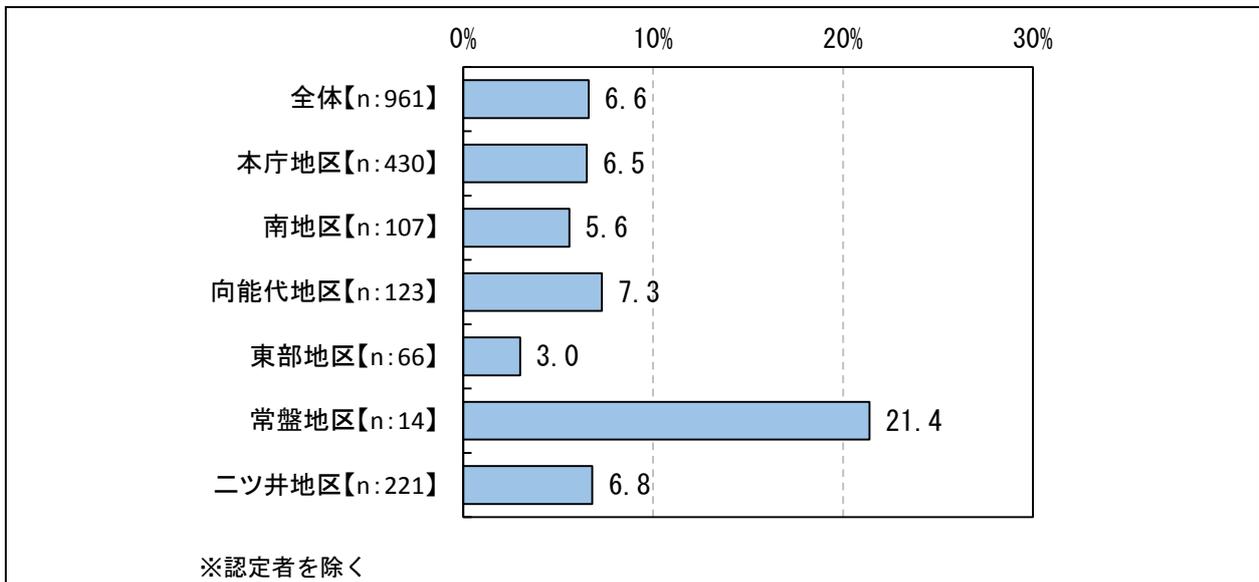
要支援・要介護認定を受けていない「自立」の割合は、「南地区」で88.6%と最も高く、逆に、「常盤地区」では62.1%と最も低い。「東部地区」は7割以上、その他の3地区は8割以上を占めている。

1 運動器



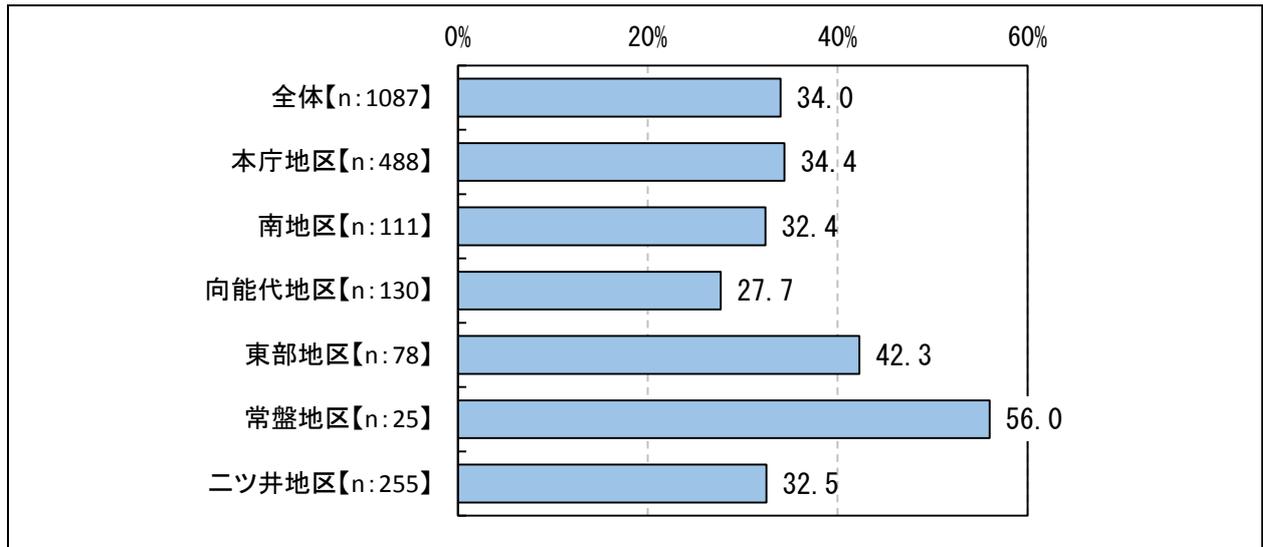
運動器リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「南地区」で最も高い数値を示す一方、「二ツ井地区」では最も低い数値となっている。

2 閉じこもり



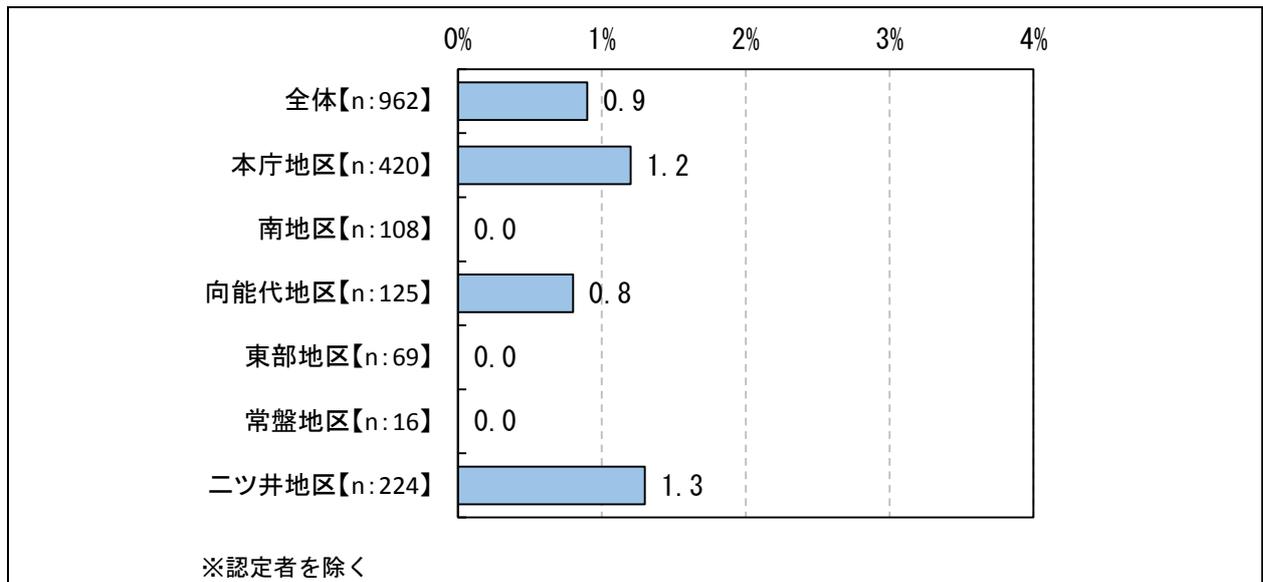
閉じこもりリスクについて、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」で突出して高い数値を示す一方、「東部地区」、「南地区」では相対的に低い数値となっている。

3 転倒



転倒リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」、「東部地区」で相対的に高い数値を示す一方、「向能代地区」では最も低い数値となっている。

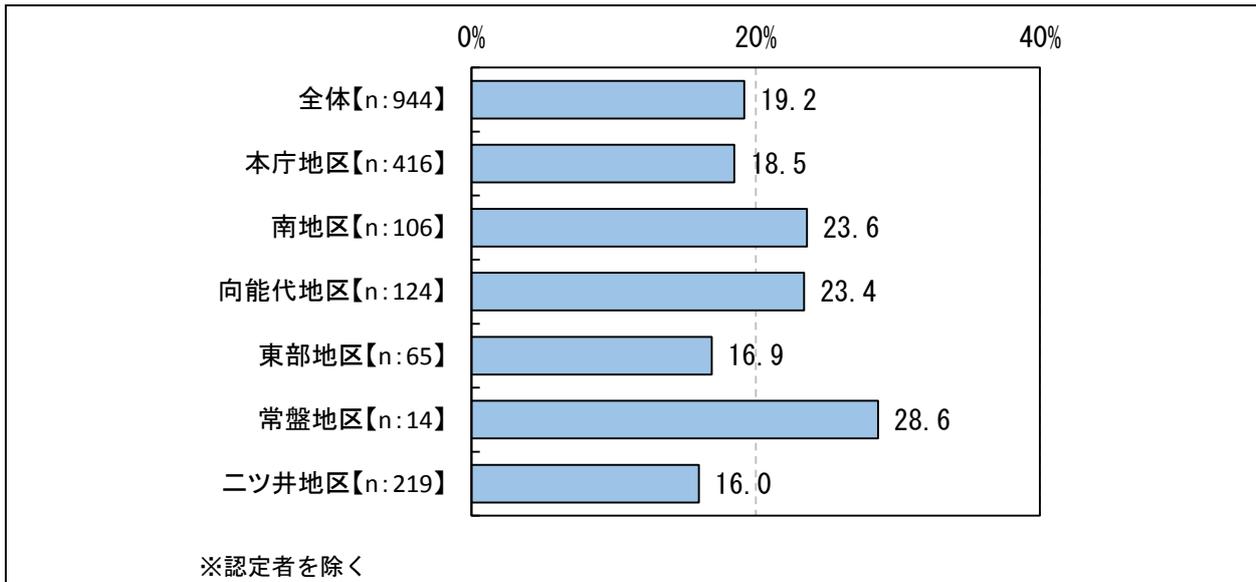
4 栄養



栄養リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「ニツ井地区」、「本庁地区」で相対的に高い数値を示している。

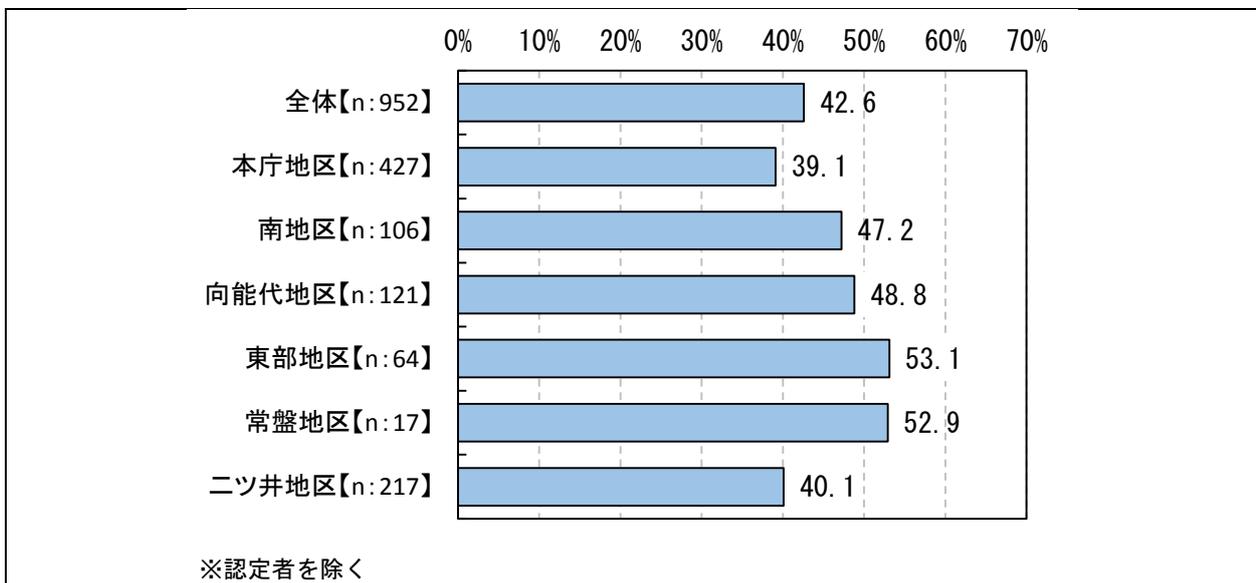
また、「南地区」、「東部地区」、「常盤地区」には、該当者がいなかった。

5 口腔



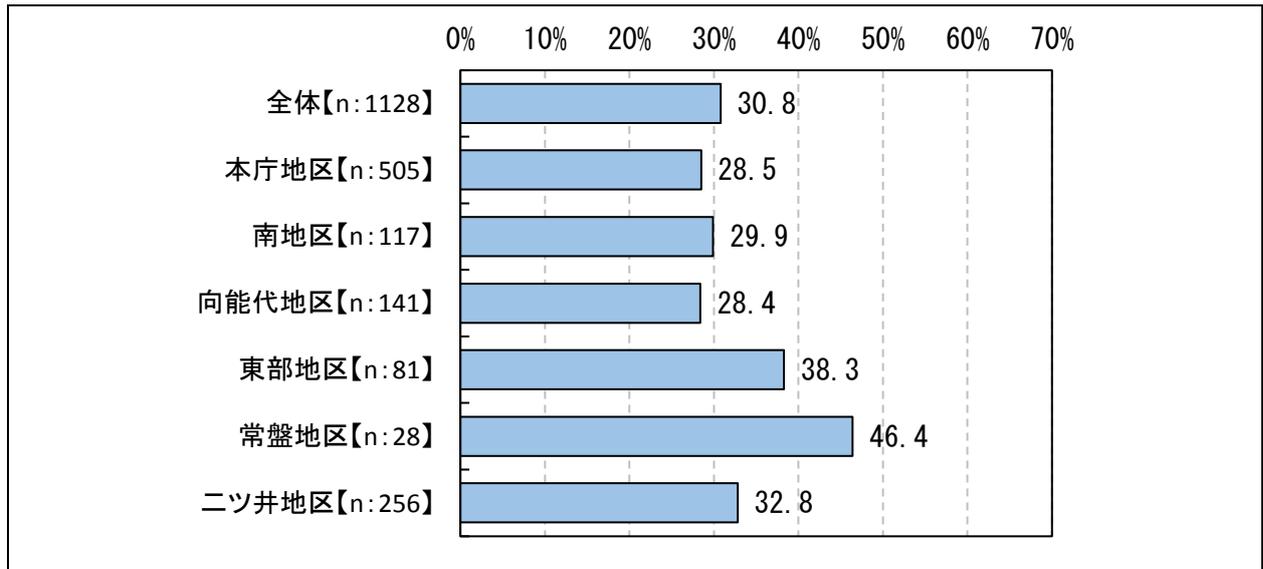
口腔リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」において突出して高い数値を示す一方、「ニツ井盤地区」では最も低い数値となっている。

6 認知症予防



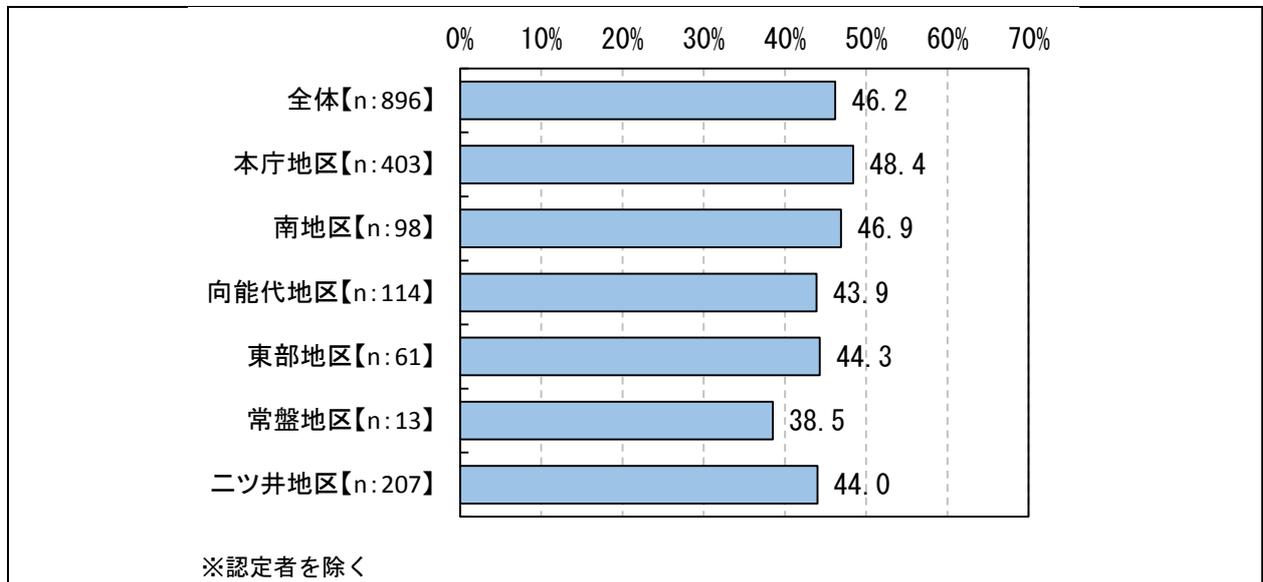
認知症予防について、地区別に該当者割合をみると、「東部地区」で最も高い数値を示しているほか、「南地区」、「向能代地区」、「常盤地区」で全体の数値を上回っている。

7 認知機能障害程度（CPS）



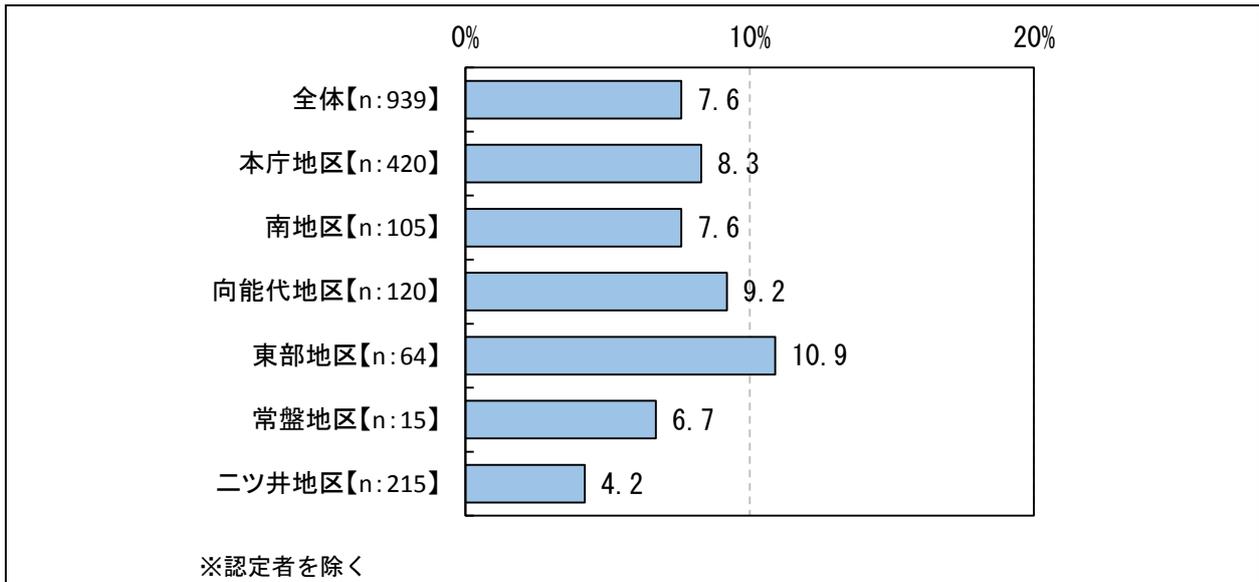
認知機能障害程度（CPS）について、地区別にリスク者割合をみると、「常盤地区」で最も高い数値を示している。「常盤地区」で相対的に高く、逆に「本庁地区」、「向能代地区」は、相対的に低い数値となっている。

8 うつ予防



うつ予防について、地区別に該当者割合をみると、「本庁地区」で最も高く、「南地区」も「全体」の値を越えている。一方、「常盤地区」が最も低い数値を示している。

9 虚弱

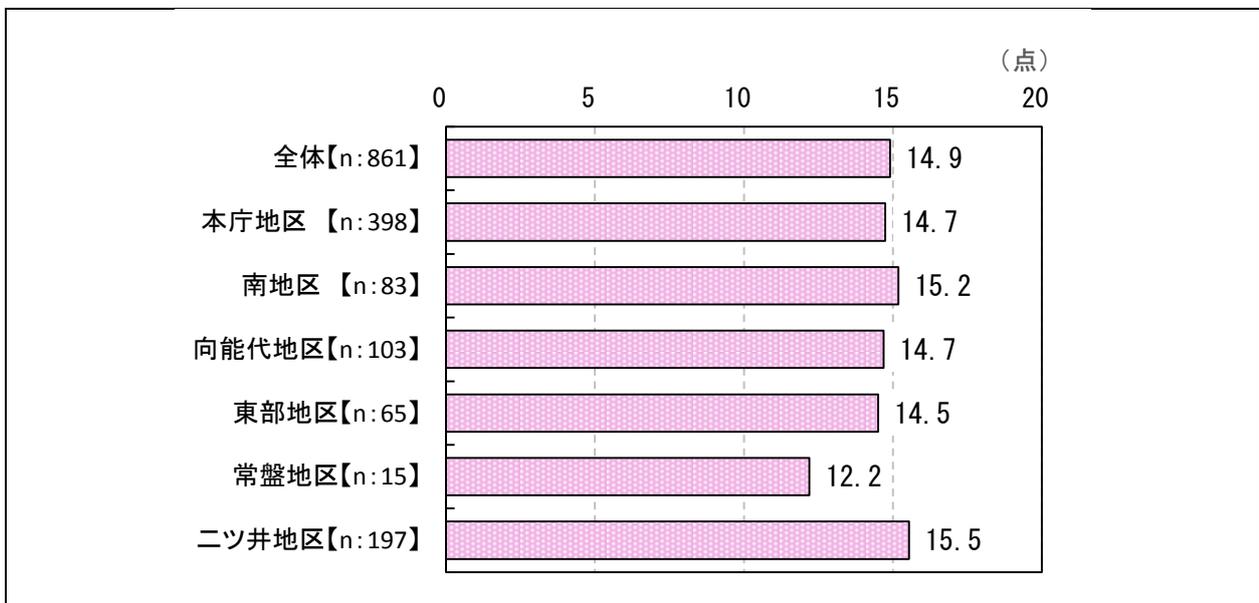


虚弱判定について、地区別に該当者割合をみると、「東部地区」、「向能代地区」で相対的に高い数値を示す一方、「二ツ井地区」が最も低い数値となっている。

なお、「二ツ井地区」、「常盤地区」以外の地区は、いずれも「全体」の数値以上となっている。

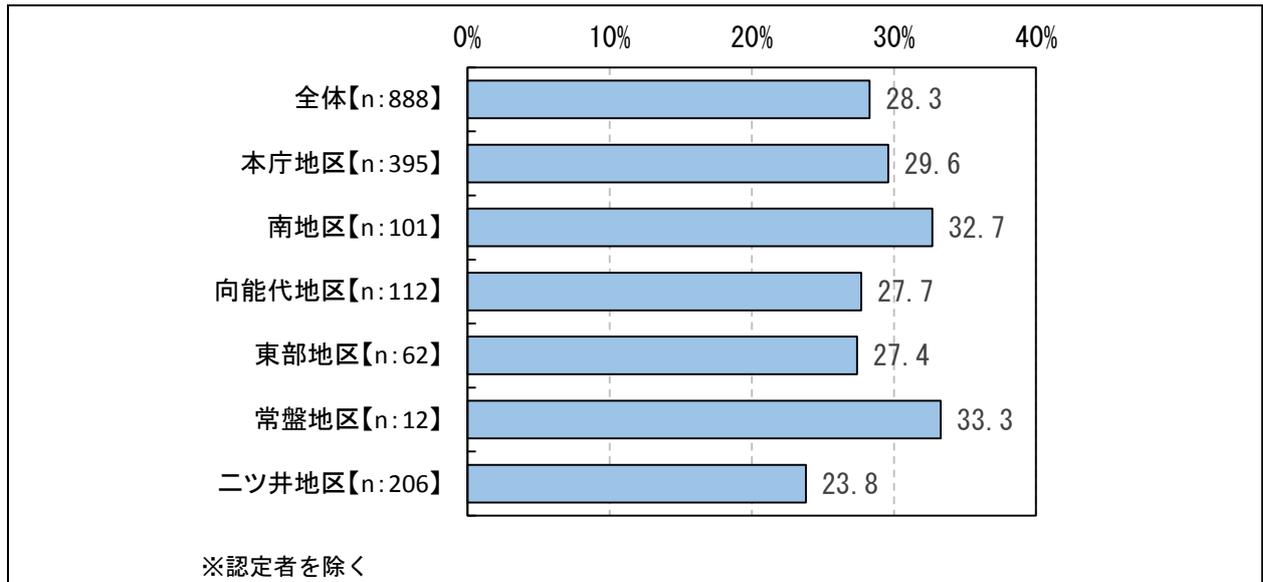
10 基本チェックリスト得点

※この項目の指標はリスク該当者割合でなく、肯定的な数値であることに注意。



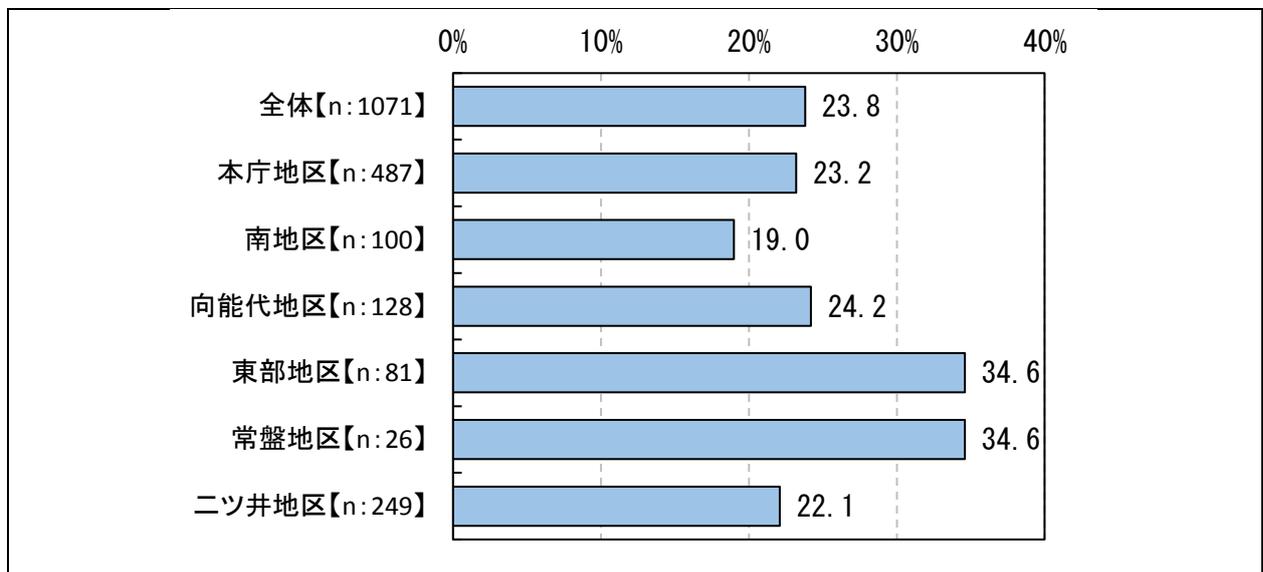
基本チェックリストについて、地区別に平均得点をみると、「常盤地区」が最も低い数値を示し、その他の地域は、ほぼ同様の数値となっている。

11 二次予防対象者



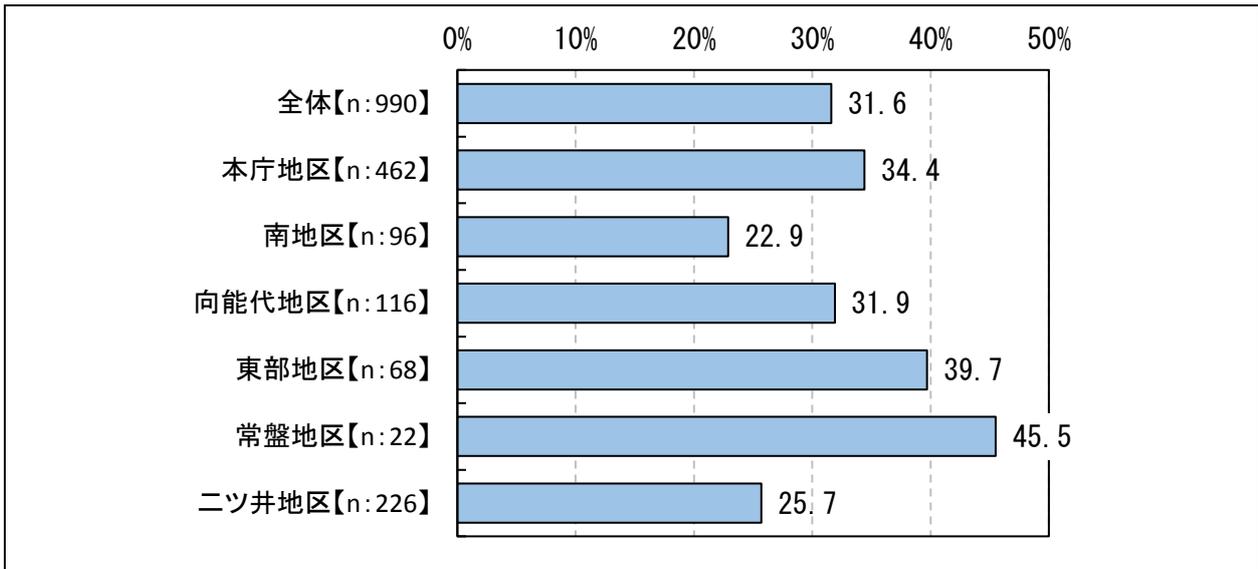
二次予防対象者について、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」、「南地区」が相対的に高い数値を示しており、一方、「ニツ井地区」が最も低い数値を示している。

12 手段的自立度 (IADL)



手段的自立度 (IADL) について、地区別に低下者割合をみると、「東部地区」、「常盤地区」で他の地区よりも突出して高い数値を示している。一方、「南地区」では最も低い数値を示している。

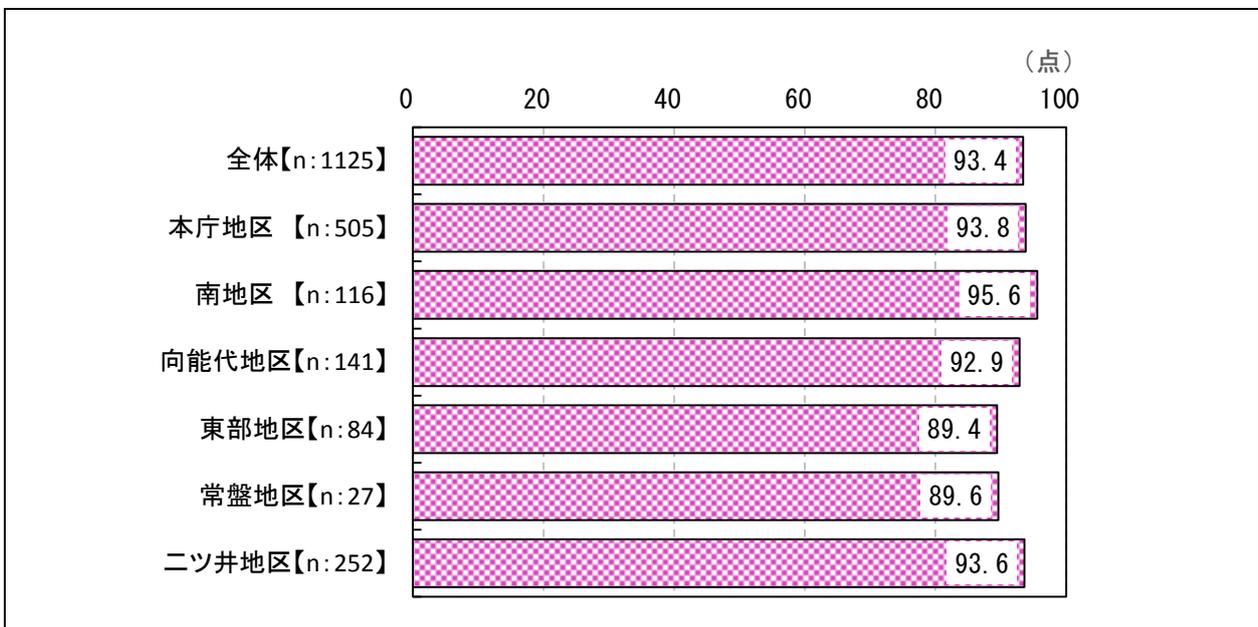
13 生活機能総合評価



生活機能総合評価について、地区別に低下者割合をみると、「常盤地区」で突出して高い数値を示す一方、「南地区」、「二ツ井地区」では相対的に低い数値となっている。

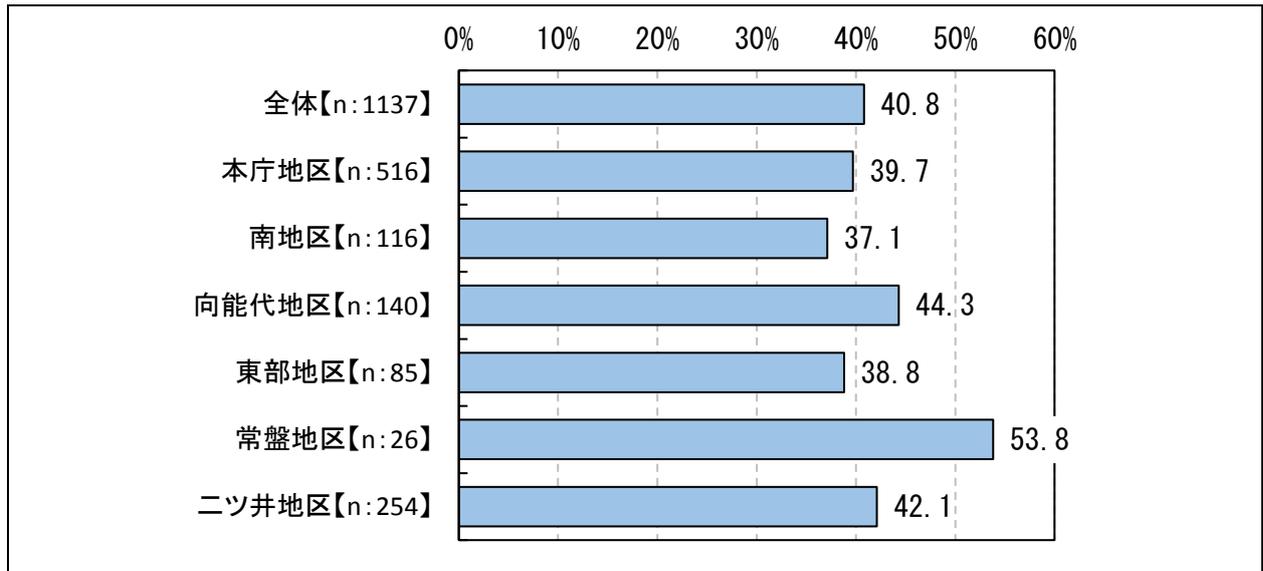
14 日常生活動作（ADL）

※この項目の指標はリスク該当者割合でなく、肯定的な数値であることに注意。



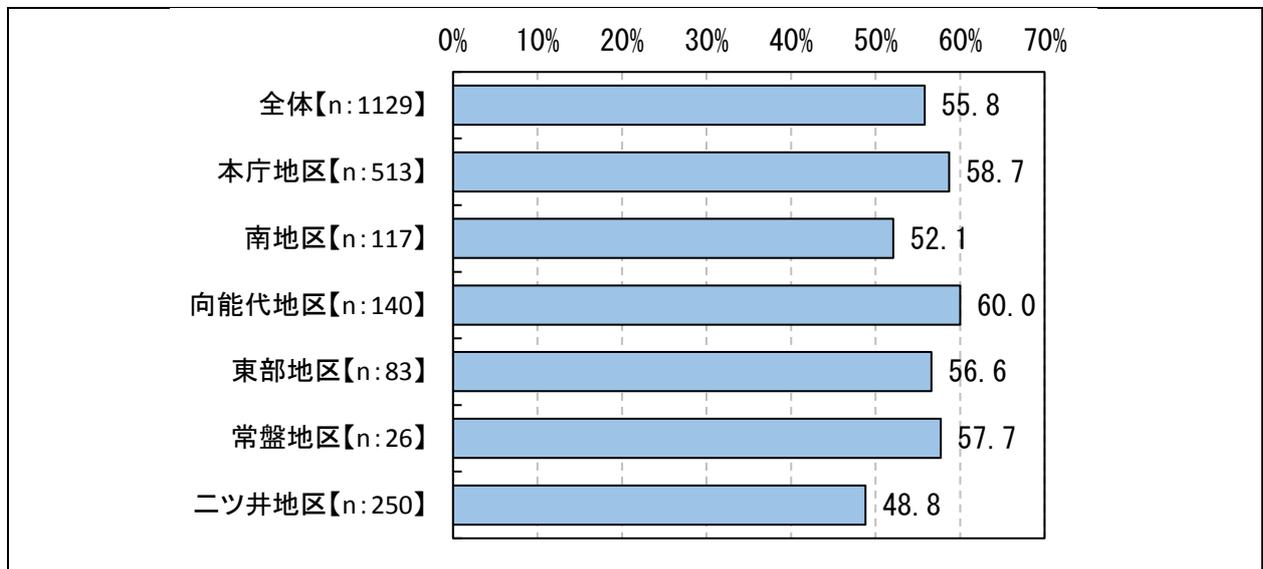
日常生活動作（ADL）について、地区別に平均得点をみると、「東部地区」、「常盤地区」で相対的に低い数値を示している。

15 知的能動性



知的能動性について、地区別に低下者割合をみると、「常盤地区」で最も高いほか、「向能代地区」、「二ツ井地区」でも相対的に高い数値を示す一方、「南地区」、「東部地区」では相対的に低い数値となっている。

16 社会的役割



社会的役割について、地区別に低下者割合をみると、「向能代地区」で最も高い数値を示す一方、「南地区」、「二ツ井地区」では相対的に低い数値となっている。

参考資料【判定方法】

判定方法

1 基本チェックリスト

(1) 運動器

運動器の判定に関しては、下記設問5点満点中、3点以上がリスクありと判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0: はい	1: いいえ
問2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	0: はい	1: いいえ
問2-Q3	15分位続けて歩いていますか。	0: はい	1: いいえ
問3-Q1	この1年間に転んだことがありますか。	1: はい	0: いいえ
問3-Q2	転倒に対する不安は大きいですか。	1: はい	0: いいえ

(2) 閉じこもり予防

閉じこもり予防の判定に関しては、下記設問1点以上がリスクありと判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問2-Q5	週に1回以上は外出していますか。	0: はい	1: いいえ

(3) 転倒リスク

転倒リスクの判定に関しては、下記設問13点満点中、6点以上がリスクありと判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問3-Q1	この1年間に転んだことがありますか。	5: はい	0: いいえ
問3-Q3	背中が丸くなってきましたか	2: はい	0: いいえ
問3-Q4	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2: はい	0: いいえ
問3-Q5	杖を使っていますか	2: はい	0: いいえ
問8-Q3	現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか	2: 5種類以上	0: それ以外

(4) 栄養

栄養の判定に関しては、下記設問2点満点中、2点がリスクありと判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問4-Q1	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1: はい	0: いいえ
問4-Q2	BMIが18.5未満か。(身長・体重よりBMIを算出)	1: はい	0: いいえ

(5) 口腔

口腔の判定に関しては、下記設問3点満点中、2点以上がリスクありと判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問4-Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1: はい	0: いいえ
問4-Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1: はい	0: いいえ
問4-Q5	口の渇きが気になりますか。	1: はい	0: いいえ

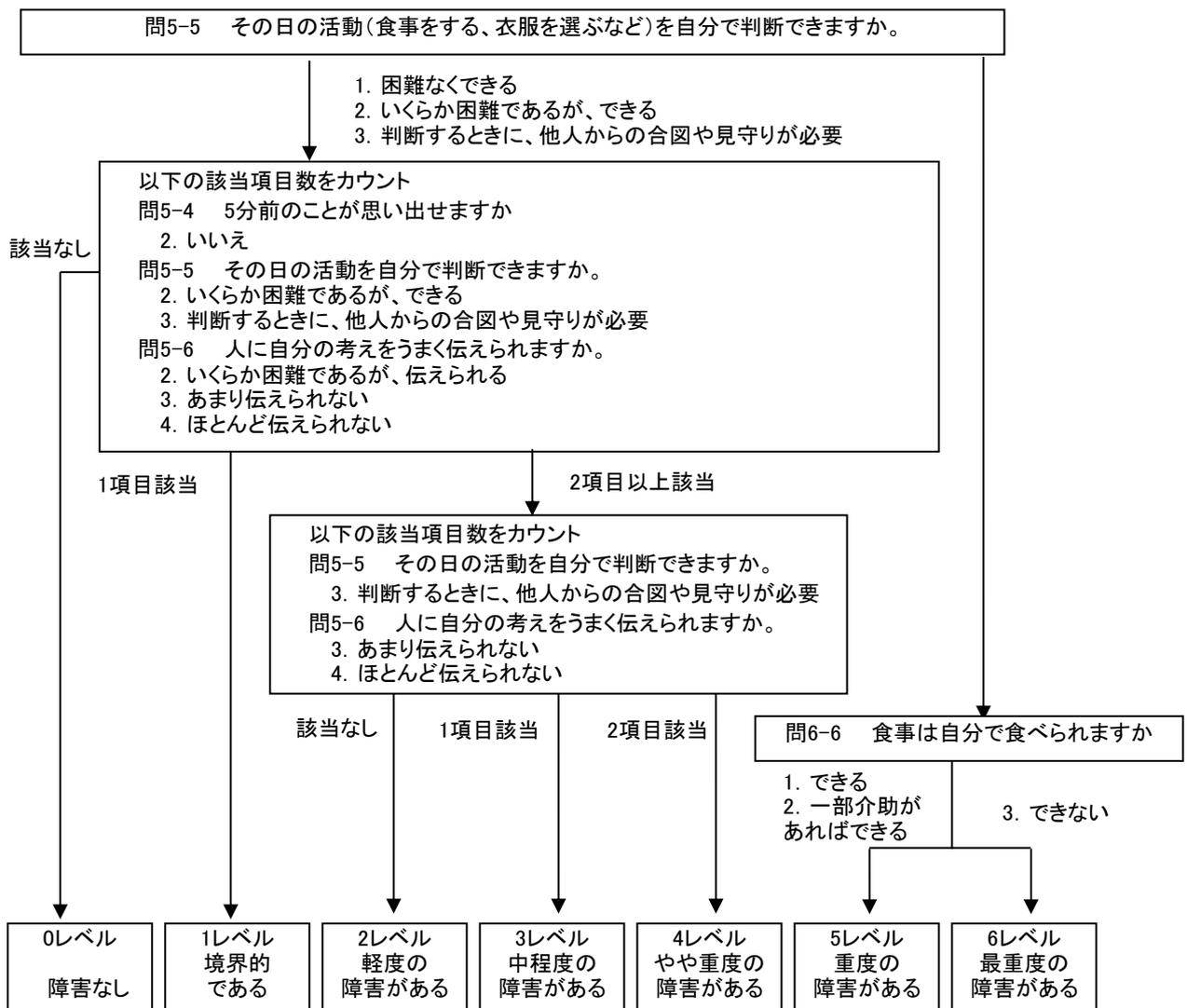
(6) 認知症予防

認知症予防の判定に関しては、下記設問3点満点中、1点以上が該当者と判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問5-Q1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。	1: はい	0: いいえ
問5-Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	0: はい	1: いいえ
問5-Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか。	1: はい	0: いいえ

(7) 認知機能

設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）までの評価を行う。判定方法は、下記のとおり。



(8) うつ予防

うつ予防の判定に関しては、下記設問5点満点中、2点以上が該当者と判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問8-Q8	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない。	1:はい	0:いいえ
問8-Q9	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。	1:はい	0:いいえ
問8-Q10	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。	1:はい	0:いいえ
問8-Q11	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない。	1:はい	0:いいえ
問8-Q12	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする。	1:はい	0:いいえ

(9) 虚弱

虚弱の判定に関しては、下記設問20点満点中、10点以上がリスクありと判定される。

設問番号	設問内容	回答と配点	
問6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)。	0:はい	1:いいえ
問6-Q2	日用品の買物をしていますか。	0:はい	1:いいえ
問6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか。	0:はい	1:いいえ
問7-Q5	友人の家を訪ねていますか。	0:はい	1:いいえ
問7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか。	0:はい	1:いいえ
問2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0:はい	1:いいえ
問2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	0:はい	1:いいえ
問2-Q3	15分位続けて歩いていますか。	0:はい	1:いいえ
問3-Q1	この1年間に転んだことがありますか。	1:はい	0:いいえ
問3-Q2	転倒に対する不安は大きいですか。	1:はい	0:いいえ
問4-Q1	6カ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか。	1:はい	0:いいえ
問4-Q2	BMIが18.5未満か。(身長・体重よりBMIを算出)	1:はい	0:いいえ
問4-Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1:はい	0:いいえ
問4-Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1:はい	0:いいえ
問4-Q5	口の渇きが気になりますか。	1:はい	0:いいえ
問2-Q5	週に1回以上は外出していますか。	0:はい	1:いいえ
問2-Q6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1:はい	0:いいえ
問5-Q1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。	1:はい	0:いいえ
問5-Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	0:はい	1:いいえ
問5-Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか。	1:はい	0:いいえ

(10) 二次予防対象者

二次予防対象者に関しては、上記「(1)運動」「(4)栄養」「(5)口腔」「(9)虚弱」の4つの項目のうち、1つでもリスクがある場合に、該当者と判定される。

2 日常生活動作（ADL）

日常生活動作（ADL）に関して、下記項目ごとの配点の最高점에該当する場合は、各項目において自立と判定される。

日常生活動作（ADL）全体に関しては、各設問の合計が100点の場合に自立と判定される。

問番号	項目	配点	選択肢
問6-Q6	食事	10:	「1.できる」
		5:	「2.一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」
		0:	「3.できない」
問6-Q7	ベッドへの移動	15:	「1.受けない」
		10:	「2.一部介助があればできる」
		5:	「3.全面的な介助が必要」 （問6-8の回答が「1.できる」「2.支えが必要」の場合）
		0:	「3.全面的な介助が必要」 （問6-8の回答が「3.できない」の場合）
問6-Q9	整容	5:	「1.できる」
		0:	「2.一部介助があればできる」または「3.できない」
問6-Q10	トイレ	10:	「1.できる」
		5:	「2.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」
		0:	「3.できない」
問6-Q11	入浴	5:	「1.できる」
		0:	「2.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」または「3.できない」
問6-Q12	歩行	15:	「1.できる」
		5:	「2.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」
		0:	「3.できない」
問6-Q13	階段昇降	10:	「1.できる」
		5:	「2.介助があればできる」
		0:	「3.できない」
問6-Q14	着替え	10:	「1.できる」
		5:	「2.介助があればできる」
		0:	「3.できない」
問6-Q15	排便	10:	「1.ない」
		5:	「2.ときどきある」
		0:	「3.よくある」
問6-Q16	排尿	10:	「1.ない」
		5:	「2.ときどきある」
		0:	「3.よくある」

3 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

手段的自立度 (IADL) に関しては、下記設問5点満点中、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価される。

問番号	設問内容	配点	選択肢
問6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)。	1:	「1.できるし、している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q2	日用品の買物をしていますか。	1:	「1.できるし、している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q3	自分で食事の用意をしていますか。	1:	「1.できるし、している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q4	請求書の支払いをしていますか。	1:	「1.できるし、している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか。	1:	「1.できるし、している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」

(2) 生活機能総合評価

生活機能総合評価に関しては、下記設問13点満点中、11点以上を「高い」、9、10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価される。

問番号	設問内容	配点	選択肢
問6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)。	1:	「1.できるし,している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q2	日用品の買物をしていますか。	1:	「1.できるし,している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q3	自分で食事の用意をしていますか。	1:	「1.できるし,している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q4	請求書の支払いをしていますか。	1:	「1.できるし,している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか。	1:	「1.できるし,している」
		1:	「2.できるけどしていない」
		0:	「3.できない」
問7-Q1	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q2	新聞を読んでいますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q3	本や雑誌を読んでいますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q4	健康についての記事や番組に関心がありますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q5	友人の家を訪ねていますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q8	病人を見舞うことができますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」
問7-Q10	若い人に自分から話しかけることがありますか。	1:	「1.はい」
		0:	「2.いいえ」

能代市 高齢者福祉・介護保険に関するニーズ調査
調査結果報告書

平成26年8月

発行：能代市

企画・編集：能代市 長寿いきがい課
